

宜野湾市 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果報告書

(宜野湾市高齢者福祉計画・第 10 期介護保険事業計画策定資料)

令和8年3月
宜 野 湾 市

目 次

I. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 調査の目的.....	1
2. 調査の概要.....	1
3. 集計について.....	1
4. リスク判定方法.....	2

II. 調査結果

1. 回答者の基本属性等.....	7
(1)性別、年齢.....	7
(2)家族について.....	8
(3)暮らしの状況（経済的に見て）.....	10
(4)住まいについて.....	11
(5)介護の状況.....	12
(6)総合事業対象者.....	14
2. 体を動かすことについて.....	15
(1)運動器の機能低下者（リスク者）.....	15
(2)転倒リスク者.....	15
(3)閉じこもり傾向（リスク者）.....	16
(4)外出の状況.....	17
3. 食べることについて.....	19
(1)低栄養の傾向（リスク者）.....	19
(2)口腔機能低下.....	19
(3)歯の健康.....	21
(4)歯科医院の受診.....	24
(5)孤食の状況.....	25
4. 毎日の生活について.....	26
(1)認知機能.....	26
(2)I A D Lの低下者（リスク者）.....	28
(3)知的能動性の低下者（リスク者）.....	28
(4)社会的役割の低下者（リスク者）.....	29
(5)趣味や生きがい.....	30
5. 地域での活動について.....	31
(1)社会参加.....	31
(2)地域づくりへの参加意向.....	33

6. 就労について.....	35
(1)現在のあなたの就労状態.....	35
(2)引退時期.....	35
7. たすけあいについて.....	36
(1)たすけあいの状況.....	36
(2)友人、知人との交流.....	38
8. 健康について.....	40
(1)主観的健康感.....	40
(2)主観的幸福感.....	41
(3)人とふれあう機会.....	42
(4)孤独感の有無.....	42
(5)うつ傾向（リスク者）.....	43
(6)喫煙、飲酒の状況.....	44
(7)疾病の状況.....	46
(8)病院の受診.....	50
(9)耳について.....	51
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について.....	53
(1)軽度認知障害(MCI)について.....	53
(2)認知症は早期対応が重要であることを知っているか.....	53
(3)家族に認知症の方がいるか.....	54
(4)認知症に関する相談窓口を知っているか.....	54
10. その他.....	55
(1)生活し続ける中での不安.....	55
(2)希望する生活支援サービス.....	56
(3)気軽に立ち寄り交流ができる寄り合い場や広場(サロン)について.....	57
(4)地域包括支援センター.....	58
(5)介護予防の取り組み.....	58
(6)介護予防の上で重要と思われるもの.....	59
(7)介護予防に取り組むために必要なもの.....	60
(8)介護が必要になったら、どこで生活したいか.....	61
(9)最期を迎えたい場所.....	61
(10)人生会議の認知状況.....	62
(11)エンディングノートの認知状況.....	62
(12)携帯電話(折りたたみ式、スマートフォン)やタブレット等について.....	63
(13)市からの情報を知る方法.....	64
11. リスク者割合の比較.....	65
(1)圏域別の比較.....	65

(2)家族構成別の比較.....	66
(3)歯の状況別の比較.....	67
(4)社会参加別の比較.....	68
(5)主観的幸福度別の比較.....	69
(6)主観的健康観別の比較.....	70
(7)生きがいの有無別の比較.....	70
(8)孤独感の有無別の比較.....	71
(9)孤食の状況別の比較.....	72
(10)BMI別の比較.....	73
(11)暮らしの状況(経済的)別の比較	73
(12)耳の病気の有無別の比較.....	74
(13)所得段階別の比較.....	74

I. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 調査の目的

老人福祉法第20条の8の規定等に基づく高齢者福祉計画を策定する上で、高齢者の生活状況や活動状況などの必要な基礎資料を得るとともに、超高齢社会に対する意識や介護保険サービスに対する意向などの実態を把握することを目的としています。

2. 調査の概要

調査実施期間：令和7年12月2日～令和7年12月23日

調査方法：郵送による配布・回収（WEB回答を併用）

調査対象者：市内在住の65歳以上の高齢者（要介護1～5の認定者以外）

回収状況：配布数：3,000件 回収数：1,985件（回収率：66.1%）

内WEB回答：130件（回答率：4.3%）

調査内容：厚労省より示された日常生活圏域ニーズ調査設問項目をベースに独自項目を追加して作成

3. 集計について

- 各設問に示している「回答者実数」は、全員に回答してもらう設問では有効回答数と同数ですが、回答者を限定している設問では、その条件に合う人のみが対象となるため、有効回答数を下回っています。
- 集計では、小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率を合計しても100.0%にならない場合があります。
- 地区別や性別、年代別といった「クロス集計結果」については、無回答を除いて表示しています。
- 複数回答の設問については、回答数の合計が回答者実数を上回ることがあります。このため、比率の合計が100%を超える場合があります。
- 集計によっては、回答者実数が10人未満と非常に少ない場合もあり、このような集計は参考程度として見る必要があります。
- グラフや表では、選択肢を一部省略して表記している場合があります。（選択肢が長い場合など）

4. リスク判定方法

本報告書では、調査票の各設問より、運動機能低下や転倒リスクなどの「身体機能リスク判定」を行い、介護に陥りやすい高齢者の状態分析を行っています。各リスクと判定方法は以下のとおりです。

(1)運動器機能の低下

下記の設問で3問以上、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(2)転倒リスク

下記の設問で、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(3)閉じこもり傾向

下記の設問で、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

(4)低栄養傾向

下記の設問で、BMIが18.5以下となり、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
身長・体重	身長・体重から算出されるBMI(体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)})が18.5以下の場合、低栄養が疑われる
6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい 2. いいえ

(5)口腔機能の低下

下記の設問で2問以上、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ
口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ

(6)認知機能の低下

下記の設問で、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ

(7) I A D L (手段的自立度)の低下

下記の設問で、5点満点中、3点以下を「低下」として評価します。

I A D Lは、外出や買物など、自立した日常生活を送るために必要な能力の判断基準となります。

設問内容	選択肢
バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点
自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点
自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点
自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点
自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点

(8)うつ傾向

下記の設問で1問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

(9)知的能動性の低下

下記の設問で、4点満点中、2点以下を「低下」として評価します。

知的能動性は、探索、創作、余暇活動などの知的な活動をすることです。

設問内容	選択肢	
年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
新聞を読んでいますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
本や雑誌を読んでいますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点

(10)社会的役割の低下

下記の設問で、4点満点中、3点以下を「低下」として評価します。

社会的役割は、仲間と会食の機会を持ったり、地域の活動に参加したりするなど、地域で社会的な役割を果たすことです。

設問内容	選択肢	
友人の家を訪ねていますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
家族や友人の相談にのっていますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
病人を見舞うことができますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点

Ⅱ．調査結果

1. 回答者の基本属性等

(1) 性別、年齢

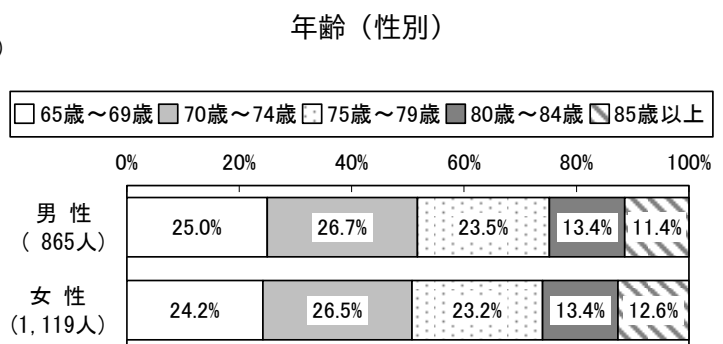
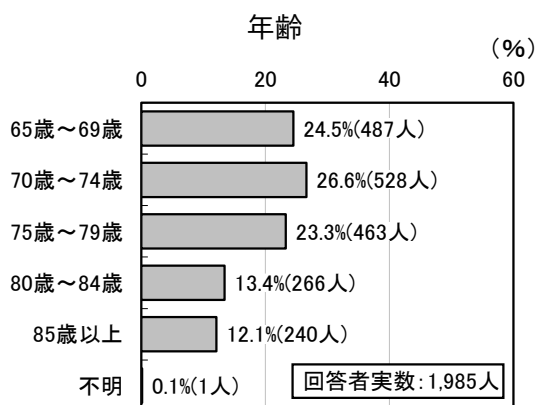
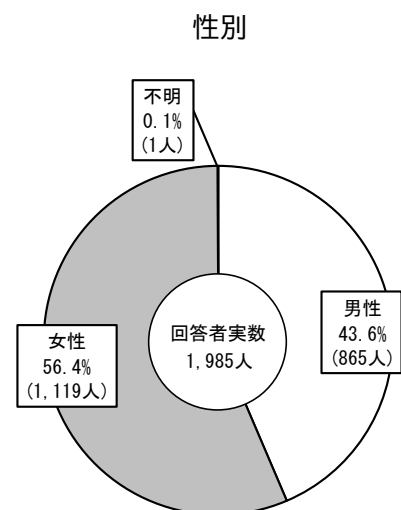
調査対象者の性別は、「男性」が43.6%（前回45.5%）、「女性」が56.4%（前回54.4%）で、女性の方が多くなっています。

年齢は、「65～69歳」が24.5%（前回28.2%）、「70～74歳」が26.6%（前回28.2%）で、これらを合わせた前期高齢者（65歳以上75歳未満）の占める割合が51.1%（前回56.4%）と、約半数となっています。前回調査での前期高齢者の割合は56.4%であり、今回は前回よりも下がっています。

年齢について圏域別にみると、「宜野湾地区」のみ後期高齢者の方が前期高齢者より多くなっていますが、その他の圏域では、前期高齢者の方が多くなっています。

年齢（性別、圏域別）

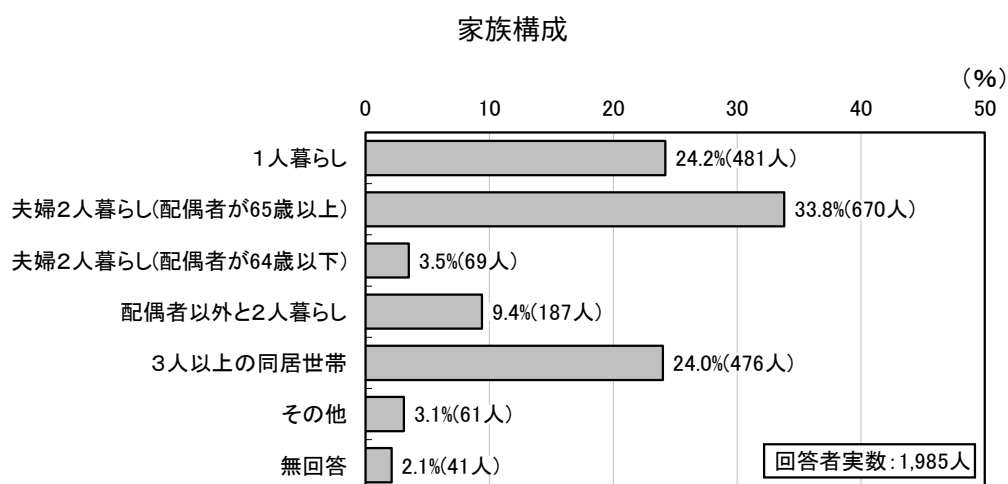
	回答者実数	前期高齢者	後期高齢者
全 体	100.0% (1,985人)	51.1% (1,015人)	48.8% (969人)
男 性	43.6% (865人)	51.7% (447人)	48.3% (418人)
女 性	56.4% (1,119人)	50.8% (568人)	49.2% (551人)
普天間地区	20.4% (405人)	52.1% (211人)	47.9% (194人)
宜野湾地区	30.4% (604人)	49.0% (296人)	51.0% (308人)
嘉数地区	21.6% (429人)	50.3% (216人)	49.7% (213人)
真志喜地区	27.5% (546人)	53.5% (292人)	46.5% (254人)



(2) 家族について

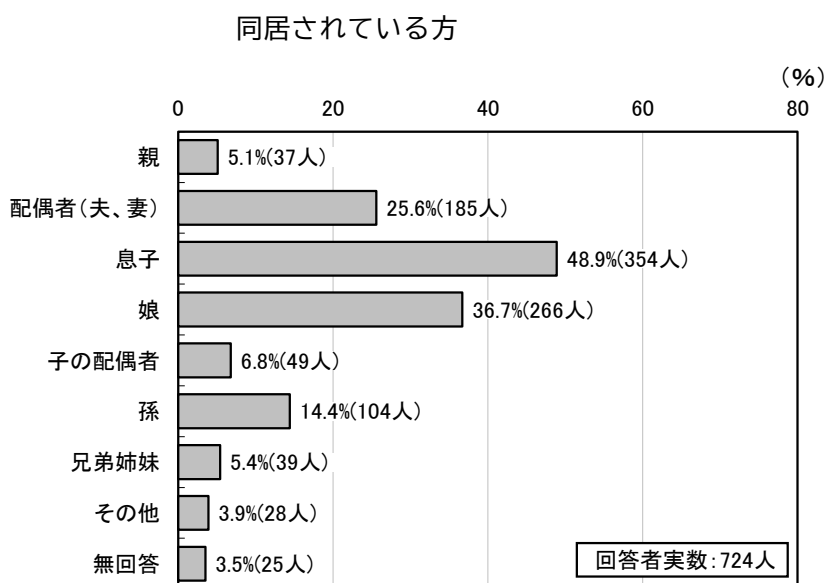
① 家族構成

家族構成をみると、「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」が33.8% (前回31.3%) で最も高く、次いで「1人暮らし」の24.2% (前回23.7%) となっています。「3人以上の同居世帯」は24.0% (前回25.6%) で、前回調査では第2位となっていたのですが、今回はわずかに1人暮らしの方が3人以上の同居世帯を上回りました。



② 同居されている方

家族構成で同居されている方を尋ねたところ、同居者では「息子」が48.9% (前回52.3%) と高く、次いで、「娘」が36.7% (前回36.5%)、「配偶者(夫、妻)」が25.6% (前回30.3%)、「孫」が14.4% (前回15.4%) と続いています。

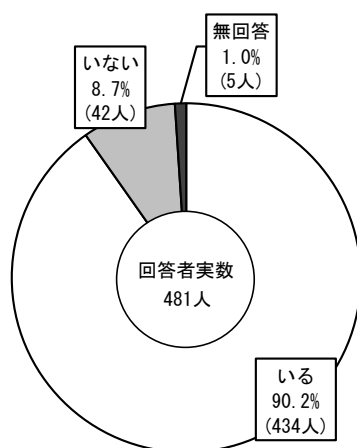


③身寄りについて

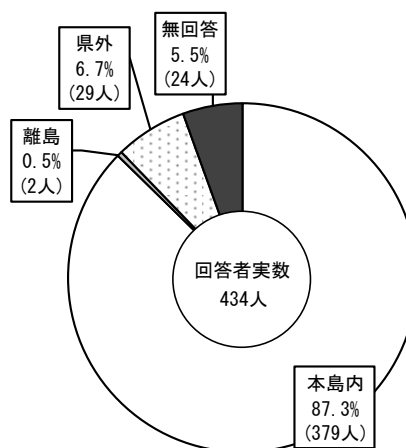
家族構成で「1人暮らし」と回答した方に身寄りがいるか尋ねたところ、「いる」が90.2%、「いない」が8.7%となっています。

「いる」と回答した方にその方の居住地を尋ねたところ、「本島内」が87.3%と高く、次いで、「県外」が6.7%、「離島」が0.5%となっています。

身寄りの有無

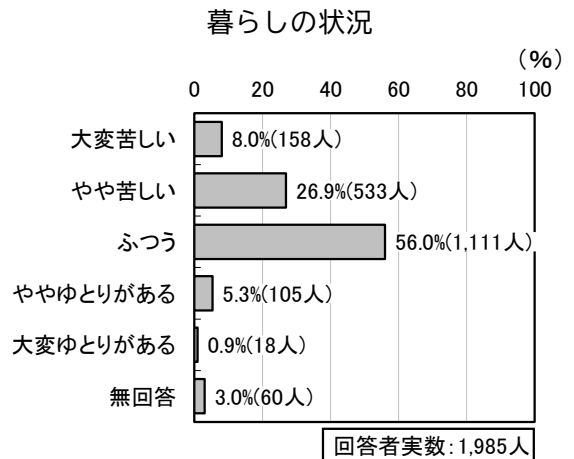


身寄りの方の居住地



(3)暮らしの状況（経済的に見て）

経済的な面での暮らしの状況を尋ねました。最も高いのは「ふつう」の56.0%（前回55.6%）と5割半ばを占めていますが、「大変苦しい」、「やや苦しい」をあわせた“苦しい”という回答が34.9%（前回34.1%）を占め、経済的な負担を感じている人も多いことがわかります。



性別でみると、回答の構成比に男女差はあまりありませんが、「やや苦しい」という回答は男性、「ふつう」では女性の方がやや高くなっています。

年齢別では、「大変苦しい」、「やや苦しい」をあわせた“苦しい”は「65歳～69歳」が最も高く38.2%で、年齢が上がると低くなる傾向が見られます。

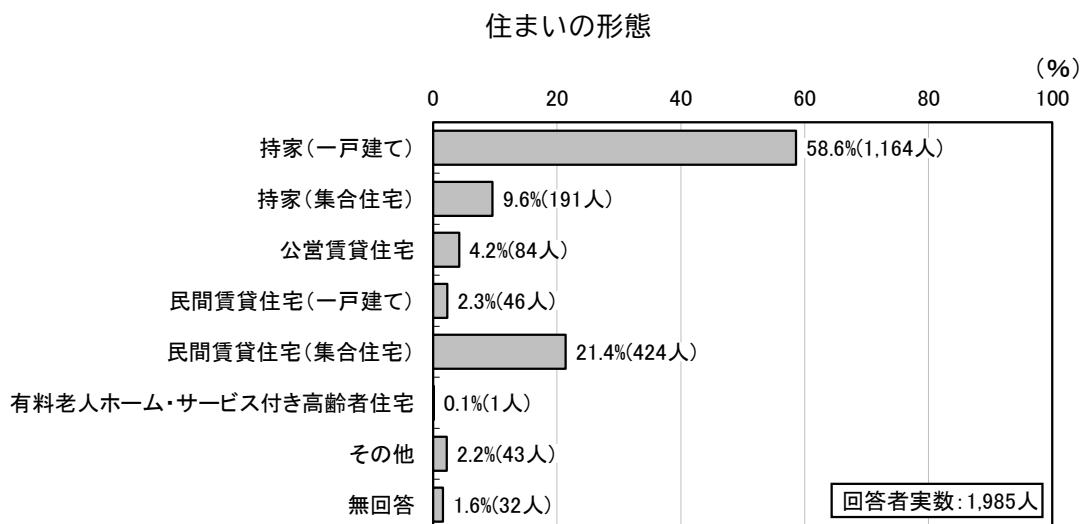
暮らしの状況（性別、年齢別）

	回答者実数	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答
男 性	865 人	8.2% (71 人)	28.4% (246 人)	54.6% (472 人)	5.9% (51 人)	1.0% (9 人)	1.8% (16 人)
女 性	1,119 人	7.8% (87 人)	25.6% (287 人)	57.0% (638 人)	4.8% (54 人)	0.8% (9 人)	3.9% (44 人)
65 歳～69 歳	487 人	8.0% (39 人)	30.2% (147 人)	54.0% (263 人)	4.5% (22 人)	0.6% (3 人)	2.7% (13 人)
70 歳～74 歳	528 人	7.8% (41 人)	25.6% (135 人)	58.0% (306 人)	4.4% (23 人)	1.1% (6 人)	3.2% (17 人)
75 歳～79 歳	463 人	8.2% (38 人)	28.3% (131 人)	56.4% (261 人)	5.0% (23 人)	0.4% (2 人)	1.7% (8 人)
80 歳～84 歳	266 人	7.9% (21 人)	22.9% (61 人)	54.9% (146 人)	7.5% (20 人)	1.1% (3 人)	5.6% (15 人)
85 歳以上	240 人	7.9% (19 人)	24.6% (59 人)	55.8% (134 人)	7.1% (17 人)	1.7% (4 人)	2.9% (7 人)

(4)住まいについて

①住まいの形態

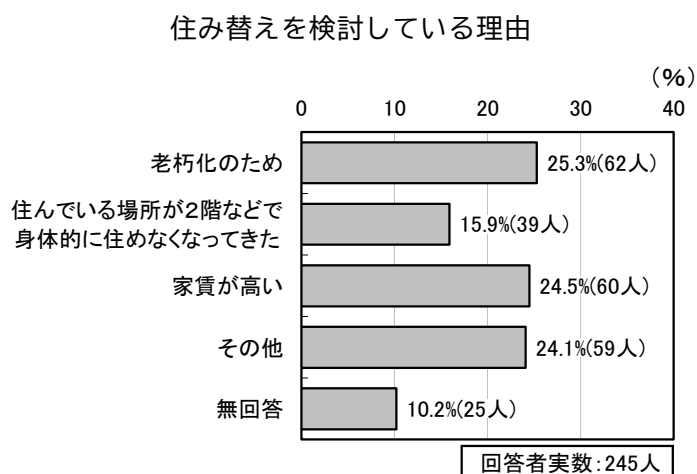
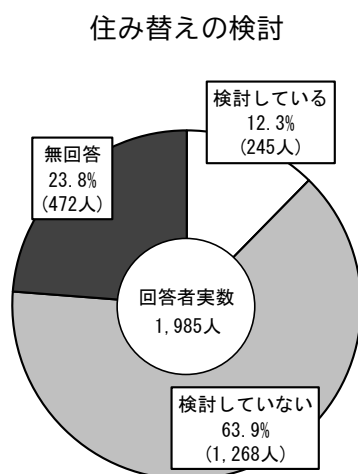
住まいについては、「持家(一戸建て)」が58.6%(前回62.5%)で圧倒的に高くなっています。



②住み替えの検討

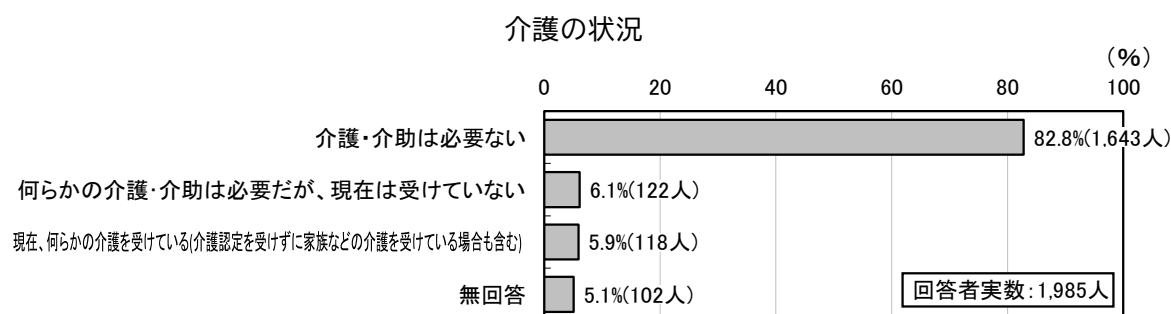
前項で回答した住居から住み替えを検討しているか尋ねたところ、「検討している」が12.3%、「検討していない」が63.9%、となっています。

「検討している」理由については、「老朽化のため」が25.3%、「家賃が高い」が24.5%、で、この2つが2割半ばとなっています。



(5)介護の状況

介護についてみると、「介護・介助は必要ない」が82.8%（前回82.5%）となっています。本調査の対象者が要介護1～5を除いた在宅の高齢者（一般高齢者と要支援者）であることから、介護を必要とする割合は低いものと考えられます。比較的元気な高齢者への調査ではありますが、12%が介護や介助を必要としており、介護認定を受けていないが介護を必要としている人が一定数見られます。また、「介護を受けている」割合は、年齢が上がるとともに上昇しており、85歳以上では23.3%に達しているほか、「介護が必要だが現在は受けていない」割合も85歳では15.4%と、1割半ばを占めています。

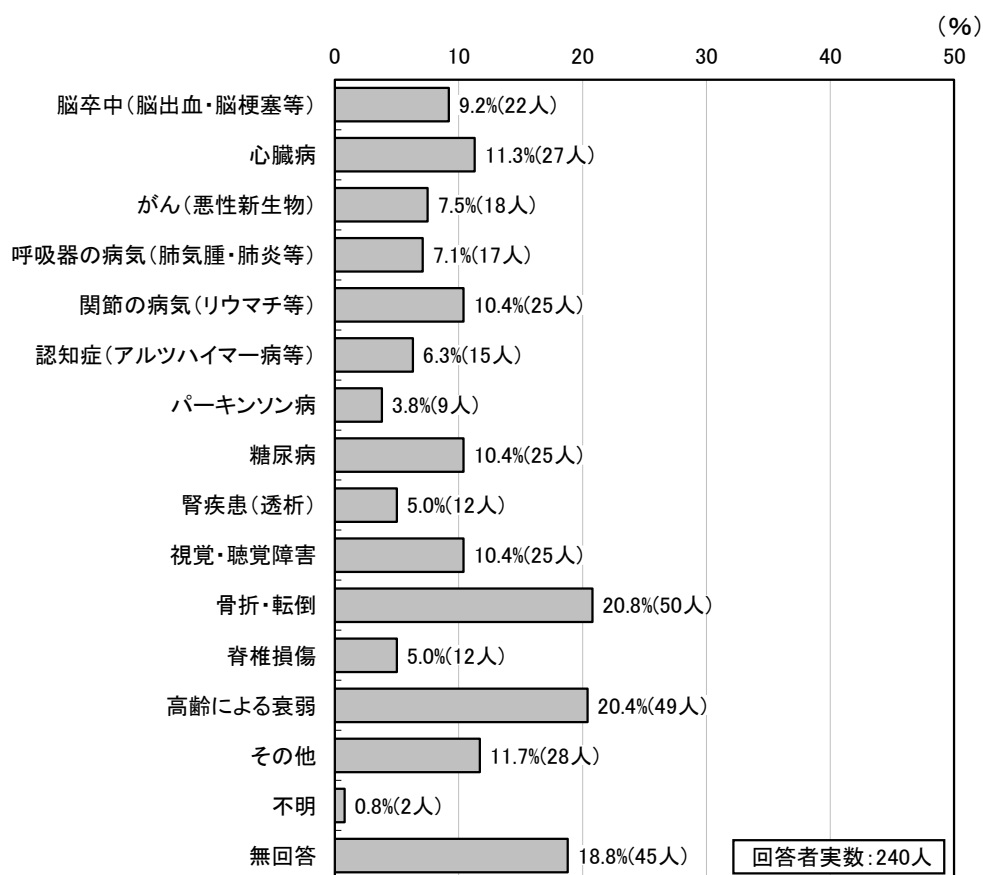


介護の状況（年齢別）

	回答者実数	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている	無回答
65歳～69歳	487人	91.6% (446人)	2.5% (12人)	1.8% (9人)	4.1% (20人)
70歳～74歳	528人	88.3% (466人)	3.2% (17人)	2.8% (15人)	5.7% (30人)
75歳～79歳	463人	85.1% (394人)	5.6% (26人)	4.3% (20人)	5.0% (23人)
80歳～84歳	266人	76.7% (204人)	11.3% (30人)	6.8% (18人)	5.3% (14人)
85歳以上	240人	55.0% (132人)	15.4% (37人)	23.3% (56人)	6.3% (15人)

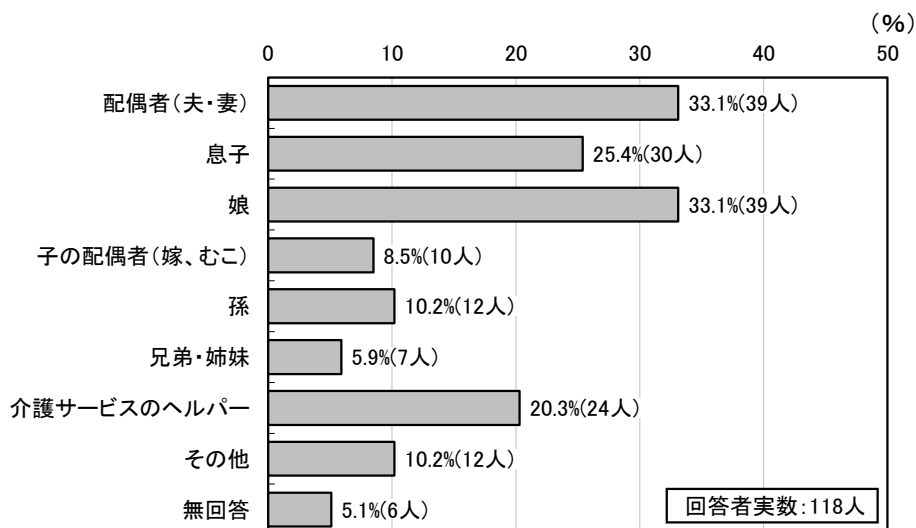
「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方に主な原因を尋ねたところ、「骨折・転倒」が20.8%、「高齢による衰弱」が20.4%で高くなっています。

介護・介助が必要になった主な原因



「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人の主な介護者をみると、「娘」と「配偶者(夫・妻)」がともに 33.1%で最も高くなっています。また、「息子」が 25.4%でこれらに次いでいます。前回調査は「娘」(43.2%)、「息子」(35.8%)、「配偶者(夫・妻)」(22.2%)、「介護サービスのヘルパー」(17.3%)であり、今回は「娘」(33.1%)の割合が下がり、「配偶者」(33.1%)や「ヘルパー」(20.3%)の割合が上がっています。

主な介護者



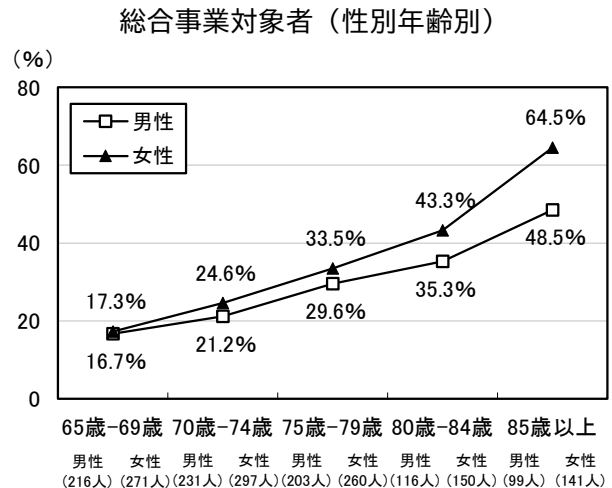
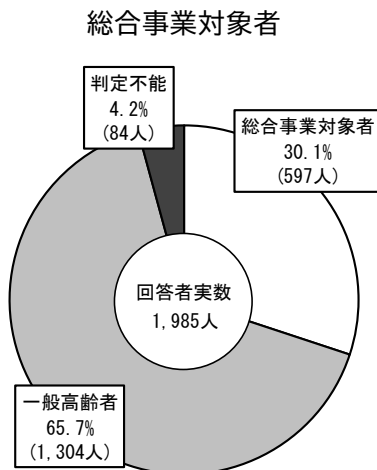
(6) 総合事業対象者

調査結果より身体機能低下者を集計し、これを総合事業対象者として要介護状態に陥るおそれのある人の把握を行いました。

※本調査で言う「総合事業対象者」は、市が実際に基本チェックリストにより把握した総合事業対象者ではなく、本調査票を回答することで把握された“総合事業対象者に該当する人”という位置づけになります。

総合事業対象者についてみると、対象となる人は 30.1%で、3 割を占めています。

性別年齢別でみると、男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるとともにこの割合が上昇しています。65 歳～69 歳では男女ともに 2 割未満ですが、70 歳以上になると男女で差が開き始め、女性では 80 歳～84 歳で 43.3%、85 歳以上では 64.5%と大幅に上昇しています。



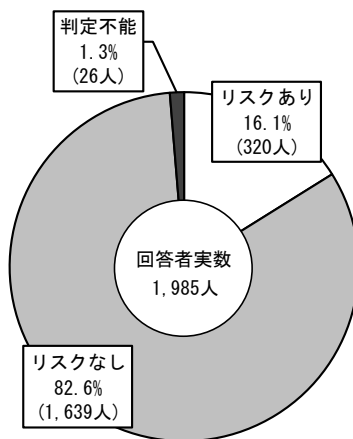
2. 体を動かすことについて

(1)運動器の機能低下者（リスク者）

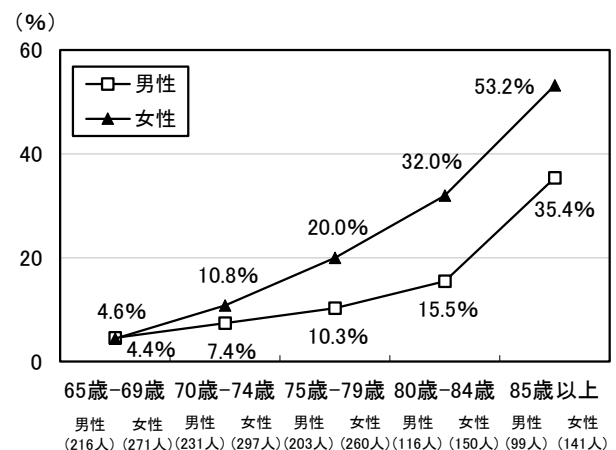
運動器のリスク者は16.1%（前回15.3%）となっています。

性別年齢別でみると、各年齢層とも、男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しています。男性では80歳～84歳で15.5%、85歳以上では35.4%となっていますが、女性では80歳～84歳で32.0%、85歳以上では53.2%と急増しています。

運動器の機能低下者



運動器の機能リスク（性別年齢別）

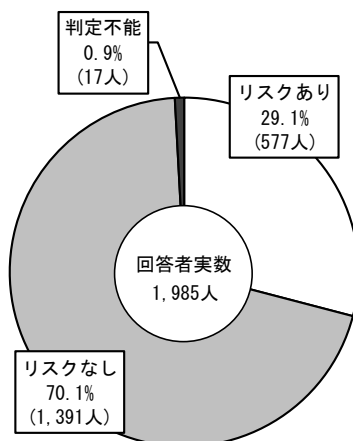


(2)転倒リスク者

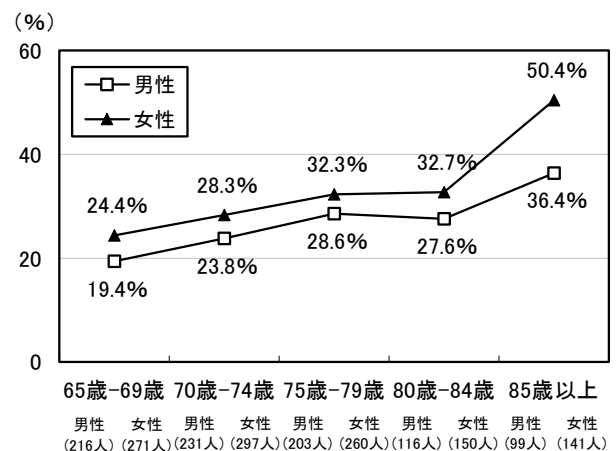
転倒のリスク者は29.1%（前回26.0%）となっています。

性別年齢別でみると、各年齢層とも男性よりも女性の方が高く、また年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向となっています。男性では80歳～84歳の年齢層までは3割未満であるのに対し、女性では80歳～84歳で約3割、85歳以上では5割を占めています。

転倒リスク者



転倒リスク者（性別年齢別）



転倒に対する不安について、転倒リスクの有無別にみると、「リスクあり」の方で不安を感じている方が多く、特に「とても不安である」は「リスクあり」で 31.9%、「リスクなし」で 9.4% とその差が大きくなっています。

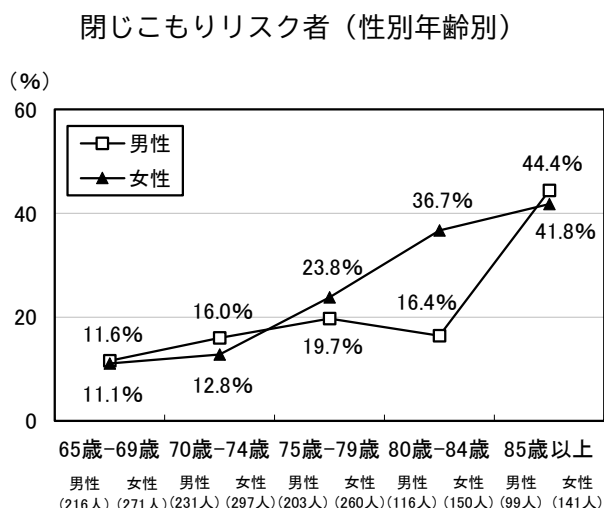
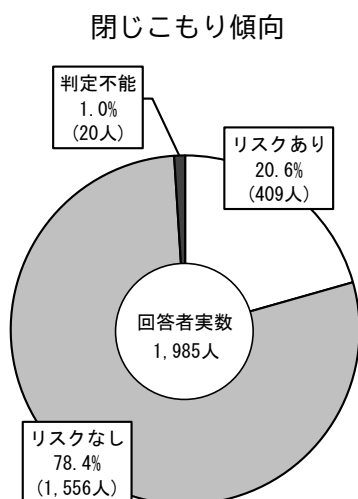
転倒に対する不安はあるか（転倒リスク別）

	回答者実数	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答
リスクあり	577 人	31.9% (184 人)	45.8% (264 人)	17.0% (98 人)	5.4% (31 人)	0.0% (0 人)
リスクなし	1,391 人	9.4% (131 人)	33.1% (460 人)	29.3% (408 人)	27.0% (375 人)	1.2% (17 人)

(3) 閉じこもり傾向（リスク者）

閉じこもりのリスク者は 20.6%（前回 21.7%）となっています。

性別年齢別でみると、男性は、84 歳まで 2 割未満で推移し、85 歳以上になると 44.4% に急増しています。女性では、75 歳～79 歳で 23.8%、80 歳～84 歳で 36.7% と上昇し、85 歳上では 44.4% となっています。



外出回数の減少について、閉じこもりリスクの有無別にみると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた割合は、「リスクあり」で 66.5%、「リスクなし」で 19.0% となっており、閉じこもりリスク者の方で、外出回数が減少する割合が高くなっています。

昨年と比べて外出の回数が減っているか（閉じこもり傾向別）

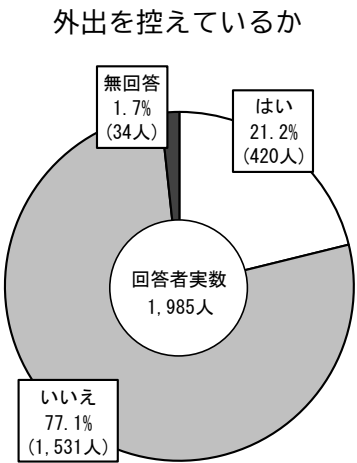
	回答者実数	とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答
リスクあり	409 人	17.6% (72 人)	48.9% (200 人)	18.3% (75 人)	14.7% (60 人)	0.5% (2 人)
リスクなし	1,556 人	1.5% (23 人)	17.5% (272 人)	32.8% (511 人)	48.1% (748 人)	0.1% (2 人)

(4)外出の状況

①外出を控えているか

外出を控えているか尋ねたところ、「はい」が21.2%（前回38.2%）、「いいえ」が77.1%（前回59.6%）となっています。前はコロナ禍の影響により、外出を控える人が多くありました。

年齢別にみると、外出を控えている人は年齢が上がるともに高くなっており、84歳までは3割未満ですが、85歳以上では4割半ばに達しています。

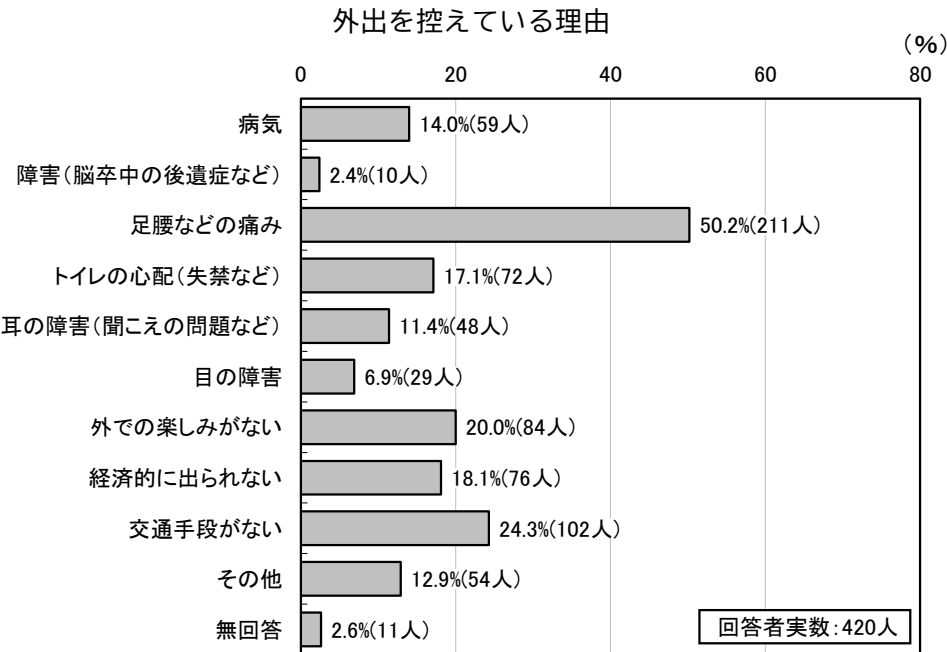


外出を控えているか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	487人	13.6% (66人)	86.0% (419人)	0.4% (2人)
70歳～74歳	528人	14.4% (76人)	84.7% (447人)	0.9% (5人)
75歳～79歳	463人	20.5% (95人)	76.9% (356人)	2.6% (12人)
80歳～84歳	266人	27.4% (73人)	68.8% (183人)	3.8% (10人)
85歳以上	240人	45.8% (110人)	52.1% (125人)	2.1% (5人)

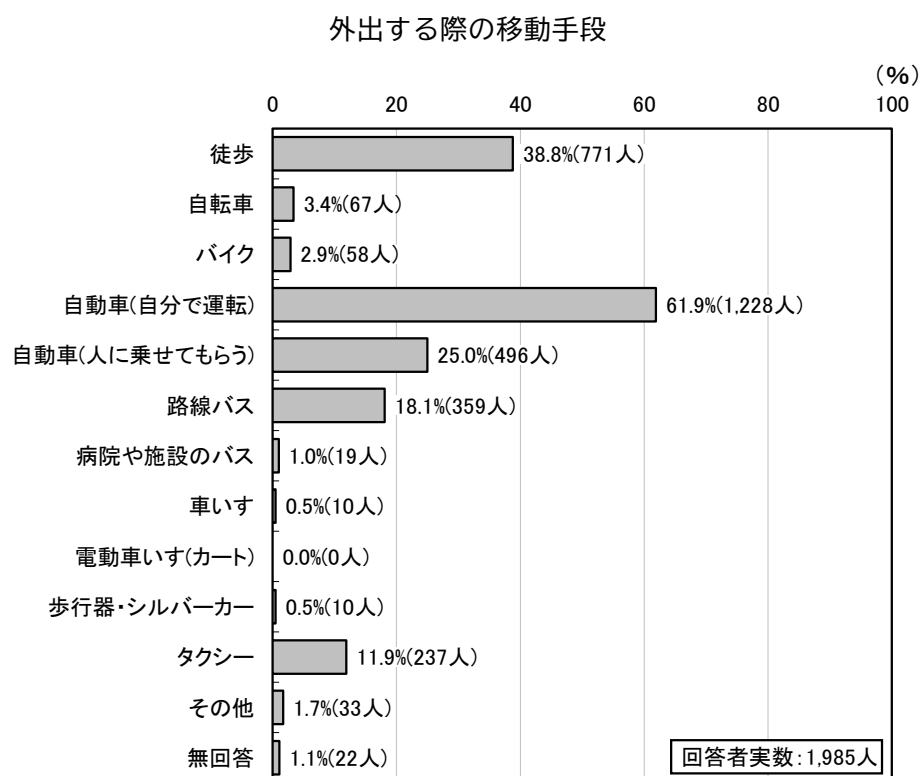
②外出を控えている理由

外出を控えている理由をみると、「足腰などの痛み」の50.2%（前回32.8%）が非常に高いほか、「交通手段がない」が24.3%（前回15.7%）、「外での楽しみがない」が20.0%（前回14.8%）で比較的高くなっています。なお、今回の調査では「その他」が12.9%であり、前回調査の42.4%より大きく減少しました。前は新型コロナウイルス感染予防のために外出を控えたという声の大半を占める状況にあり、これが外出控えに大きな影響を与えていました。



③外出する際の移動手段

外出する際の移動手段としては、「自動車(自分で運転)」が61.9%（前回 60.3%）で最も高く、6割を占めています。次いで「徒歩」（38.8%／前回 37.2%）、「自動車(人に乗せてもらう）」（25.0%／前回 21.8%）、「路線バス」（18.1%／前回 14.2%）、「タクシー」（11.9%／前回 12.1%）と続いており、その他の移動手段はそれぞれ1割未満となっています。

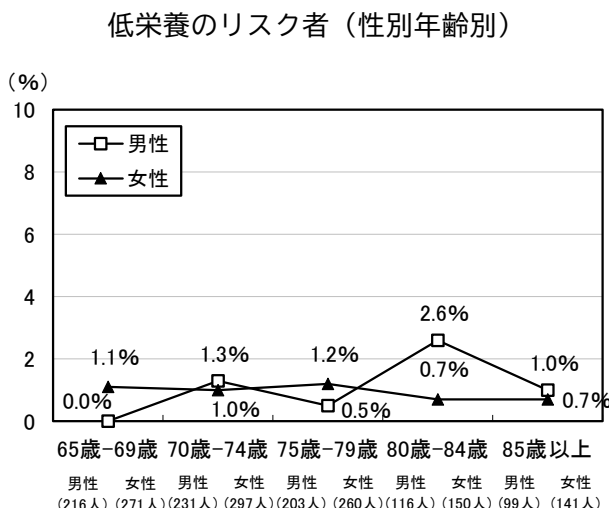
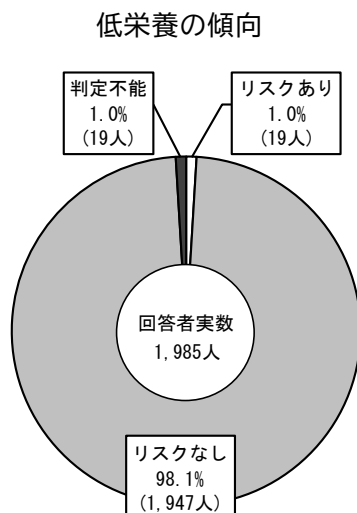


3. 食べることについて

(1) 低栄養の傾向（リスク者）

低栄養のリスク者は 1.0%（前回 0.8%）となっています。

性別年齢別でみると、80 歳～84 歳の男性で 2.6%となっているのが最も高く、その他は男女とも 2%未満で推移しています。

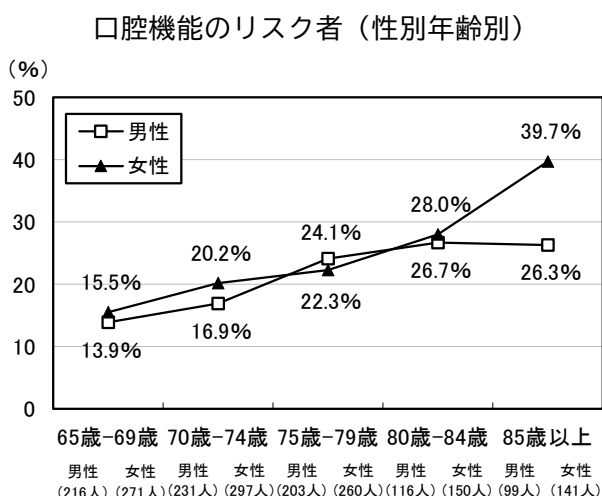
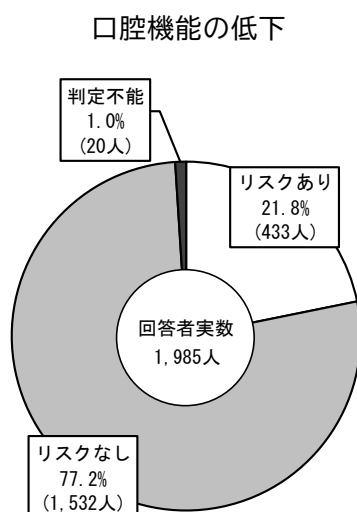


(2) 口腔機能低下

① 口腔機能の低下者（リスク者）

口腔機能のリスク者は 21.8%（前回 21.2%）となっています。

性別年齢別でみると、男女とも年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しており、特に女性の方の伸びが大きく、85 歳以上では男性が 26.3%であるのに対し、女性は 39.7%と 4 割近くを占めています。

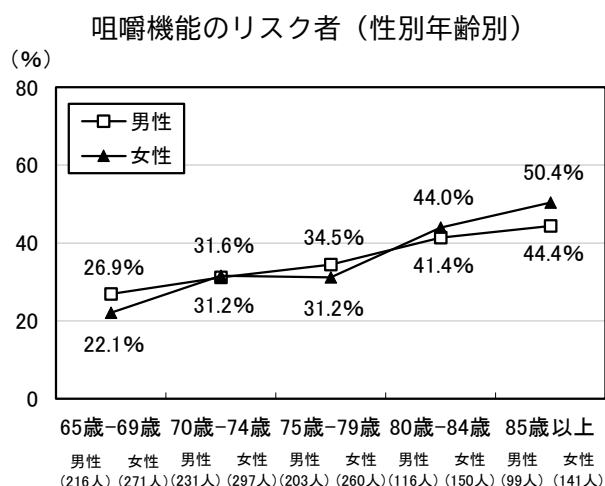
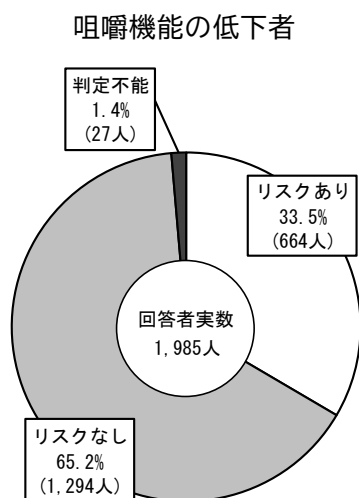


②咀嚼機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「半年前より固いものが食べにくくなったか」を尋ね、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

咀嚼機能のリスク者は33.5%（前回32.4%）となっています。

性別年齢別でみると、男女差はあまりありませんが、65～79歳までは男性の方がリスク者が高く、80歳以降では女性の方が高くなっています。また、男性より女性の方が75歳以降での伸びが大きくなっています。

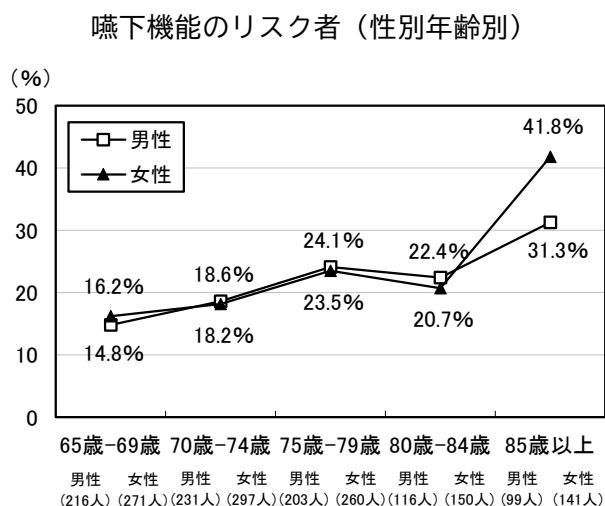
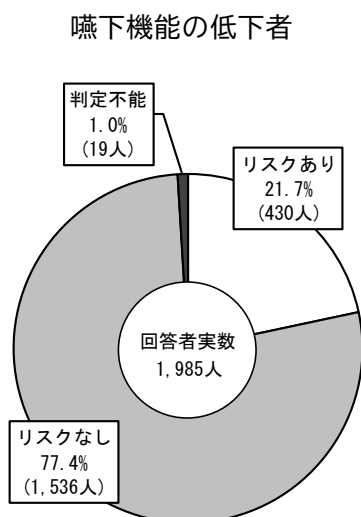


③嚥下機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「お茶等でむせることがあるか」を尋ね、嚥下機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

嚥下機能のリスク者は21.7%（前回22.1%）となっています。

性別年齢別でみると、84歳までは男女差はあまり見られませんが、85歳以上では男性が31.3%、女性が41.8%と、女性の方が急増しています。

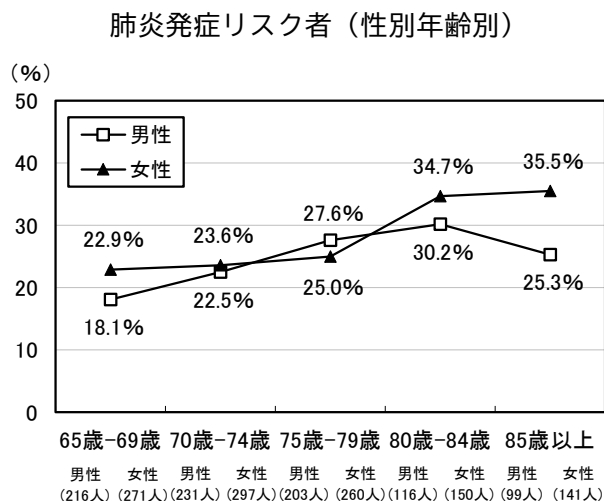
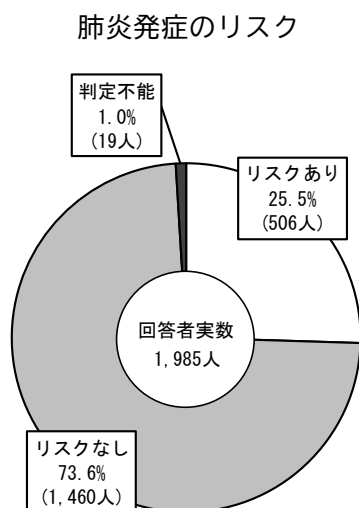


④肺炎発症リスク者

口腔機能のうち、「口の渇きが気になるか」を尋ね、肺炎発症リスクが疑われる高齢者を把握しました。

肺炎発症リスク者は 25.5%（前回 22.1%）となっています。

性別年齢別でみると、80 歳以降で女性の方が男性より高くなっており、85 歳以上では女性は 35.5%、男性は 25.3%となっています。

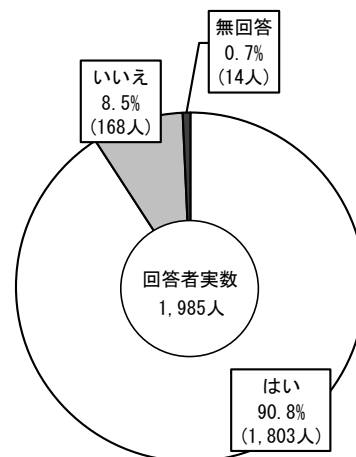


(3)歯の健康

①歯磨きの習慣

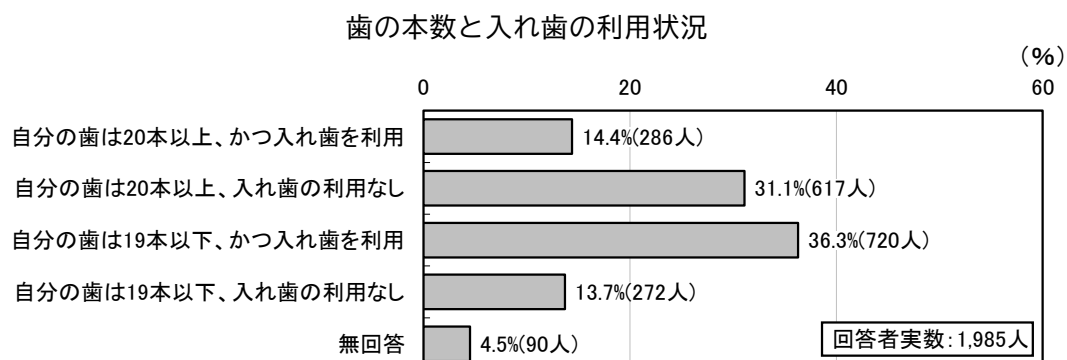
毎日の歯磨きをしている人は 90.8%（前回 90.4%）となり、9 割を占めています。

毎日歯磨きしているか



②歯の本数と入れ歯の利用状況

歯の本数と入れ歯の利用についてみると、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 36.3%で最も高くなっています。歯が 20 本以上ある人は 45.5%となっています。



年齢別にみると、75 歳以上は「歯は 19 本以下で入れ歯を利用」が最も高く、年齢が上がるとともにこの割合も高くなっていく傾向にあり、65 歳～69 歳では 22.4%ですが、80 歳以上では 5 割を超えています。また、「歯は 20 本以上で入れ歯の利用なし」は、65 歳～69 歳で 49.5%と約半数を占めていますが、80 歳以上では 15%台へと低下しています。

歯の数と入れ歯の利用状況（年齢別）

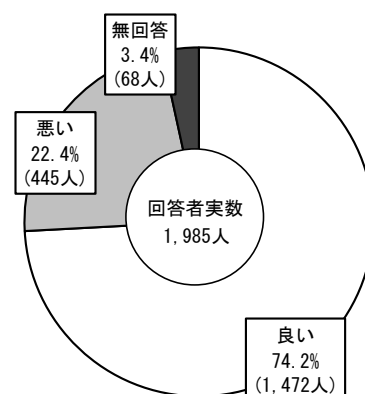
	回答者実数	自分の歯は 20 本以上		自分の歯は 19 本以下		無回答
		入れ歯を利用	入れ歯の利用なし	入れ歯を利用	入れ歯の利用なし	
65 歳～69 歳	487 人	11.3% (55 人)	49.5% (241 人)	22.4% (109 人)	15.2% (74 人)	1.6% (8 人)
70 歳～74 歳	528 人	15.5% (82 人)	33.0% (174 人)	32.8% (173 人)	15.5% (82 人)	3.2% (17 人)
75 歳～79 歳	463 人	15.8% (73 人)	26.6% (123 人)	36.7% (170 人)	15.1% (70 人)	5.8% (27 人)
80 歳～84 歳	266 人	16.5% (44 人)	15.4% (41 人)	53.8% (143 人)	9.0% (24 人)	5.3% (14 人)
85 歳以上	240 人	13.3% (32 人)	15.8% (38 人)	52.1% (125 人)	8.8% (21 人)	10.0% (24 人)

③噛み合わせは良いか

噛み合わせについて尋ねたところ、「良い」という回答は74.2%（前回72.5%）、「悪い」は22.4%（前回24.3%）で、7割半ばの高齢者は噛み合わせの問題がないと回答しています。

年齢別にみると、「良い」は84歳までの年齢層では7割台となっていますが、85歳以上では69.6%と7割を下回っています。

噛み合わせは良いか



噛み合わせは良いか（年齢別）

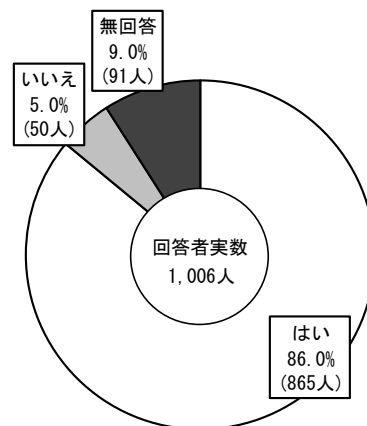
	回答者実数	良い	悪い	無回答
65歳～69歳	487人	77.6% (378人)	20.5% (100人)	1.8% (9人)
70歳～74歳	528人	73.5% (388人)	23.9% (126人)	2.7% (14人)
75歳～79歳	463人	74.3% (344人)	21.6% (100人)	4.1% (19人)
80歳～84歳	266人	72.9% (194人)	22.9% (61人)	4.1% (11人)
85歳以上	240人	69.6% (167人)	24.2% (58人)	6.3% (15人)

④毎日入れ歯の手入れをしているか

毎日入れ歯の手入れをしているか尋ねたところ、「はい」が86.0%（前回88.2%）、「いいえ」が5.0%（前回6.3%）で、ほとんどの人が毎日手入れしていると回答しています。

年齢別にみると、「はい」という回答は各年齢層で8割台を占めています。

毎日入れ歯の手入れをしているか



毎日入れ歯の手入れをしているか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	164人	83.5% (137人)	4.3% (7人)	12.2% (20人)
70歳～74歳	255人	89.4% (228人)	3.5% (9人)	7.1% (18人)
75歳～79歳	243人	86.0% (209人)	4.5% (11人)	9.5% (23人)
80歳～84歳	187人	85.0% (159人)	7.5% (14人)	7.5% (14人)
85歳以上	157人	84.1% (132人)	5.7% (9人)	10.2% (16人)

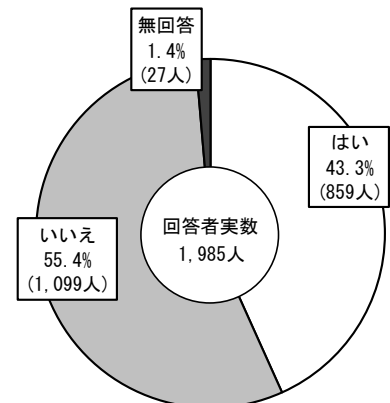
(4) 歯科医院の受診

① 歯科医院の受診状況

歯科医院を受診しているか尋ねたところ、「はい」が43.3%、「いいえ」が55.4%となっており、4割余りが歯科を受診しています。

リスク者割合との関係を見ると、歯科医院を受診していないと回答した人では、多くの項目でリスク者割合が受診している人よりも高くなっています。特に、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」で、その差が大きいです。

歯科医院の受診状況



リスク者割合の比較（歯科医院の受診別）

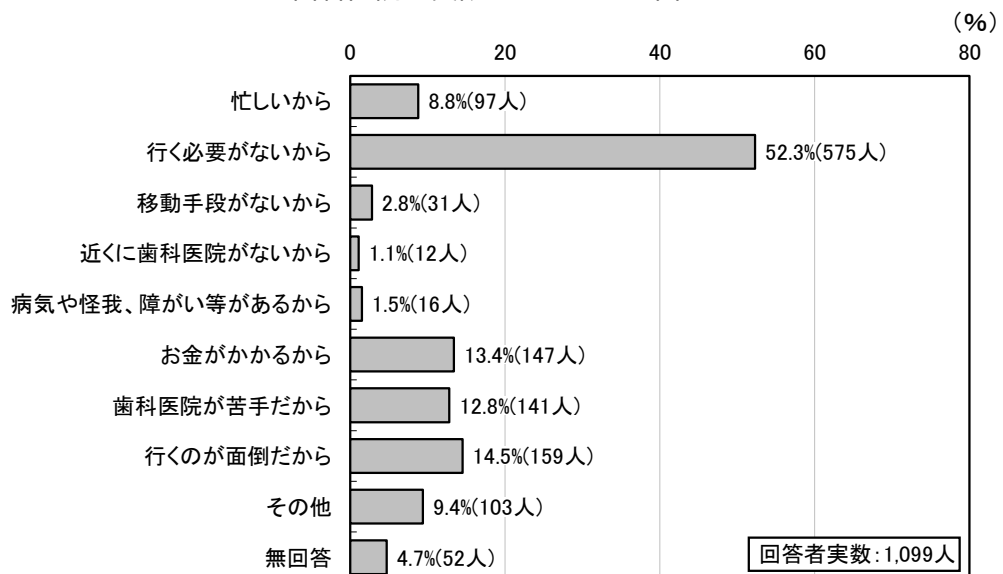
	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
はい (受診している)	859 人	31.5% (271 人)	15.7% (135 人)	31.3% (269 人)	17.2% (148 人)	0.7% (6 人)	22.9% (197 人)
いいえ (受診していない)	1,099 人	29.2% (321 人)	16.1% (177 人)	27.4% (301 人)	22.9% (252 人)	1.2% (13 人)	21.0% (231 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
はい (受診している)	859 人	33.4% (287 人)	36.6% (314 人)	8.9% (77 人)	42.9% (368 人)	54.1% (464 人)
いいえ (受診していない)	1,099 人	36.2% (398 人)	33.5% (368 人)	15.5% (171 人)	57.8% (635 人)	64.8% (712 人)

② 歯科医院を受診していない理由

「いいえ」と答えた人に歯科医院を受診していない理由について尋ねると、「行く必要がないから」が52.3%と圧倒的に高くなっています。「行くのが面倒だから」が14.5%、「お金がかかるから」が13.4%、「歯科医院が苦手だから」が12.8%となっています。

歯科医院を受診していない理由



(5)孤食の状況

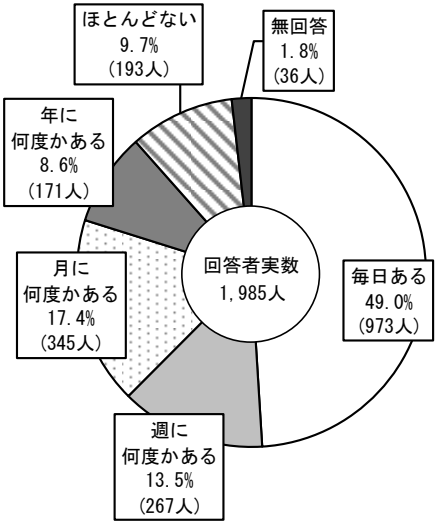
だれかと食事をともしる機会の有無を尋ね、孤食の状況を把握しました。

誰かと食事をともしる機会がどの程度あるか尋ねたところ、「毎日ある」が49.0%（前回47.3%）、「週に何度かある」は13.5%（前回12.7%）で、これら2つを合わせると、比較的共食できる状況にある高齢者は62.5%（前回60.0%）となっています。

「年に何度かある」が8.6%（前回8.1%）、「ほとんどない」が9.7%（前回11.1%）で、孤食にある高齢者が18.3%（前回19.2%）であるほか、「月に何度かある」の17.4%（前回18.4%）も合わせると、孤食または孤食傾向にある高齢者が35.7%（前回37.6%）を占めています。

性別でみると、孤食の高齢者は男性が23.1%、女性が14.6%で、男性の方が高くなっています。また、年齢別でみると、概ね年齢が上がるとともに孤食や孤食傾向の割合が高くなっています。

孤食の状況



孤食の状況（性別、年齢別）

	回答者実数	毎日ある	週に 何度かある	孤食傾向の高齢者			無回答
				月に 何度かある	孤食の高齢者		
					年に 何度かある	ほとんどない	
男 性	865 人	51.6% (446 人)	10.4% (90 人)	13.4% (116 人)	9.0% (78 人)	14.1% (122 人)	1.5% (13 人)
女 性	1,119 人	47.1% (527 人)	15.8% (177 人)	20.4% (228 人)	8.3% (93 人)	6.3% (71 人)	2.1% (23 人)
65 歳～69 歳	487 人	53.2% (259 人)	15.6% (76 人)	15.6% (76 人)	7.8% (38 人)	7.4% (36 人)	0.4% (2 人)
70 歳～74 歳	528 人	51.9% (274 人)	11.7% (62 人)	16.5% (87 人)	8.5% (45 人)	10.2% (54 人)	1.1% (6 人)
75 歳～79 歳	463 人	47.5% (220 人)	12.1% (56 人)	18.1% (84 人)	9.7% (45 人)	9.9% (46 人)	2.6% (12 人)
80 歳～84 歳	266 人	42.9% (114 人)	15.4% (41 人)	18.4% (49 人)	10.5% (28 人)	10.5% (28 人)	2.3% (6 人)
85 歳以上	240 人	44.2% (106 人)	13.3% (32 人)	20.0% (48 人)	6.3% (15 人)	12.1% (29 人)	4.2% (10 人)

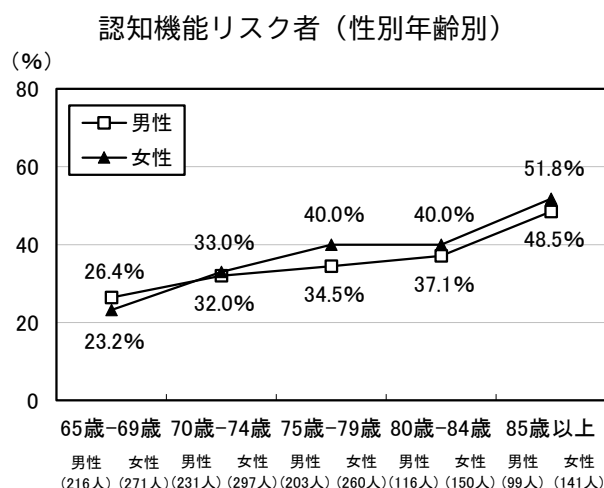
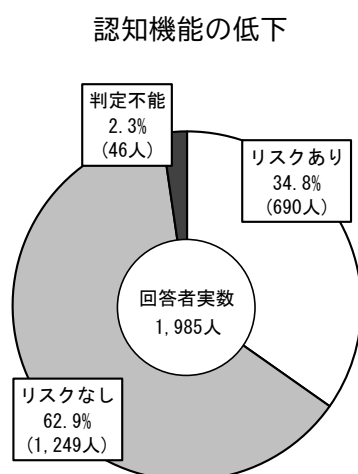
4. 毎日の生活について

(1) 認知機能

① 認知機能の低下者（リスク者）

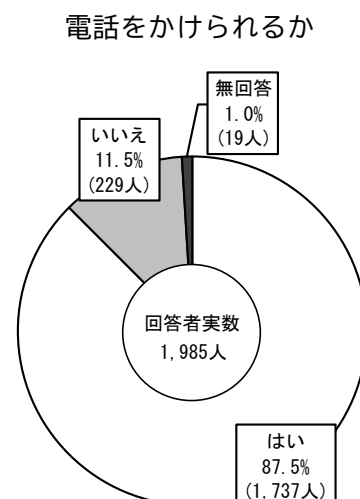
認知機能リスク者は 34.8%（前回 33.9%）となっています。

性別年齢別でみると、男女による大きな差は見られませんが、概ね各年齢層で女性の方が男性よりやや高く推移しています。75 歳～79 歳では、男性は 34.5%、女性は 40.0%、85 歳以上になると、男性は 48.5%、女性は 51.8%に上昇しています。



② 電話をかけられるか

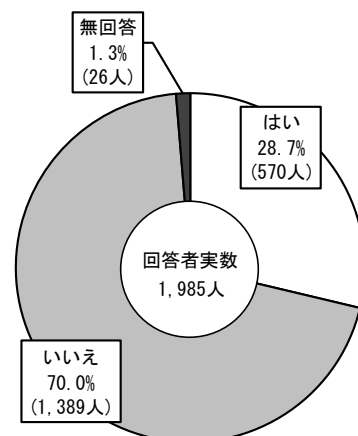
認知機能に関連して、自分で電話番号を調べて電話をかけられるか尋ねたところ、「はい(かけられる)」が 87.5%（前回 88.0%）、「いいえ(かけられない)」が 11.5%（前回 10.8%）となっています。



③日付がわからない時があるか

認知機能に関連して、今日の日付がわからないときがあるか尋ねたところ、「はい(わからない時がある)」が28.7%（前回25.2%）、「いいえ(わからない時はない)」が70.0%（前回73.4%）となっています。

日付がわからない時があるか



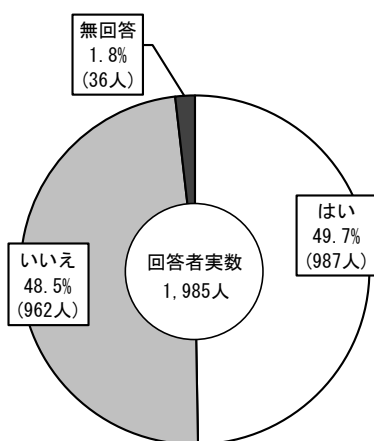
④物をしまった場所がわからなくなることがあるか（独自項目）

認知機能に関連して、物をしまった場所がわからなくなることがあるか尋ねました。

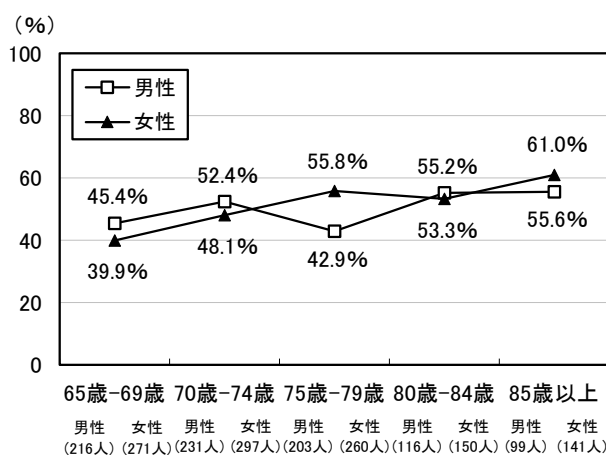
「はい(わからなくなることがある)」は49.7%（前回48.2%）、「いいえ(わからなくなることはない)」が48.5%（前回49.6%）で、「はい」が「いいえ」を僅かながら上回っています。

性別年齢別でみると、「はい」の割合は、男女差は大きくありませんが、75歳～79歳では、男性が42.9%であるのに対し、女性は55.8%と、その差が12.9ポイントあります。

物をしまった場所が
わからなくなることがあるか



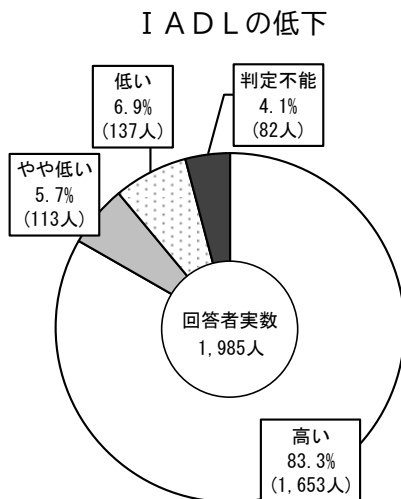
物をしまった場所がわからなくなる
人の割合（性別年齢別）



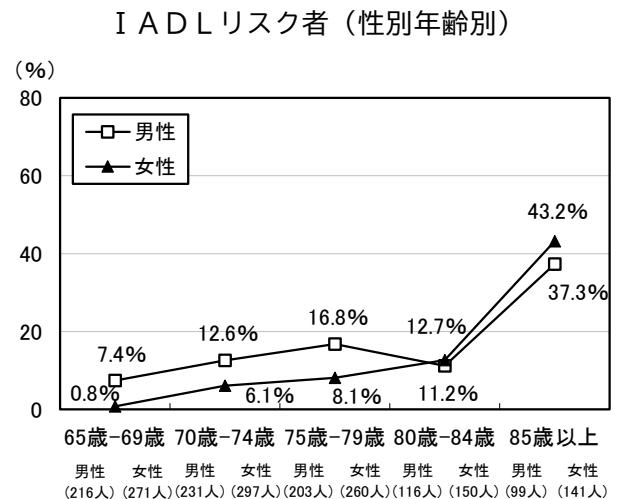
(2) IADLの低下者（リスク者）

買い物や洗濯・掃除等といった「手段的日常生活動作」であるIADLのリスク者（低い＋やや低い）は12.6%（前回12.5%）となっています。

性別年齢別でみると、79歳までは男性、80歳以上は女性の方が高く推移しています。また、80歳～84歳までは2割未満であるが、85歳以上では、男性が37.3%、女性が43.2%に急増しています。



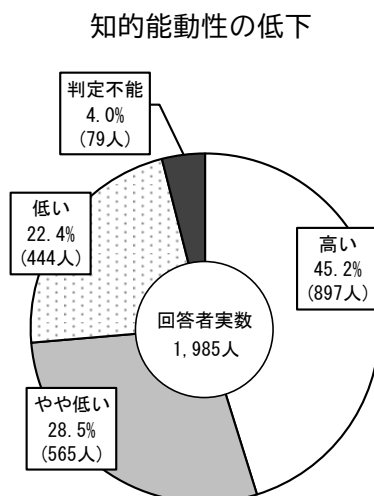
※「やや低い」＋「低い」＝低下者（リスクあり）



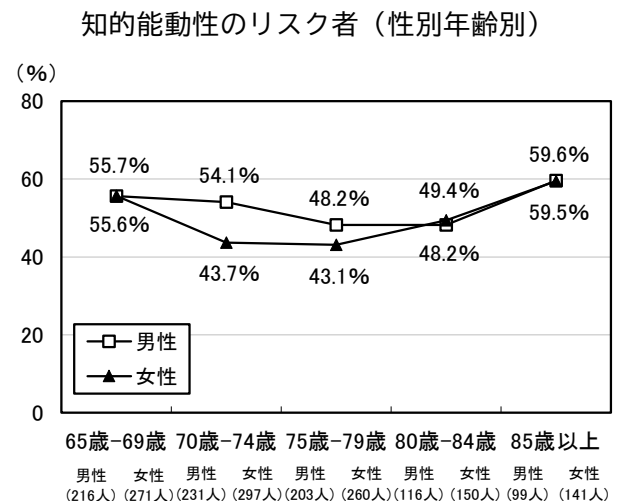
(3) 知的能動性の低下者（リスク者）

「新聞や雑誌等を読んでいるか」、「書類は書けるか」などの能力である知的能動性のリスク者（低い＋やや低い）は50.9%（前回43.3%）に及んでいます。

性別年齢別でみると、リスク者の割合は、男女とも、75歳～79歳まで減少、その後上昇で推移しており、80歳～84歳では約5割、85歳以上では約6割を占めています。



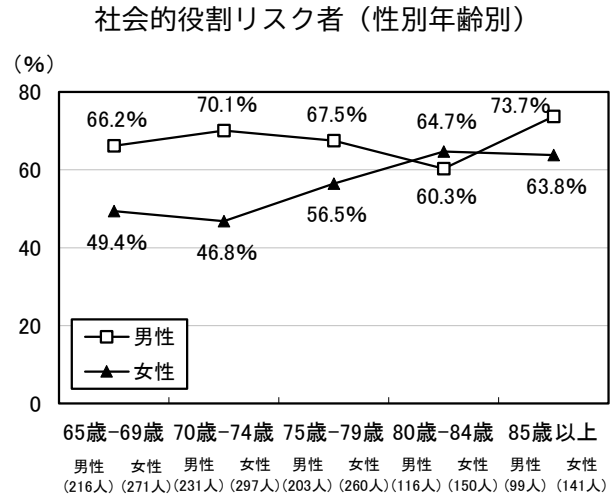
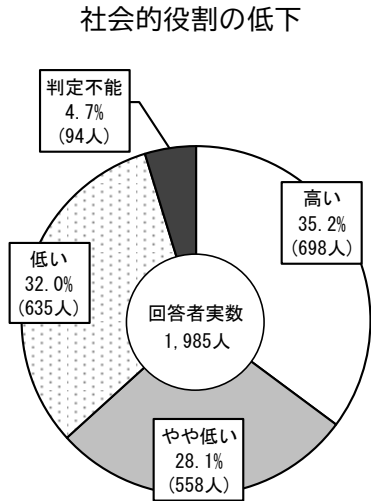
※「やや低い」＋「低い」＝低下者（リスクあり）



(4) 社会的役割の低下者（リスク者）

「友人の家を訪問するか」、「若者に話しかけるか」などの行動意欲をみた社会的役割のリスク者（低い＋やや低い）は 60.1%（前回 61.8%）となっています。

性別年齢別でみると、リスク者の割合は、80 歳～84 歳の年齢層を除き、男性が女性を上回っています。男性は概ね 6 割半ばから 7 割程度で推移しており、女性は 70 歳～74 歳の 4 割半ばから 85 歳以上では 6 割余りへと上昇傾向で推移しています。

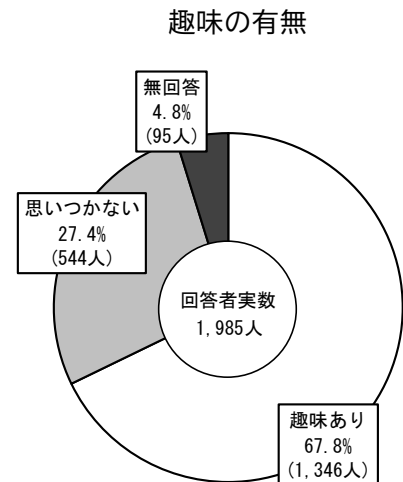


※ 「やや低い」 + 「低い」 = 低下者（リスクあり）

(5) 趣味や生きがい

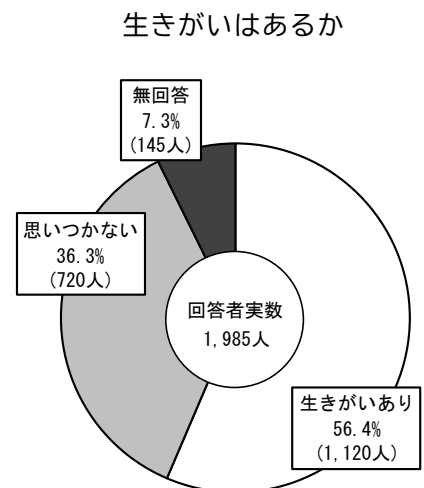
① 趣味の有無

趣味があるか訪ねたところ、「趣味あり」が 67.8%（前回 70.8%）、「思いつかない」が 27.4%（前回 24.6%）となっています。7 割近くの高齢者が趣味を持っていることがわかります。



② 生きがいはあるか

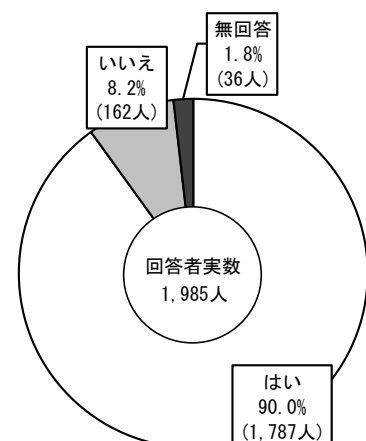
生きがいがあるか訪ねたところ、「生きがいあり」は 56.4%（前回 63.3%）、「思いつかない」が 36.3%（前回 30.2%）となっています。生きがいのある高齢者が大半を占めていますが、前回調査よりも生きがいがある割合が 7 ポイント下がっています。



③ 健康についての記事や番組に関心があるか

健康についての記事や番組に関心があるか訪ねたところ、「はい」は 90.0%（前回 90.7%）となり、関心のある高齢者が 9 割を占めています。

健康についての記事や
番組に関心があるか



5. 地域での活動について

(1) 社会参加

社会参加の程度について尋ねたところ、全体的に「参加していない」という回答割合が非常に高く、全てにおいて概ね5割から6割を占めています。特に「多世代交流の場（こども食堂等）」、「老人クラブ」、「介護予防のための通いの場」、は6割を超えています。全般的に社会参加活動や就労等を行っていない高齢者が多くを占めていることがわかります。

各活動の参加頻度を見ると、「収入のある仕事」は「週4回以上」が最も高く、ほかの活動より頻度が多いです。また、「スポーツ関係のグループやクラブ」は「週2～3回」が最も高く、「趣味関係のグループ」、「学習・教養サークル」「介護予防のための通いの場」は週1回が高くなっています。月1～3回は「老人クラブ」と「模合」、「年に数回」は「自治会・町内会」、「ボランティア」、「学習・教養サークル」で比較的高くなっています。

社会参加

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
ボランティアのグループ	0.9% (18人)	1.0% (20人)	2.2% (43人)	2.2% (43人)	3.0% (59人)	59.0% (1,171人)	31.8% (631人)
スポーツ関係のグループ やクラブ	2.7% (53人)	6.9% (136人)	5.5% (109人)	3.5% (69人)	2.3% (46人)	50.1% (994人)	29.1% (578人)
趣味関係のグループ	2.3% (46人)	4.3% (86人)	7.9% (156人)	5.8% (115人)	3.8% (76人)	48.0% (953人)	27.9% (553人)
学習・教養サークル	0.4% (8人)	1.0% (20人)	2.1% (42人)	1.7% (33人)	2.3% (45人)	59.2% (1,175人)	33.4% (662人)
介護予防のための通いの場 (ミニデイ、100歳体操等)	0.9% (17人)	1.9% (37人)	3.5% (70人)	1.3% (26人)	0.8% (15人)	60.9% (1,208人)	30.8% (612人)
老人クラブ	0.4% (8人)	0.9% (17人)	1.6% (31人)	2.0% (39人)	1.7% (34人)	62.0% (1,231人)	31.5% (625人)
町内会・自治会	0.7% (13人)	1.0% (20人)	1.1% (22人)	2.1% (42人)	9.1% (180人)	54.6% (1,084人)	31.4% (624人)
収入のある仕事	15.4% (305人)	5.2% (104人)	1.2% (23人)	1.7% (34人)	1.4% (28人)	45.4% (902人)	29.7% (589人)
多世代交流の場 (こども食堂等)	0.3% (5人)	0.2% (4人)	0.2% (4人)	0.5% (10人)	0.9% (18人)	63.5% (1,261人)	34.4% (683人)
模合	0.6% (12人)	0.7% (13人)	0.7% (13人)	19.1% (379人)	3.5% (69人)	49.8% (989人)	25.7% (510人)

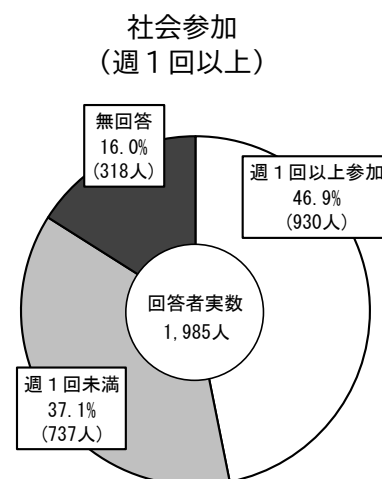
※回答者実数=1,985人

社会参加の程度について各活動をまとめたところ、「週1回以上参加」が46.9%、「週1回未満」が37.1%となっています。

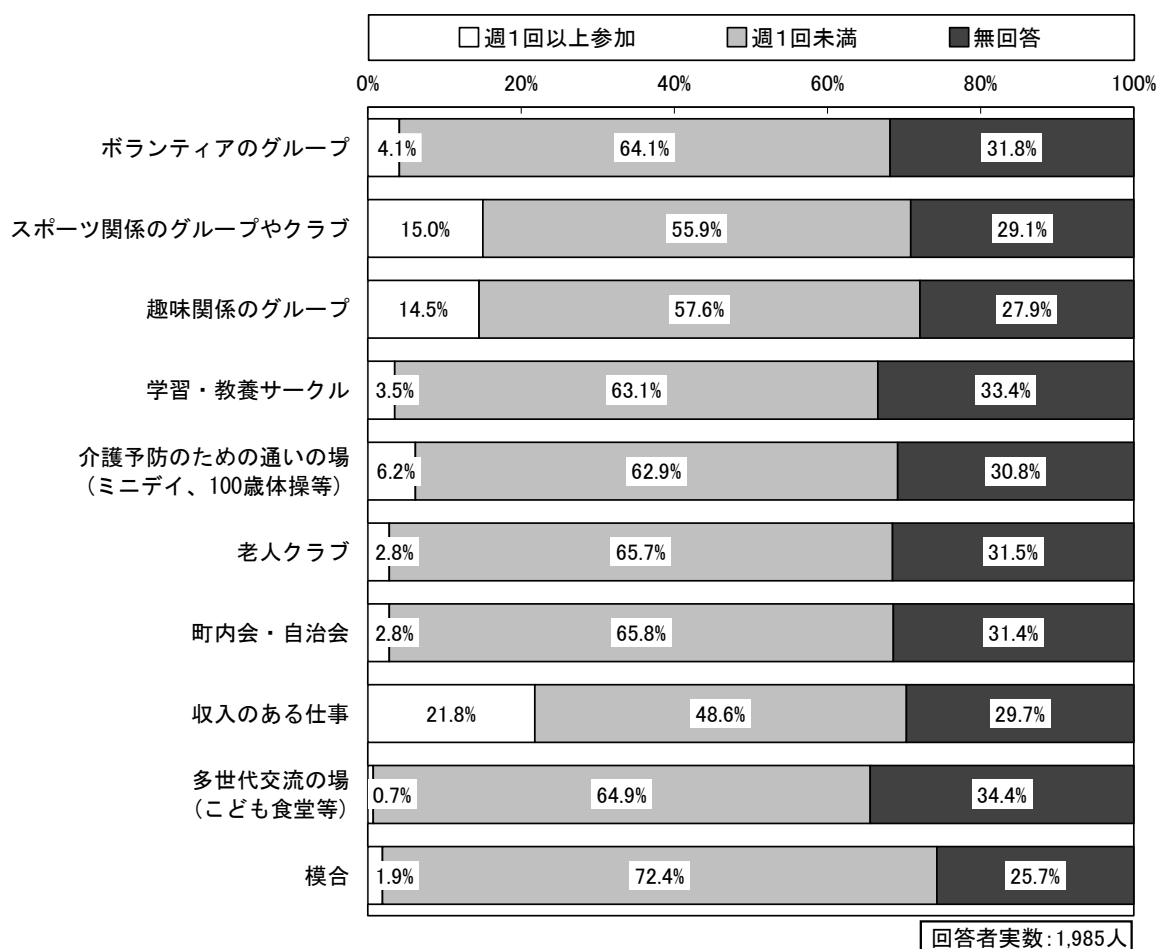
活動別にみると、「収入のある仕事」が21.8%で最も高く、「スポーツ関係のグループやクラブ」が15.0%、「趣味関係のグループ」が14.5%であり、これら3つが比較的高く、その他の活動は全て1割未満に留まっています。

週1回以上＝「週4回以上」、「週2～3回」、「週1回」を合わせたもの

週1回未満＝「月1～3回」、「年に数回」、「参加していない」を合わせたもの



社会参加（週1回以上の参加）



(2)地域づくりへの参加意向

①地域づくりへ参加者として参加したいか

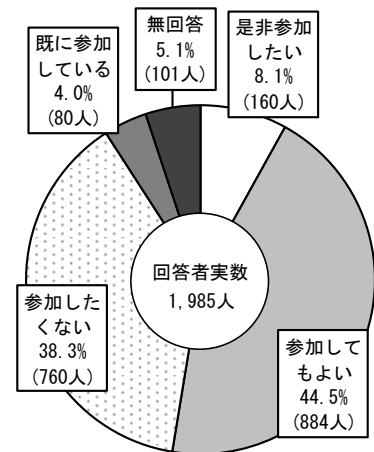
地域づくりへの参加意向を尋ねたところ、「是非参加したい」は8.1%（前回11.1%）、「参加してもよい」は44.5%（前回47.0%）で、これらを合わせると参加意向は52.6%（前回58.1%）となっています。参加意向率は前回調査よりやや減少しています。

性別でみると、男女とも「参加してもよい」が4割半ばとなっています。また、「是非参加したい」は男性が5.8%、女性が9.8%で女性の方がやや高くなっています。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせると、参加意向は男性が49.4%、女性が55.1%となり、女性の方が高くなっています。

年齢別にみると、「参加してもよい」の割合は年代が上がるとともに減少する傾向となっており、特に85歳以上ではそれ以前の年代よりも減少が大きく3割半ばとなっています。

圏域別では、各圏域での大きな差は見られませんが、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた参加意向は、普天間地区が53.3%、宜野湾地区が52.8%、嘉数地区が54.1%、真志喜地区が50.7%であり、嘉数地区が僅かながら高くなっています。

地域づくりへ
参加者として参加したいか

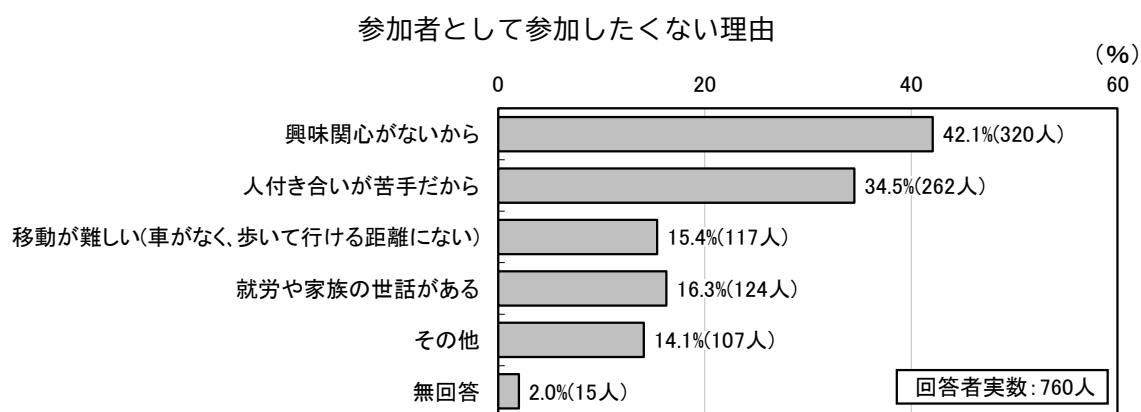


地域づくりへ参加者として参加したいか（性別、年齢別、圏域別）

	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
男 性	865 人	5.8% (50 人)	43.6% (377 人)	42.4% (367 人)	3.8% (33 人)	4.4% (38 人)
女 性	1,119 人	9.8% (110 人)	45.3% (507 人)	35.0% (392 人)	4.2% (47 人)	5.6% (63 人)
65 歳～69 歳	487 人	8.0% (39 人)	47.0% (229 人)	40.9% (199 人)	1.6% (8 人)	2.5% (12 人)
70 歳～74 歳	528 人	7.4% (39 人)	45.5% (240 人)	37.9% (200 人)	4.4% (23 人)	4.9% (26 人)
75 歳～79 歳	463 人	8.4% (39 人)	44.3% (205 人)	36.5% (169 人)	4.1% (19 人)	6.7% (31 人)
80 歳～84 歳	266 人	7.5% (20 人)	47.4% (126 人)	33.1% (88 人)	6.4% (17 人)	5.6% (15 人)
85 歳以上	240 人	9.6% (23 人)	35.0% (84 人)	42.9% (103 人)	5.4% (13 人)	7.1% (17 人)
普天間地区	405 人	8.4% (34 人)	44.9% (182 人)	38.5% (156 人)	3.7% (15 人)	4.4% (18 人)
宜野湾地区	604 人	8.3% (50 人)	44.5% (269 人)	38.1% (230 人)	4.0% (24 人)	5.1% (31 人)
嘉数地区	429 人	7.0% (30 人)	47.1% (202 人)	36.6% (157 人)	4.2% (18 人)	5.1% (22 人)
真志喜地区	546 人	8.4% (46 人)	42.3% (231 人)	39.6% (216 人)	4.2% (23 人)	5.5% (30 人)

②参加者として参加したくない理由

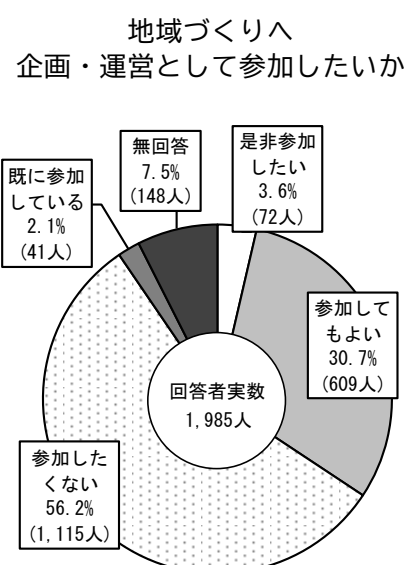
前項で「参加したくない」と回答した方に参加したくない理由を尋ねたところ、「興味関心がないから」が42.1%と高く、次いで、「人付き合いが苦手だから」が34.5%、「就労や家族の世話がある」が16.3%、「移動が難しい(車がなく、歩いて行ける距離にない)」が15.4%、「その他」が14.1%となっています。



③地域づくりへ企画・運営として参加したいか

地域づくりへ企画・運営として参加したいかを尋ねたところ、「是非参加したい」は3.6%（前回4.6%）、「参加してもよい」は30.7%（前回31.2%）で、これらを合わせると企画・運営への参加意向は34.3%（前回35.8%）となっています。

圏域別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた企画・運営への参加意向は普天間地区が35.5%、宜野湾地区が35.6%、嘉数地区が33.8%、真志喜地区が32.5%であり、普天間地区と宜野湾地区が僅かながら高くなっています。



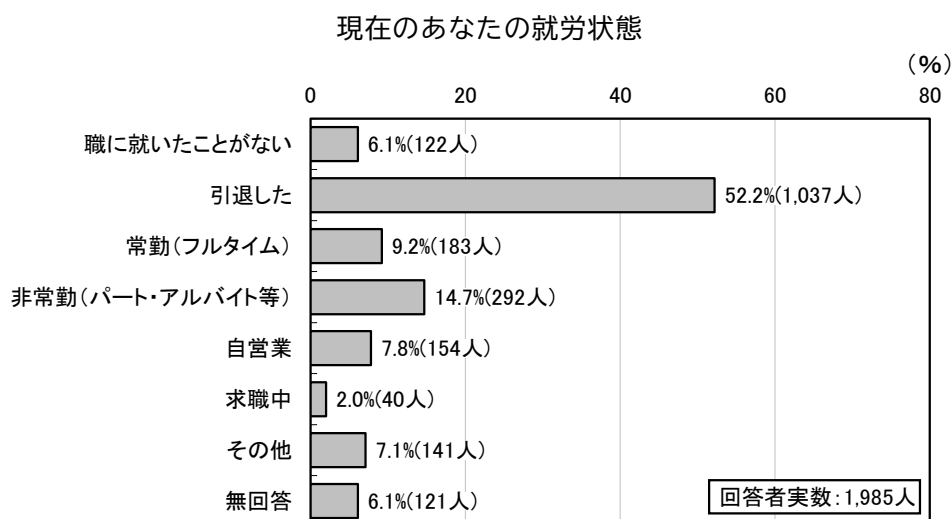
地域づくりへ企画・運営として参加したいか（圏域別）

	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
普天間地区	405 人	2.7%(11 人)	32.8%(133 人)	54.3%(220 人)	2.5%(10 人)	7.7%(31 人)
宜野湾地区	604 人	4.8%(29 人)	30.8%(186 人)	55.0%(332 人)	1.8%(11 人)	7.6%(46 人)
嘉数地区	429 人	2.8%(12 人)	31.0%(133 人)	54.8%(235 人)	1.4%(6 人)	10.0%(43 人)
真志喜地区	546 人	3.7%(20 人)	28.8%(157 人)	60.1%(328 人)	2.4%(13 人)	5.1%(28 人)

6. 就労について

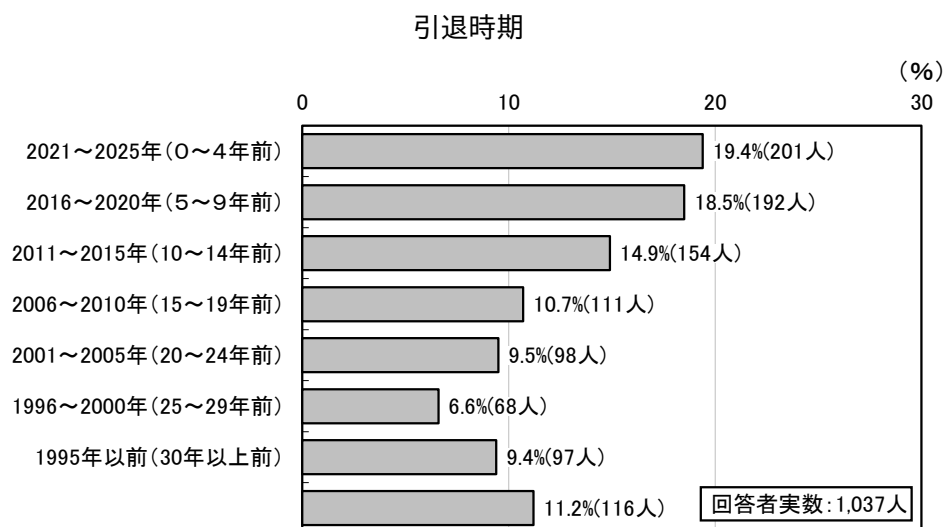
(1)現在のあなたの就労状態

現在のあなたの就労状態については、「引退した」が52.2%で、突出して高くなっています。次いで「非常勤(パート・アルバイト等)」が14.7%であり、その他の項目は1割未満となっています。



(2)引退時期

前項で「引退した」と回答した方の引退時期については、「2021～2025 年(0～4年前)」が19.4%と高く、次いで「2016～2020 年(5～9年前)」が18.5%、「2011～2015 年(10～14年前)」が14.9%と続いています。

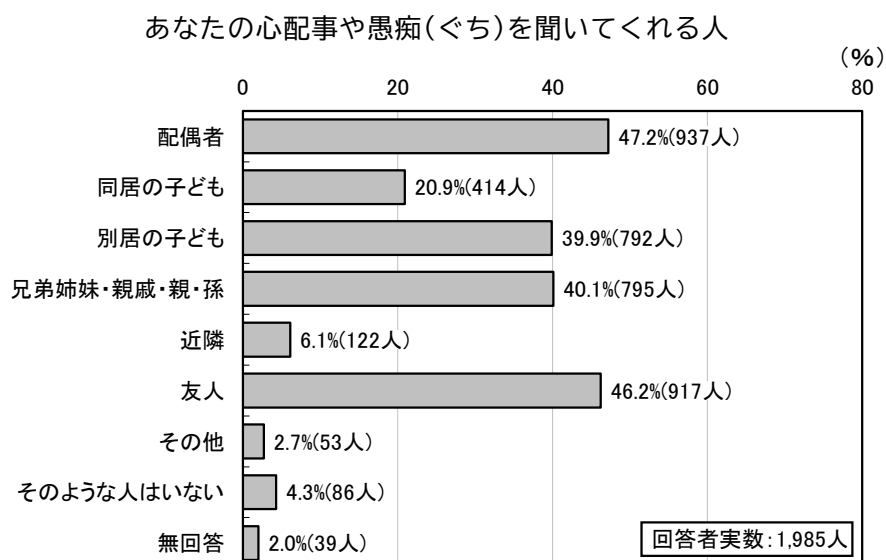


7. たすけあいについて

(1) たすけあいの状況

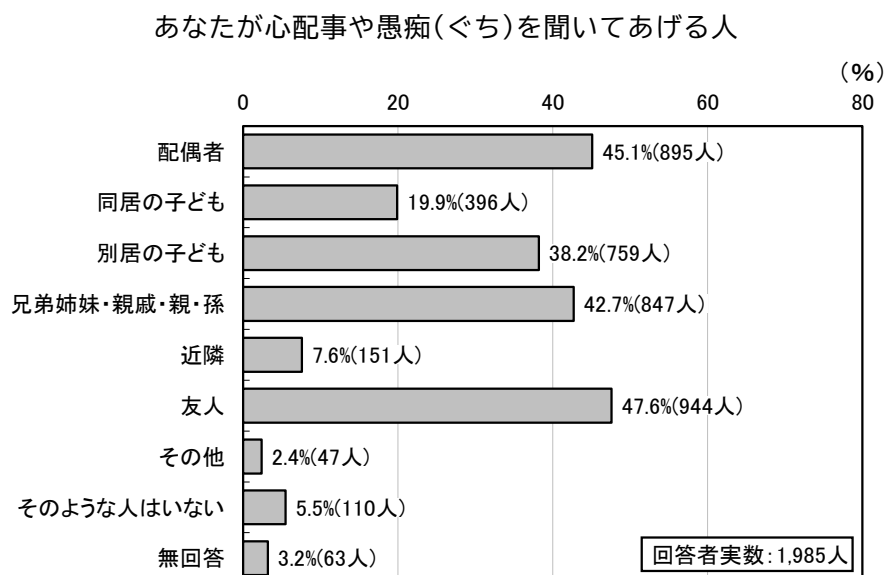
① 心配事や愚痴を「聞いてくれる人」

心配事や愚痴を聞いてくれる人について尋ねたところ、「配偶者」が47.2%（前回47.1%）、
「友人」が46.2%（前回42.7%）であり、この2つが特に高くなっています。また、「兄弟姉妹・
親戚・親・孫」40.1%（前回35.7%）、「別居の子ども」39.9%（前回38.0%）と続いています。



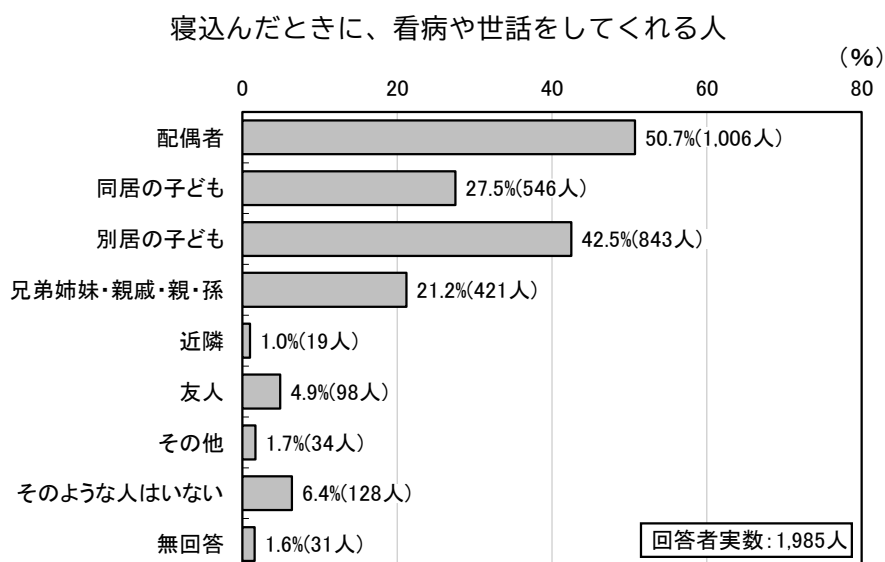
② 心配事や愚痴を「聞いてあげる人」

上記項目とは反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人について尋ねたところ、「友人」が
47.6%（前回43.5%）、「配偶者」が45.1%（前回45.6%）で特に高いほか、「兄弟姉妹・親
戚・親・孫」が42.7%（前回38.1%）で、これら3つが4割を超えています。また、「別居
の子ども」も38.2%（前回37.6%）4割近くを占めています。



③寝込んだときに看病や世話を「してくれる人」

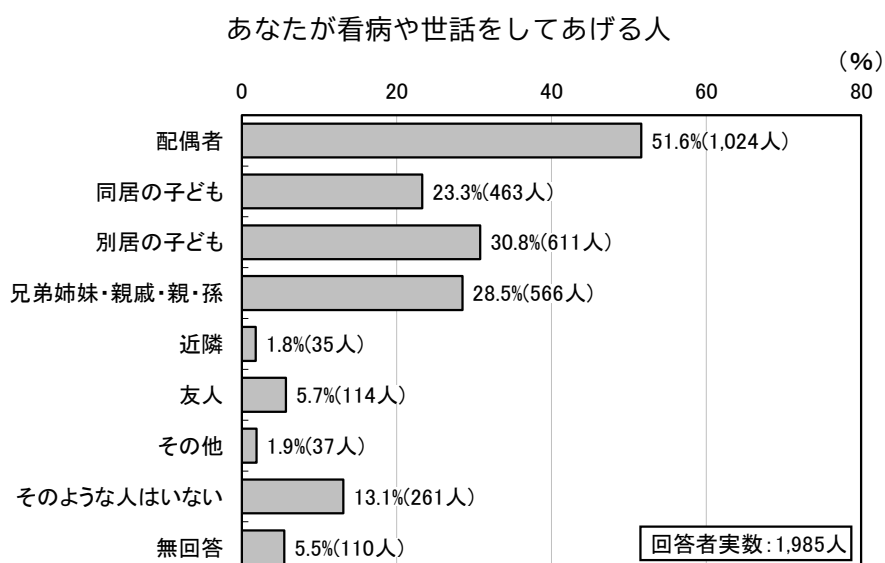
寝込んだときの看病や世話をしてくれる人について尋ねたところ、「配偶者」が50.7%（前回51.5%）と半数を占めているほか、「別居の子ども」が42.5%（前回42.4%）となっており、これら2つが特に高いです。また、「同居の子ども」が27.5%（前回29.1%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が21.2%（前回20.7%）で、これら2つが2割台で比較的高くなっています。



④寝込んだときに看病や世話を「してあげる人」

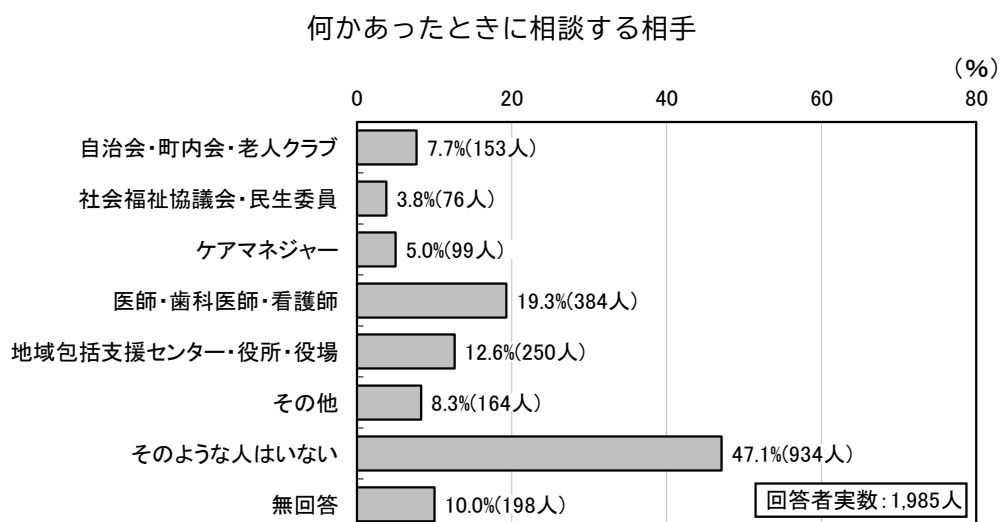
上記項目とは反対に、寝込んだときの看病や世話をしてあげる人について尋ねました。

「配偶者」が51.6%（前回50.4%）と半数を占め最も高くなっています。また、「別居の子ども」が30.8%（前回28.2%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が28.5%（前回27.8%）、「同居の子ども」の23.3%（前回23.7%）と続いています。



⑤家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

家族や友人・知人以外での相談相手についてみると、「そのような人はいない」という回答が本設問で最も高く 47.1%（前回 44.6%）を占めています。相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が 19.3%（前回 21.8%）で他の項目より高いほか、「地域包括支援センター・役所・役場」が 12.6%（前回 13.5%）となっています。

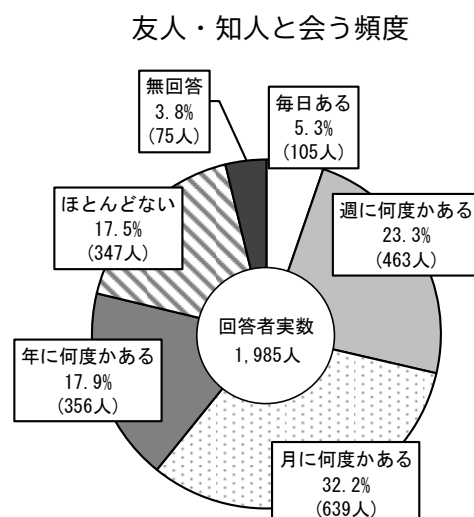


(2)友人、知人との交流

①友人、知人と会う頻度

友人、知人と会う頻度は、「毎日ある」が 5.3%（前回 5.5%）、「週に何度かある」が 23.3%（前回 26.1%）で、これらを合わせると 28.6%（前回 31.6%）となります。また、「月に何度かある」が 32.2%（前回 28.9%）で、ここまでの回答を合わせると、友人・知人と会う機会が比較的ある高齢者が 60.8%（前回 60.5%）を占めます。

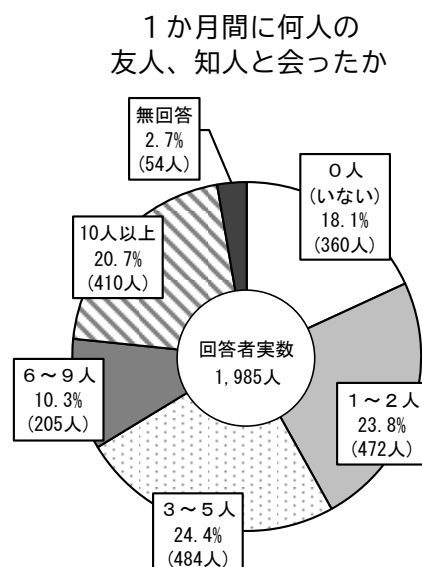
反対に、「ほとんどない」が 17.5%（前回 18.5%）、「年に何度かある」が 17.9%（前回 17.5%）となっています。



② 1 か月間に何人の友人、知人と会ったか

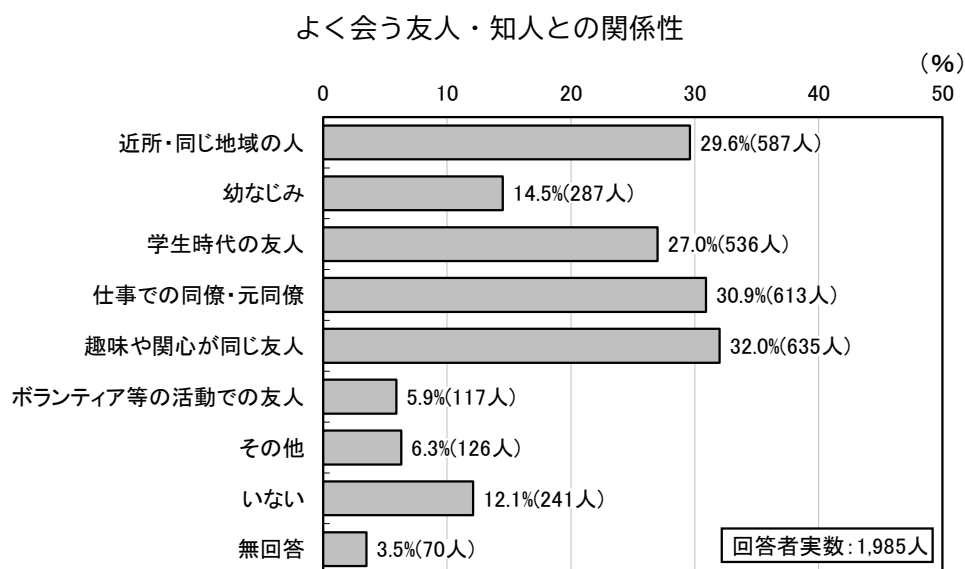
この1か月の間に、何人の友人、知人に会ったかを尋ねたところ、「3～5人」が24.4%（前回24.2%）、「1～2人」が23.8%（前回24.9%）となっています。

また、「0人（いない）」が18.1%（前回17.5%）となっています。



③ よく会う友人、知人との関係

よく会う友人、知人はどんな関係の人が尋ねたところ、「趣味や関心が同じ友人」が32.0%（前回32.0%）、「仕事での同僚・元同僚」が30.9%（前回30.9%）、「近所・同じ地域の人」が29.6%（前回32.5%）であり、これら3つが特に高いです。



8. 健康について

(1)主観的健康感

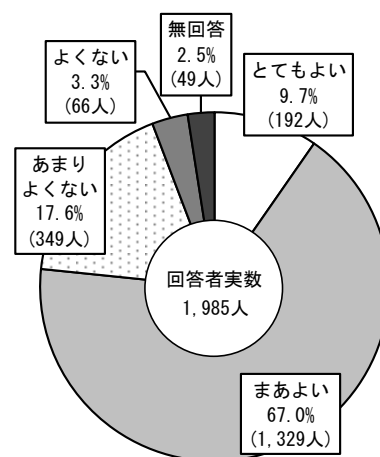
健康状態について尋ねたところ、「まあよい」が 67.0%（前回 64.4%）で圧倒的に高くなっています。また、「とてもよい」は 9.7%（前回 11.3%）で、これら 2 つを合わせると、76.7%（前回 75.7%）となります。

性別でみると、「とてもよい」、「まあよい」の回答が少し女性の方で高くなっていますが、男女別の大きな差はありません。

年齢別にみると、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“健康”は、年齢が上がるとともに割合が減少する傾向にあり、79 歳までは 7 割を超えていますが、80 歳以上では 6 割台へと下がっています。また、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた“健康ではない”は年齢が上がるとともに割合も上昇する傾向にあり、74 歳まで 2 割未満ですが、80 歳～84 歳では約 3 割、85 歳以上では 3 割半ばを占めています。

幸福度別にみると、“健康”は 10 点(とても幸せ)で 91.9%、7 点～9 点(やや幸せ)で 83.6%と 8 割を超えていますが、4 点～6 点(普通)で 68.8%、1 点～3 点(やや幸福ではない)で 39.2%、0 点(幸福ではない)では 25.0%となっており、健康感と幸福度との相関関係が見られます。

主観的健康感



主観的健康感（性別、年齢別）

	回答者実数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
男 性	865 人	9.5%(82 人)	65.1%(563 人)	19.0%(164 人)	3.5%(30 人)	3.0%(26 人)
女 性	1,119 人	9.8%(110 人)	68.4%(765 人)	16.5%(185 人)	3.2%(36 人)	2.1%(23 人)
65 歳～69 歳	487 人	9.9%(48 人)	76.2%(371 人)	11.3%(55 人)	1.6%(8 人)	1.0%(5 人)
70 歳～74 歳	528 人	11.7%(62 人)	68.2%(360 人)	15.0%(79 人)	2.8%(15 人)	2.3%(12 人)
75 歳～79 歳	463 人	8.9%(41 人)	67.8%(314 人)	18.4%(85 人)	3.0%(14 人)	1.9%(9 人)
80 歳～84 歳	266 人	8.3%(22 人)	59.4%(158 人)	23.3%(62 人)	5.3%(14 人)	3.8%(10 人)
85 歳以上	240 人	7.9%(19 人)	52.1%(125 人)	28.3%(68 人)	6.3%(15 人)	5.4%(13 人)

主観的健康感（幸福度別）

	回答者実数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
0 点 (幸福ではない)	12 人	8.3%(1 人)	16.7%(2 人)	25.0%(3 人)	50.0%(6 人)	0.0%(0 人)
1 点～3 点 (やや幸福ではない)	79 人	0.0%(0 人)	39.2%(31 人)	39.2%(31 人)	21.5%(17 人)	0.0%(0 人)
4 点～6 点 (普通)	594 人	4.0%(24 人)	64.8%(385 人)	26.6%(158 人)	4.0%(24 人)	0.5%(3 人)
7 点～9 点 (やや幸せ)	898 人	7.9%(71 人)	75.7%(680 人)	13.9%(125 人)	1.8%(16 人)	0.7%(6 人)
10 点 (とても幸せ)	308 人	28.9%(89 人)	63.0%(194 人)	6.2%(19 人)	0.0%(0 人)	1.9%(6 人)

(2)主観的幸福感

現在の幸福感について、「とても幸せ」を10点、「幸福ではない」を0点として、回答していただきました。

「5点」(普通)が19.4%、「8点」19.3%、「10点」(とても幸せ)が15.5%で比較的高くなっています。

性別でみると、「5点」は男性の方が女性より高く、「8点」や「10点」は、女性の方がやや高くなっています。

年齢別にみると、「10点」は年齢が上がるとともに割合も上昇傾向となっており、85歳以上では2割に達しています。

主観的幸福感（性別、年齢別）

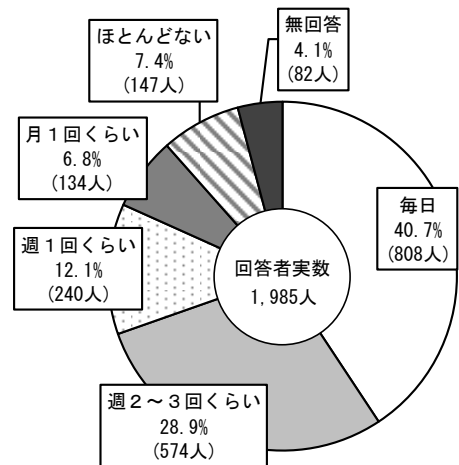
	回答者実数	0点 (幸福ではない)	1点	2点	3点	4点	5点
全 体	1,985 人	0.6% (12 人)	0.6% (12 人)	1.0% (19 人)	2.4% (48 人)	2.8% (55 人)	19.4% (385 人)
男 性	865 人	0.5% (4 人)	0.7% (6 人)	1.0% (9 人)	2.9% (25 人)	3.8% (33 人)	22.9% (198 人)
女 性	1,119 人	0.7% (8 人)	0.5% (6 人)	0.9% (10 人)	2.1% (23 人)	2.0% (22 人)	16.7% (187 人)
65 歳～69 歳	487 人	0.2% (1 人)	0.4% (2 人)	0.6% (3 人)	2.9% (14 人)	2.7% (13 人)	19.3% (94 人)
70 歳～74 歳	528 人	1.3% (7 人)	0.6% (3 人)	0.9% (5 人)	1.7% (9 人)	3.0% (16 人)	18.2% (96 人)
75 歳～79 歳	463 人	0.2% (1 人)	0.4% (2 人)	1.5% (7 人)	2.6% (12 人)	2.8% (13 人)	21.2% (98 人)
80 歳～84 歳	266 人	0.4% (1 人)	0.4% (1 人)	0.8% (2 人)	2.6% (7 人)	3.4% (9 人)	17.7% (47 人)
85 歳以上	240 人	0.8% (2 人)	1.7% (4 人)	0.8% (2 人)	2.5% (6 人)	1.7% (4 人)	20.8% (50 人)

	回答者実数	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
全 体	1,985 人	7.8% (154 人)	15.3% (304 人)	19.3% (383 人)	10.6% (211 人)	15.5% (308 人)	4.7% (94 人)
男 性	865 人	9.4% (81 人)	15.0% (130 人)	18.5% (160 人)	8.2% (71 人)	12.5% (108 人)	4.6% (40 人)
女 性	1,119 人	6.5% (73 人)	15.5% (173 人)	19.9% (223 人)	12.5% (140 人)	17.9% (200 人)	4.8% (54 人)
65 歳～69 歳	487 人	8.0% (39 人)	17.0% (83 人)	20.9% (102 人)	12.1% (59 人)	13.3% (65 人)	2.5% (12 人)
70 歳～74 歳	528 人	9.1% (48 人)	16.1% (85 人)	18.8% (99 人)	8.9% (47 人)	16.5% (87 人)	4.9% (26 人)
75 歳～79 歳	463 人	6.9% (32 人)	14.0% (65 人)	20.3% (94 人)	11.9% (55 人)	12.5% (58 人)	5.6% (26 人)
80 歳～84 歳	266 人	7.1% (19 人)	15.4% (41 人)	15.8% (42 人)	12.0% (32 人)	18.4% (49 人)	6.0% (16 人)
85 歳以上	240 人	6.7% (16 人)	12.1% (29 人)	19.2% (46 人)	7.5% (18 人)	20.4% (49 人)	5.8% (14 人)

(3)人とふれあう機会

人とふれあう機会の頻度については、「毎日」が40.7%（前回 19.7%）が最も多く、4割を占めています。前はコロナ禍における調査であったため、外出や人と会う機会を控えていたことで「毎日」という回答が低く留まっていたましたが、今回は「毎日」の割合が大きく伸びています。

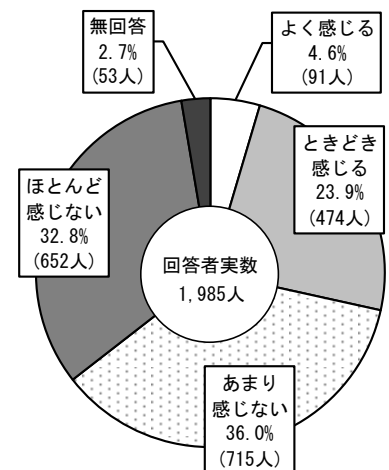
人とふれあう機会



(4)孤独感の有無

孤独感については、「あまり感じない」(36.0%/前回 38.2%)と「ほとんど感じない」(32.8%/前回 28.9%)を合わせた“孤独感なし”の割合は68.9%となっています。反対に、「ときどき感じる」(23.9%/前回 25.4%)と「よく感じる」(4.6%/前回 5.3%)を合わせた“孤独感あり”は28.5%（前回 30.7%）となっており、約3割が孤独を感じていることがわかります。

孤独感の有無



孤独感について主観的幸福度別でみると、「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせた“感じる”割合は、主観的幸福度が「0点(幸福ではない)」では66.7%、「1点～3点(やや幸福ではない)」では77.1%であり、孤独を感じる割合が非常に高くなっています。反対に「あまり感じない」と「ほとんど感じない」を合わせた“感じない”割合は、「7点～9点(やや幸せ)」では78.1%、「10点(とても幸せ)」では86.5%となっています。孤独感と幸福感で相関関係があることがわかります。

孤独感の有無（幸福度別）

	回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
0点 (幸福ではない)	12人	66.7% (8人)	25.0% (3人)	8.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	79人	29.1% (23人)	46.8% (37人)	15.2% (12人)	6.3% (5人)	2.5% (2人)
4点～6点 (普通)	594人	7.2% (43人)	37.4% (222人)	41.6% (247人)	12.5% (74人)	1.3% (8人)
7点～9点 (やや幸せ)	898人	0.7% (6人)	20.0% (180人)	41.9% (376人)	37.4% (336人)	0.0% (0人)
10点 (とても幸せ)	308人	1.0% (3人)	6.2% (19人)	18.2% (56人)	72.7% (224人)	1.9% (6人)

孤独感について家族構成別でみると、孤独を「よく感じる」は、「1人暮らし」が最も高く9.6%であるほか、「ときどき感じる」が36.6%あり、これらを合わせると46.2%を占めます。

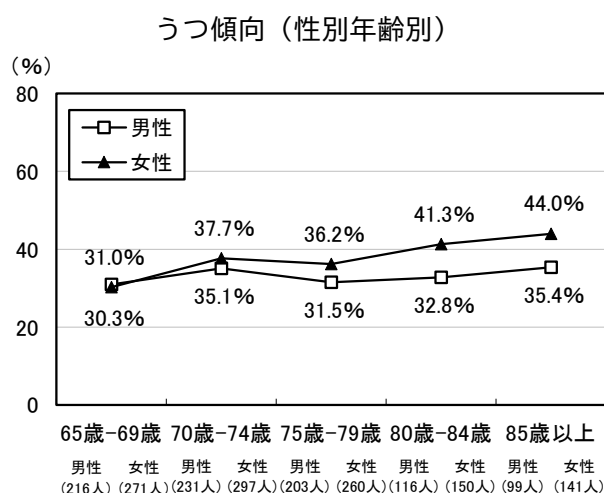
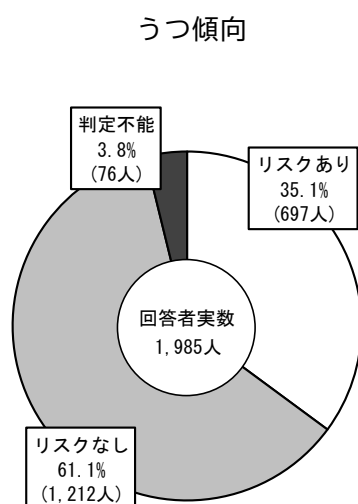
孤独感の有無（家族構成別）

	回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
1人暮らし	481人	9.6% (46人)	36.6% (176人)	31.8% (153人)	19.5% (94人)	2.5% (12人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	670人	2.7% (18人)	17.8% (119人)	39.9% (267人)	37.5% (251人)	2.2% (15人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	69人	4.3% (3人)	18.8% (13人)	33.3% (23人)	39.1% (27人)	4.3% (3人)
配偶者以外と2人暮らし	187人	5.3% (10人)	29.4% (55人)	34.8% (65人)	28.3% (53人)	2.1% (4人)
3人以上の同居世帯	476人	2.1% (10人)	18.1% (86人)	35.7% (170人)	41.2% (196人)	2.9% (14人)
その他	61人	3.3% (2人)	26.2% (16人)	41.0% (25人)	27.9% (17人)	1.6% (1人)

(5) うつ傾向（リスク者）

うつ傾向のリスク者は35.1%（前回35.6%）を占めています。

性別年齢別でみると、男性より女性の方が高く、また年齢が上がると男女の差も広がる傾向が見られます80歳以上では、男性は3割台、女性は4割台に上っています。



(6)喫煙、飲酒の状況

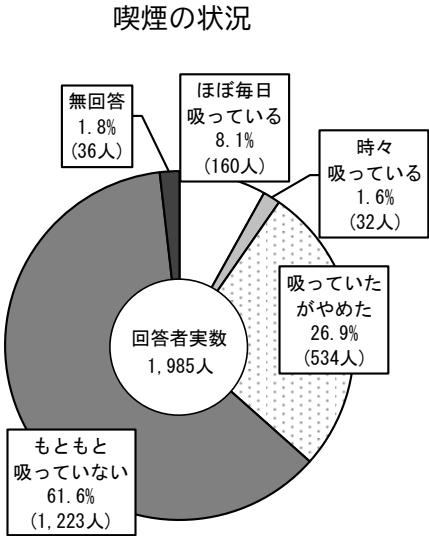
①喫煙の状況

喫煙についてみると、「もともと吸っていない」が61.6%（前回 63.8%）で、6割が喫煙の経験がないと回答しています。これに次いで「吸っていたがやめた」が26.9%（前回 25.7%）で、これら2つを合わせると、現在喫煙していない高齢者が88.5%（前回 89.5%）と9割近くを占めます。

喫煙している高齢者は9.7%（前回 8.8%）で、「ほぼ毎日吸っている」が8.1%（前回 7.8%）、「時々吸っている」が1.6%（前回 1.0%）となっています。

喫煙の状況を性別でみると、「ほぼ毎日吸っている」、「時々吸っている」、「吸っていたがやめた」はそれぞれ男性の方が高く、特に「吸っていたがやめた」は男性の48.6%を占めています。また、女性では「もともと吸っていない」が83.2%で、8割を超える女性が喫煙経験はないと回答しています。

年齢別でみると、「ほぼ毎日吸っている」は65歳～69歳が15.6%、70歳～74歳が9.5%で1割程を占めており、それ以外の年齢層は10%未満となっています。また、「もともと吸っていない」は年齢が上がるるとともに増加する傾向にあり、65歳～69歳は55.0%であるが、80歳以上になると7割を超えています。



喫煙の状況（性別、年齢別）

	回答者実数	ほぼ毎日吸っている	時々吸っている	吸っていたがやめた	もともと吸っていない	無回答
男 性	865 人	13.6% (118 人)	1.8% (16 人)	48.6% (420 人)	33.6% (291 人)	2.3% (20 人)
女 性	1,119 人	3.8% (42 人)	1.4% (16 人)	10.2% (114 人)	83.2% (931 人)	1.4% (16 人)
65 歳～69 歳	487 人	15.6% (76 人)	2.1% (10 人)	26.5% (129 人)	55.0% (268 人)	0.8% (4 人)
70 歳～74 歳	528 人	9.5% (50 人)	1.7% (9 人)	29.7% (157 人)	56.8% (300 人)	2.3% (12 人)
75 歳～79 歳	463 人	5.6% (26 人)	1.5% (7 人)	28.5% (132 人)	62.6% (290 人)	1.7% (8 人)
80 歳～84 歳	266 人	1.1% (3 人)	1.5% (4 人)	23.7% (63 人)	71.4% (190 人)	2.3% (6 人)
85 歳以上	240 人	2.1% (5 人)	0.8% (2 人)	22.1% (53 人)	72.5% (174 人)	2.5% (6 人)

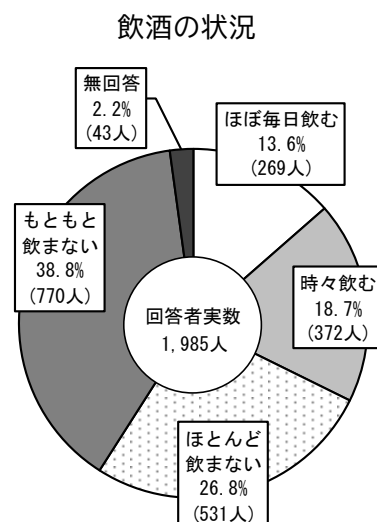
②飲酒の状況

飲酒についてみると、「もともと飲まない」が38.8%（前回41.2%）で、次いで「ほとんど飲まない」が26.8%（前回25.3%）で、飲酒しない人とほとんど飲まない人を合わせると65.6%（前回66.5%）と6割半ばを占めています。

「ほぼ毎日飲む」は13.6%（前回13.6%）、「時々飲む」は18.7%（前回17.9%）で、これら2つを合わせると飲酒する人は32.3%（前回31.5%）を占めています。

性別でみると、「ほぼ毎日飲む」、「時々飲む」は男性の方が女性より高く、また「ほとんど飲まない」も男性の方がやや高くなっています。「もともと飲まない」は女性の方が高く、女性の55.8%を占めています。

年齢別にみると、飲酒者は65歳～69歳が最も高く、年齢が上がるとともに飲酒する割合は減少しています。また、「ほとんど飲まない」は各世代の差はあまりなく、「もともと飲まない」は年代が上がると割合も上がっています。



飲酒の状況（性別、年齢別）

	回答者 実数	ほぼ毎日飲む	時々飲む	ほとんど飲ま ない	もともと飲ま ない	無回答
男 性	865 人	25.3% (219 人)	26.7% (231 人)	28.6% (247 人)	16.9% (146 人)	2.5% (22 人)
女 性	1,119 人	4.5% (50 人)	12.5% (140 人)	25.4% (284 人)	55.8% (624 人)	1.9% (21 人)
65 歳～69 歳	487 人	19.5% (95 人)	27.3% (133 人)	26.5% (129 人)	25.9% (126 人)	0.8% (4 人)
70 歳～74 歳	528 人	14.8% (78 人)	20.5% (108 人)	26.1% (138 人)	36.2% (191 人)	2.5% (13 人)
75 歳～79 歳	463 人	14.5% (67 人)	14.7% (68 人)	26.8% (124 人)	41.7% (193 人)	2.4% (11 人)
80 歳～84 歳	266 人	6.0% (16 人)	12.8% (34 人)	30.8% (82 人)	47.7% (127 人)	2.6% (7 人)
85 歳以上	240 人	5.4% (13 人)	11.7% (28 人)	24.2% (58 人)	55.4% (133 人)	3.3% (8 人)

(7) 疾病の状況

① 全体的な状況

疾病の状況をみると、「高血圧」が45.8%（前回48.5%）を占めており、他の疾病と比べて圧倒的に高くなっています。高血圧以外では、「心臓病」、「糖尿病」、「高脂血症（脂質異常）」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「目の病気」が1割台で比較的高いです。

疾病について、一般高齢者と総合事業対象者別にみると、一般高齢者、総合事業対象者ともに「高血圧」の割合が最も高く、一般高齢者の4割余り、総合事業対象者の5割半ばを占めています。また、総合事業対象者では、「目の病気」が2割、「糖尿病」、「筋骨格の病気」が1割台後半と比較的高くなっています。

高血圧の予防対策はもとより、転倒予防をはじめとした筋骨格の病気予防、糖尿病や目の病気の予防を元気づちから行うことが肝要です。

疾病の状況（総合事業対象者一般高齢者別）

	回答者 実数	ない	高血圧	脳卒中 (脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異常)	呼吸器の病 気(肺炎や気 管支炎等)
全 体	1,985 人	13.9% (275 人)	45.8% (909 人)	3.2% (63 人)	10.2% (202 人)	14.4% (286 人)	15.1% (300 人)	6.2% (123 人)
総合事業 対象者	597 人	7.7% (46 人)	54.3% (324 人)	5.2% (31 人)	15.1% (90 人)	18.8% (112 人)	15.1% (90 人)	9.5% (57 人)
一般高齢者	1,304 人	16.7% (218 人)	42.1% (549 人)	2.2% (29 人)	7.7% (101 人)	12.3% (161 人)	15.6% (204 人)	4.8% (62 人)

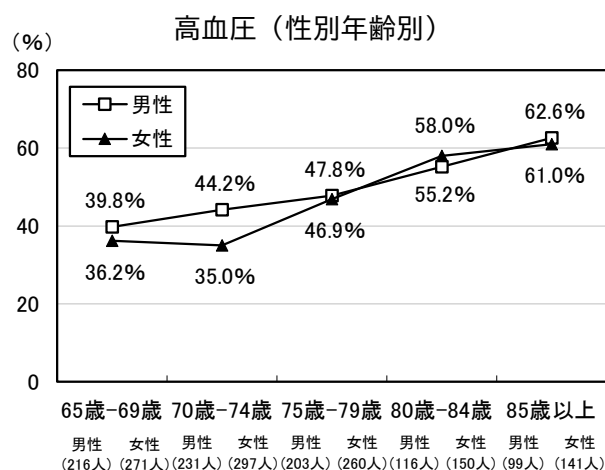
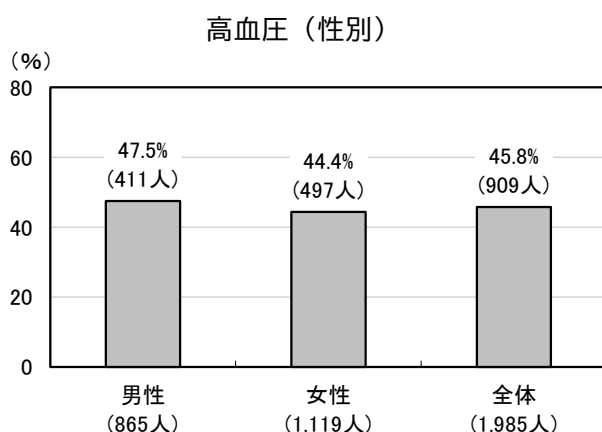
	回答者 実数	胃腸・肝臓 ・胆のうの 病気	腎臓・前立 腺の病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等)	外傷 (転倒・骨 折等)	がん (悪性新生物)	血液・免 疫の病気	うつ病
全 体	1,985 人	4.3% (85 人)	8.1% (161 人)	10.7% (212 人)	3.8% (75 人)	4.3% (86 人)	1.6% (32 人)	1.9% (37 人)
総合事業 対象者	597 人	6.4% (38 人)	10.7% (64 人)	17.3% (103 人)	7.0% (42 人)	6.0% (36 人)	3.9% (23 人)	3.5% (21 人)
一般高齢者	1,304 人	3.3% (43 人)	7.0% (91 人)	7.4% (97 人)	2.3% (30 人)	3.5% (45 人)	0.7% (9 人)	1.1% (14 人)

	回答者 実数	認知症 (アルツハイ マー病等)	パーキン ソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全 体	1,985 人	0.8% (15 人)	0.6% (12 人)	17.1% (339 人)	6.2% (124 人)	9.2% (182 人)	5.2% (104 人)
総合事業 対象者	597 人	1.5% (9 人)	1.3% (8 人)	20.8% (124 人)	9.5% (57 人)	10.6% (63 人)	3.9% (23 人)
一般高齢者	1,304 人	0.5% (6 人)	0.3% (4 人)	15.6% (203 人)	4.6% (60 人)	8.5% (111 人)	5.3% (69 人)

②高血圧

高血圧の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は47.5%(前回48.9%)、女性は44.4%(前回48.0%)で、男女の差はあまりありません。

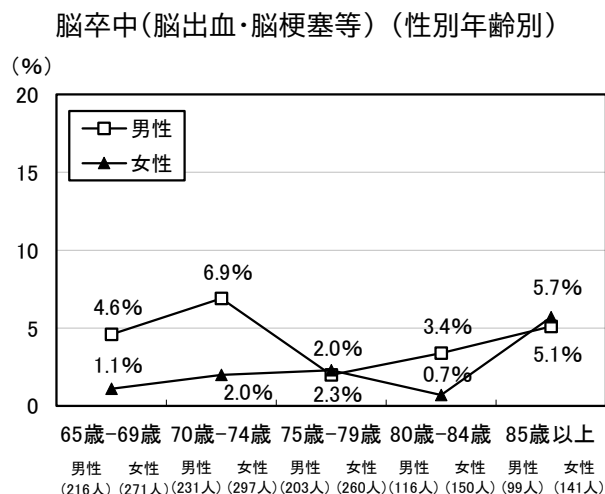
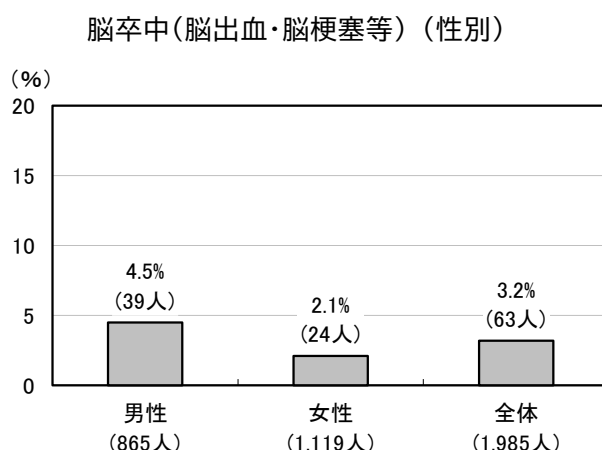
性別年齢別で見ると、男女とも年齢が上がるとともに該当者の割合も上昇する傾向にあり、75歳～79歳では4割台後半、80歳～84歳では5割台後半、85歳以上では6割に達しています。



③脳卒中(脳出血・脳梗塞等)

脳卒中の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は4.5%(前回5.1%)、女性は2.1%(前回2.1%)で、僅かながら男性の方が高くなっています。

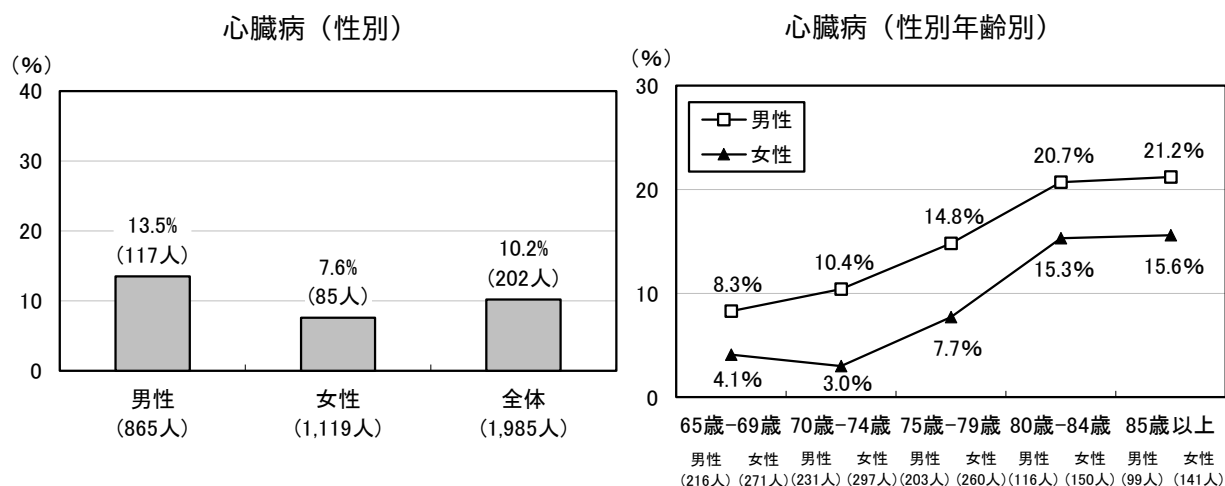
性別年齢別で見ると、男性は70歳～74歳が6.9%と最も高く、その他の年齢層では6%未満となっています。女性では、85歳以上の5.7%が最も高く、80歳～84歳の0.7%を除き、概ね年齢が上がると該当者の割合も上昇する傾向となっています。



④心臓病

心臓病の該当者(回答者)を性別でみると、男性は13.5%(前回12.3%)、女性は7.6%(前回8.3%)で、男性の方が高くなっています。

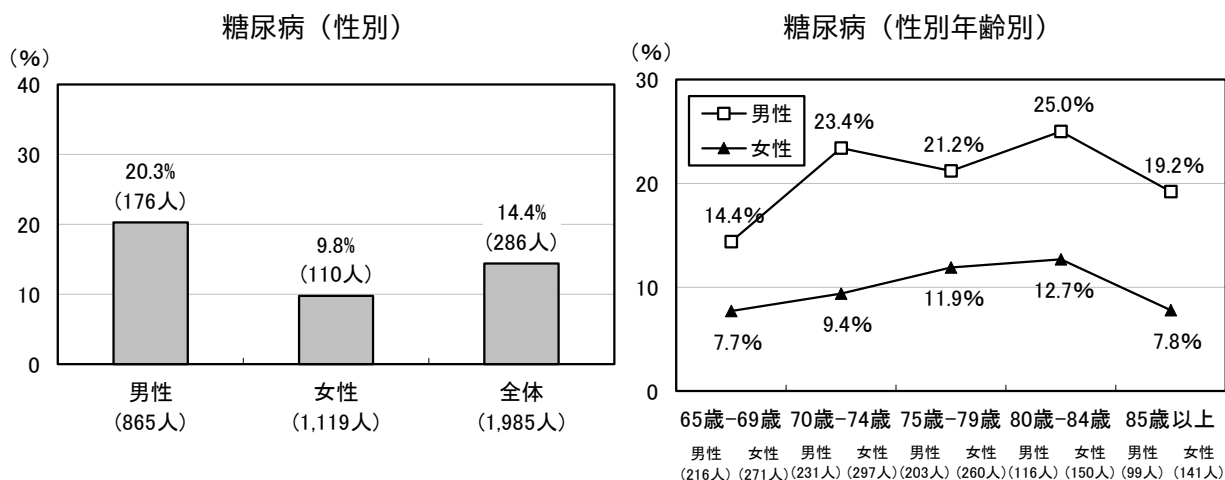
性別年齢別でみると、各年齢層とも男性が女性より高く、また年齢が上がるとともに上昇で推移しています。男性は79歳までは2割未満ですが、80歳以降から2割程度を占めています。女性は79歳までは1割未満ですが、70歳以降1割半ばとなっています。



⑤糖尿病

糖尿病の該当者(回答者)を性別でみると、男性は20.3%(前回17.2%)、女性は9.8%(前回12.4%)で男性の方が高くなっています。前回より、男性の該当者がやや上昇しています。

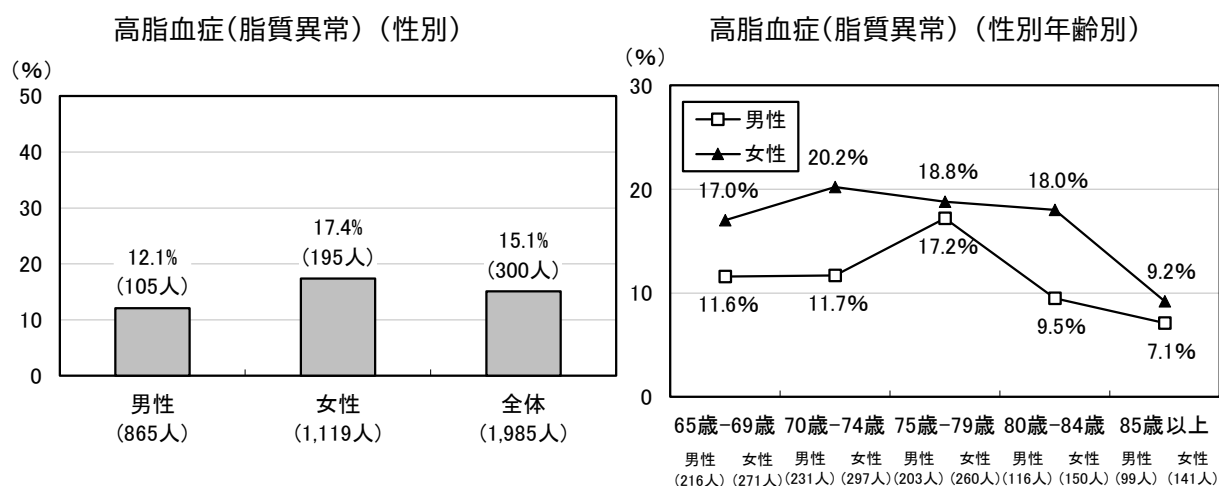
性別年齢別でみると、各年齢層とも男性の方が女性を上回っており、男性は70歳以降で2割前後を占め、70歳~74歳や80歳から84歳の年齢層では2割半ばとなっています。女性では、年齢が上がるとともに該当者の割合が上昇しており、80歳~84歳では12.7%となります。85歳以上では減少に転じ、7.8%となっています。



⑥高脂血症（脂質異常）

高脂血症の該当者（回答者）を性別でみると、男性は12.1%（前回9.0%）、女性は17.4%（前回14.5%）で、女性の方が高くなっています。

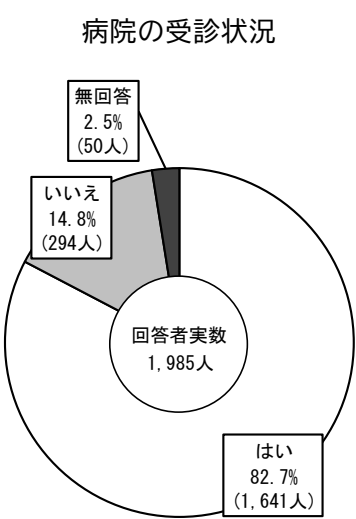
性別年齢別でみると、各年齢層とも女性の方が男性を上回っており、また男女とも年齢が上がるとともに減少傾向で推移しています。男性は75歳～79歳の17.2%が最も高く、85歳以上では7.1%となっています。また女性は、70歳～74歳の20.2%が最も高く、85歳以上では9.2%となっています。



(8) 病院の受診

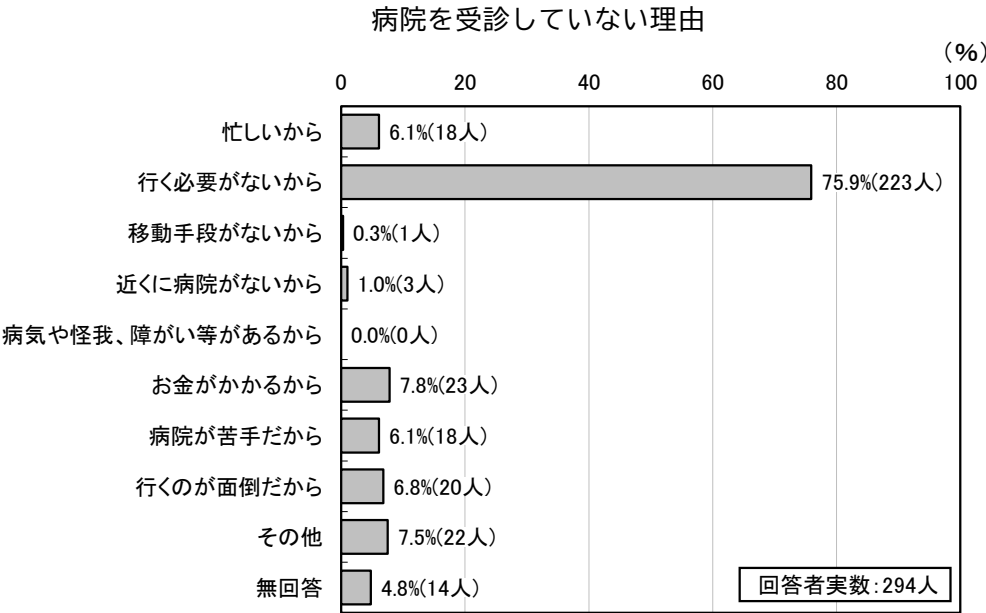
① 病院の受診状況

病院の受診状況について尋ねたところ、「はい(受診している)」が82.7% (前回 81.5%)、「いいえ(受診していない)」が14.8% (前回 16.4%) となっており、8割余りが病院で治療を受けています。



② 病院を受診していない理由

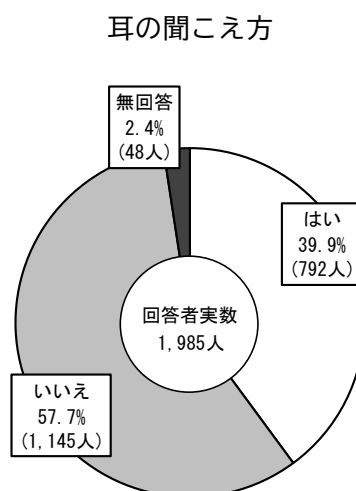
「いいえ」と答えた人に病院を受診していない理由について尋ねると、「行く必要がないから」が75.9% (前回 71.7%) と圧倒的に高くなっています。また、「お金がかかるから」と経済的理由を挙げる回答は7.8% (前回 10.6%) となっています。



(9) 耳について

① 耳の聞こえ方

最近耳の聞こえが悪くなったと感じるか尋ねたところ、「はい」が39.9%、「いいえ」が57.7%となっています。

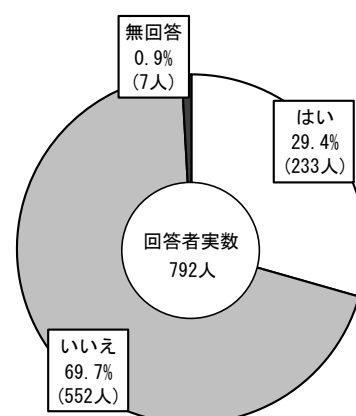


② 耳鼻科の受診や補聴器の使用

最近耳の聞こえが悪くなったと感じている方に耳鼻科の受診や補聴器を使用しているか尋ねたところ、「はい」が29.4%、「いいえ」が69.7%となっています。

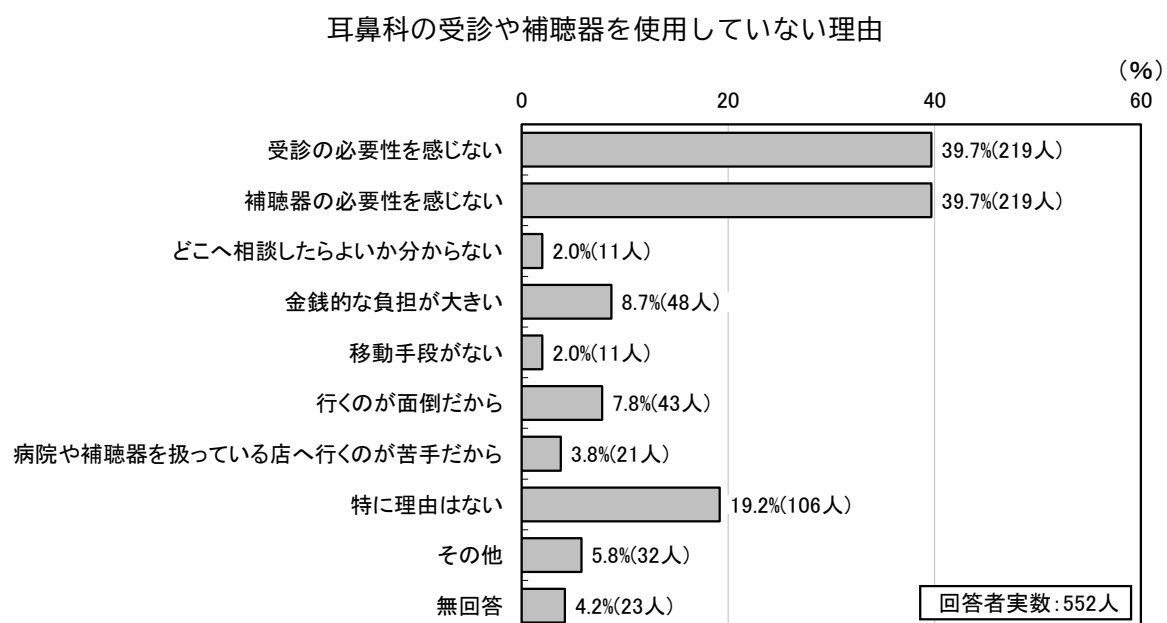
この回答より、高齢者全体における補聴器の利用率は11.7% ($233 \div 1,985$ 人) であることがわかります。

耳鼻科の受診や補聴器の使用



③耳鼻科の受診や補聴器を使用していない理由

耳鼻科の受診や補聴器の使用をしていない方に理由を尋ねたところ、「受診の必要性を感じない」と「補聴器の必要性を感じない」が39.7%でともに約4割を占め、もっと高くなっています。また、「金銭的な負担が大きい」は8.7%、「移動手段がない」は2.0%となっています。

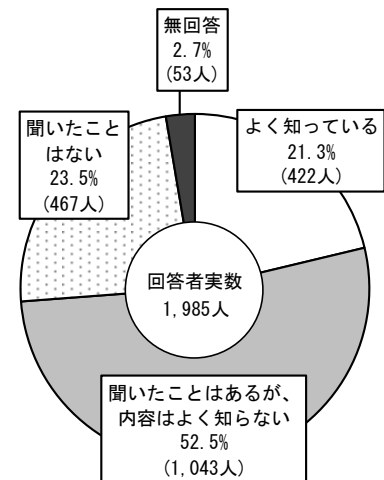


9. 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 軽度認知障害(MCI)について

軽度認知障害(MCI)という言葉を知ったことがあるか尋ねたところ、「よく知っている」が21.3%、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が52.5%、「聞いたことはない」が23.5%となっています。「よく知っている」と「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」を合わせた周知度は、76.0%となります。

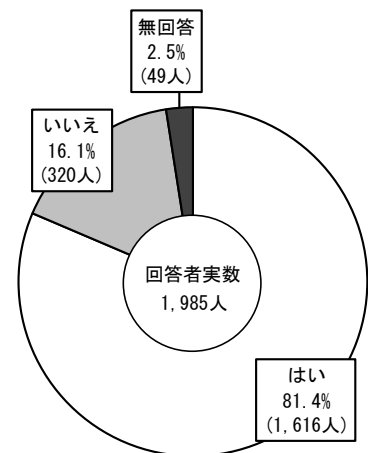
軽度認知障害(MCI)について



(2) 認知症は早期対応が重要であることを知っているか

認知症は早期対応が重要であることを知っているか尋ねたところ、「はい」が81.4%、「いいえ」が16.1%となっています。

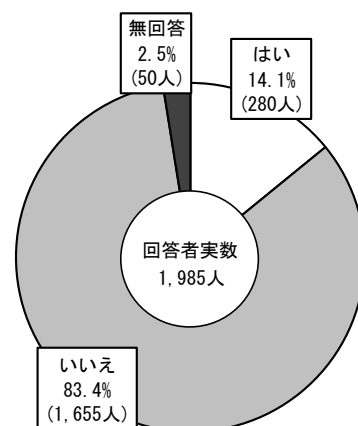
認知症は早期対応が重要であることを知っているか



(3) 家族に認知症の方がいるか

家族に認知症の方がいるか尋ねたところ、「はい」は 14.1%（前回 8.4%）、「いいえ」が 83.4%（前回 87.8%）となっており、1 割半ばが家族に認知症の方がいると答えています。前回調査と比べ、家族に認知症の方がいる割合がやや上がっています。

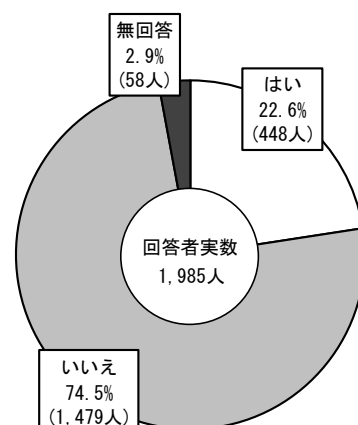
家族に認知症の方がいるか



(4) 認知症に関する相談窓口を知っているか

認知症に関する相談窓口の認知度について尋ねたところ、「はい(知っている)」という回答は 22.6%（前回 20.4%）、「いいえ(知らない)」は 74.5%（前回 76.3%）で、7 割半ばの人は認知症に関する相談窓口について知らないと答えています。

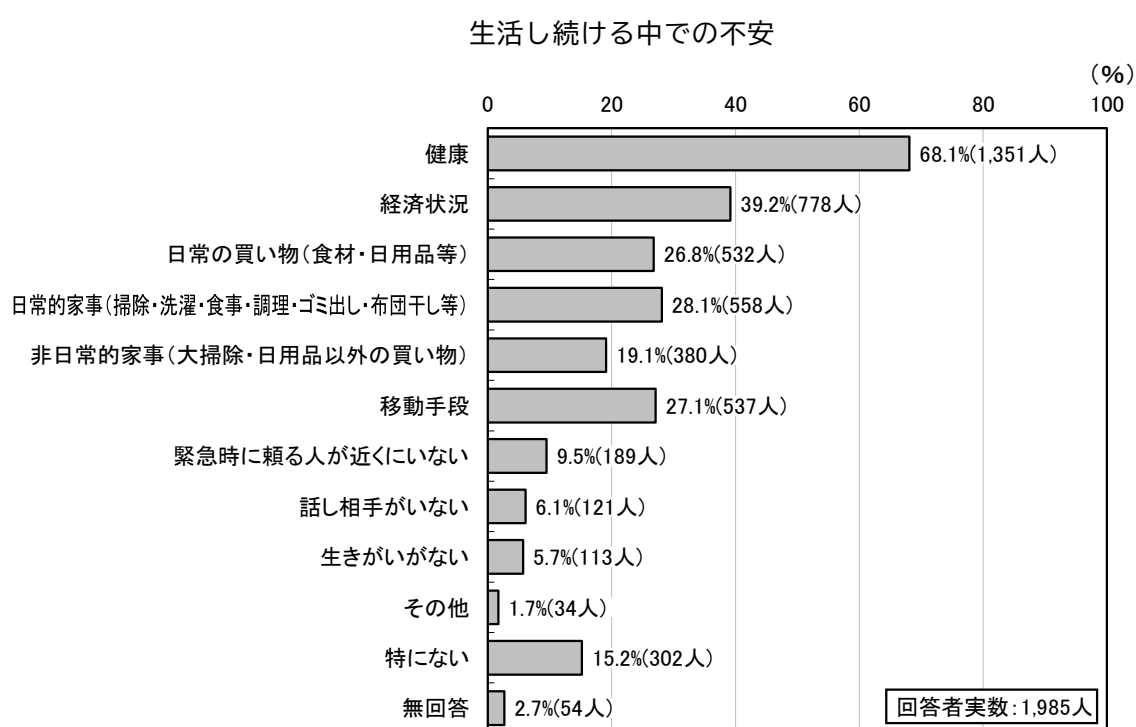
認知症に関する
相談窓口を知っているか



10. その他

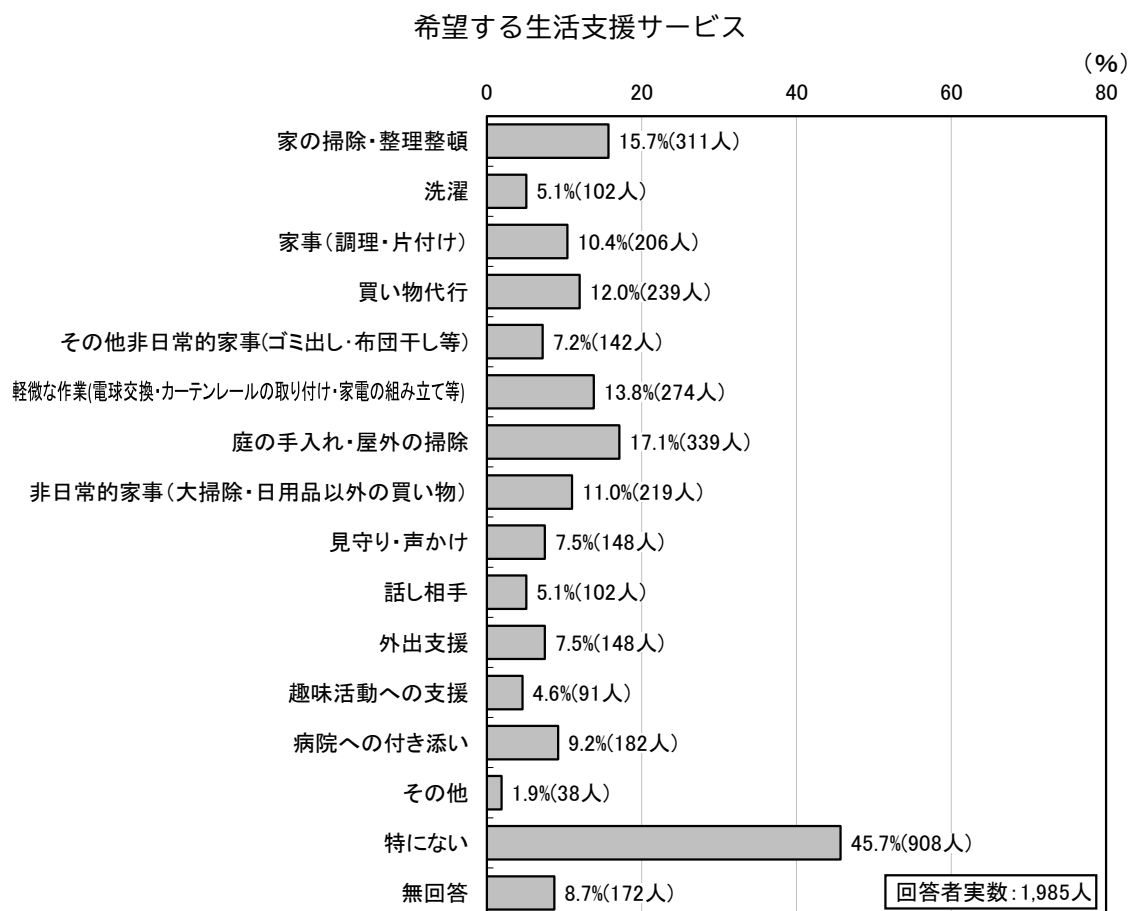
(1)生活し続ける中での不安

お住まいの地域で継続して生活し続ける中で不安に感じることを尋ねたところ、「健康」が68.1%（前回64.0%）で非常に高くなっています。これに次いで、「経済状況」が39.2%（前回37.2%）が約4割を占めています。その他、「日常的家事（掃除・洗濯・食事・調理・ゴミ出し・布団干し等）」が28.1%（前回26.1%）、「移動手段」が27.1%（前回23.0%）、「日常の買い物（食材・日用品等）」が26.8%（32.9%）であり、これらが2割を超えていて比較的高くなっています。



(2)希望する生活支援サービス

希望する生活支援サービスについては、「特にない」が45.7%と高いですが、「庭の手入れ・屋外の掃除」が17.1%、「家の掃除・整理整頓」が15.7%、「軽微な作業（電球交換・カーテンレールの取り付け・家電の組み立て等）」が13.8%、「買い物代行」が12.0%、「非日常的家事（大掃除・日用品以外の買い物）」が11.0%、「家事（調理・片付け）」が10.4%であり、これらが1割を超えて比較的高くなっています。

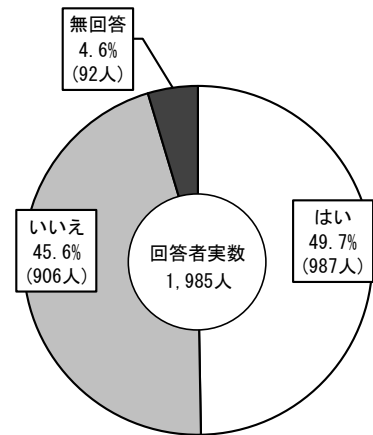


(3)気軽に立ち寄り交流ができる寄り合い場や広場(サロン)について

①寄り合い場や広場(サロン)の利用意向

気軽に立ち寄り交流ができる寄り合い場や広場(サロン)があったら、利用したいか尋ねたところ、「はい」が49.7% (前回 51.5%)、「いいえ」が45.6% (前回 40.3%)となっています。

寄り合い場や広場(サロン)の利用意向

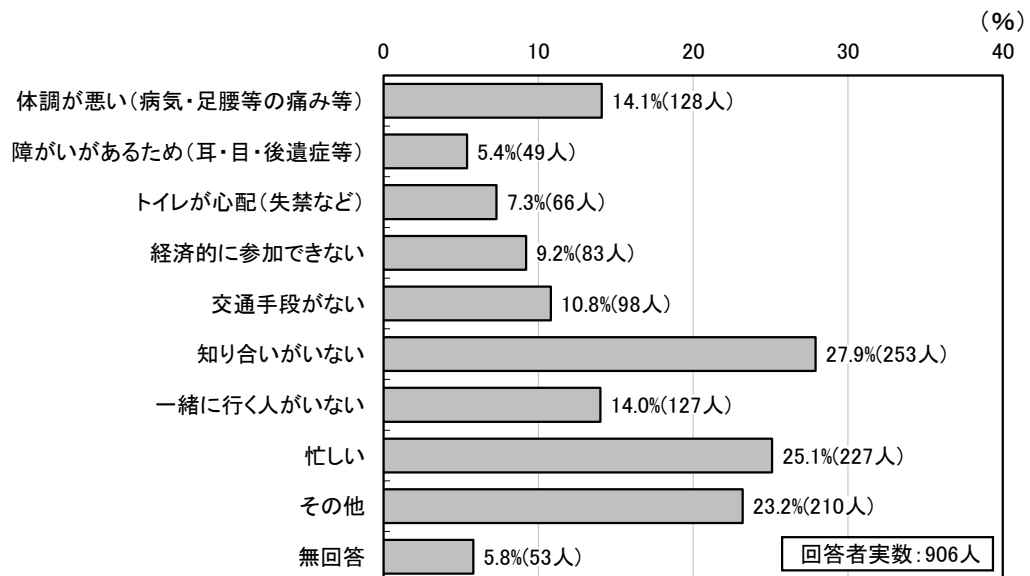


②寄り合い場や広場(サロン)を利用したいと思わない理由

前項で「いいえ」と回答した方に利用したいと思わない理由を尋ねたところ「知り合いがいない」と回答した人の割合が最も高く、27.9% (前回 27.1%) となっています。

次いで、「忙しい」(25.1% / 前回 20.9%)、「体調が悪い(病気・足腰等の痛み等)」(14.1% / 前回 15.5%)、「一緒に行く人がいない」(14.0% / 前回 16.3%)が続いています。

寄り合い場や広場(サロン)を利用したいと思わない理由

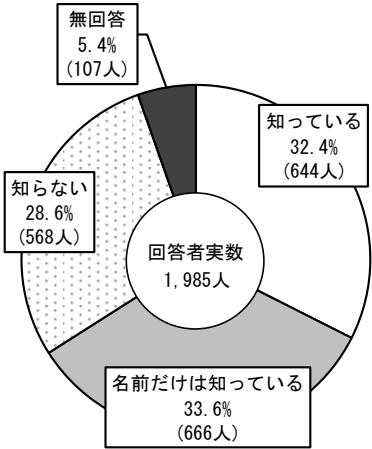


(4)地域包括支援センター

地域包括支援センターの周知状況については、「知っている」が32.4%（前回26.8%）、「名前だけは知っている」が33.6%（前回35.9%）であり、これらを合わせると周知度は66.0%（前回62.7%）となっています。また、「知らない」は28.6%（前回32.6%）を占めています。

前回調査と比べ、周知度がやや上昇しています。

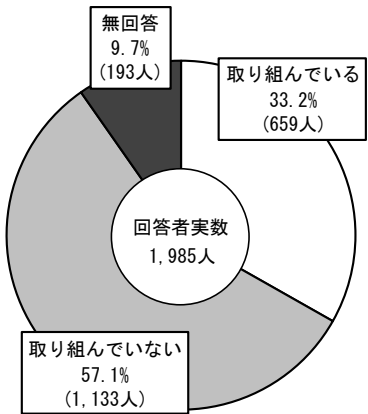
地域包括支援センター



(5)介護予防の取り組み

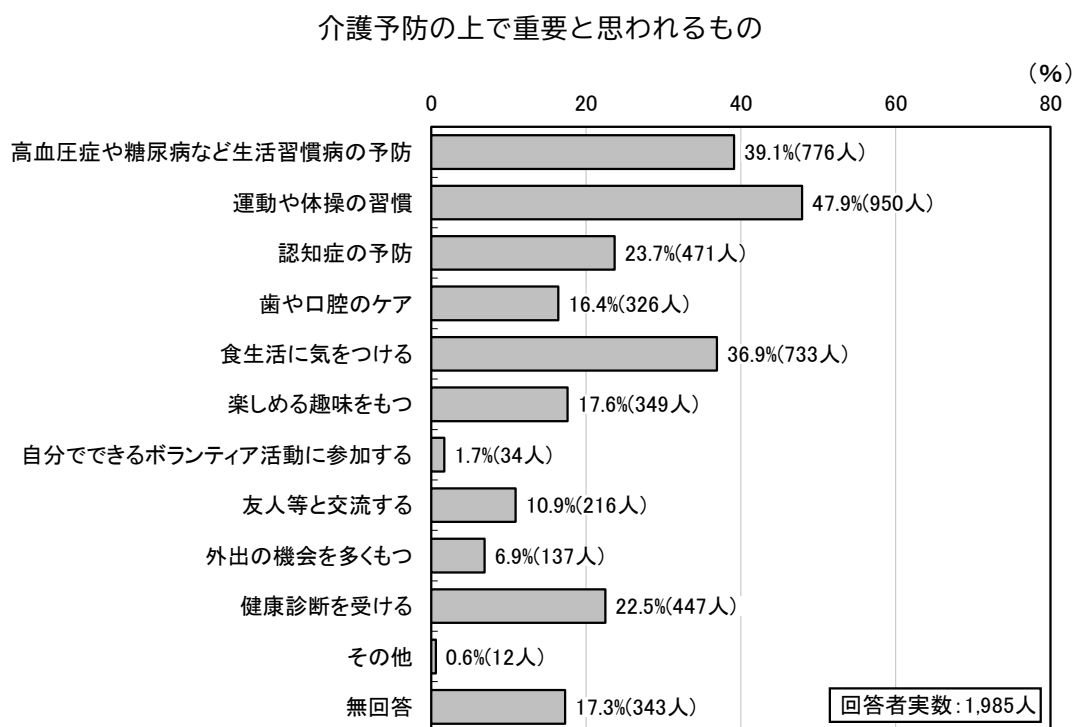
現在、自ら介護予防に取り組んでいるか尋ねたところ、「取り組んでいる」が33.2%（前回34.5%）、「取り組んでいない」が57.1%（前回55.5%）、となっています。

介護予防の取り組み



(6)介護予防の上で重要と思われるもの

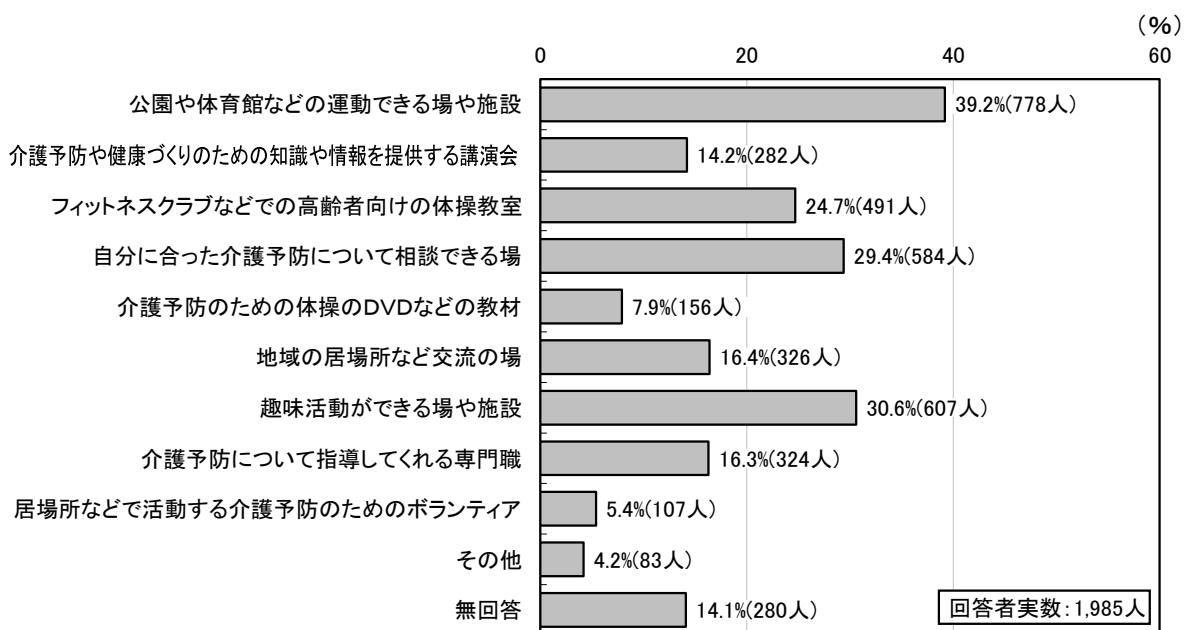
介護予防の上で重要と思われるものを尋ねたところ、「運動や体操の習慣」が 47.9%で最も高く、次いで、「高血圧症や糖尿病など生活習慣病の予防」が 39.1%、「食生活に気をつける」が 36.9%と続いています。また、「認知症の予防」が 23.7%、「健康診断を受ける」が 22.5%であり、これら2つも2割余りを占め比較的高いです。この他は2割未満の回答率となっています。



(7)介護予防に取り組むために必要なもの

市の介護予防の取組として必要なものを尋ねたところ、「公園や体育館などの運動できる場や施設」が39.2%（前回43.1%）で最も高く、「趣味活動ができる場や施設」が30.6%（前回31.0%）、「自分に合った介護予防について相談できる場」が29.4%（前回30.4%）でこの2つが約3割を占めています。また、「フィットネスクラブなどでの高齢者向けの体操教室」が24.7%（前回25.1%）と2割半ばであり、これら以外は2割未満となっています。

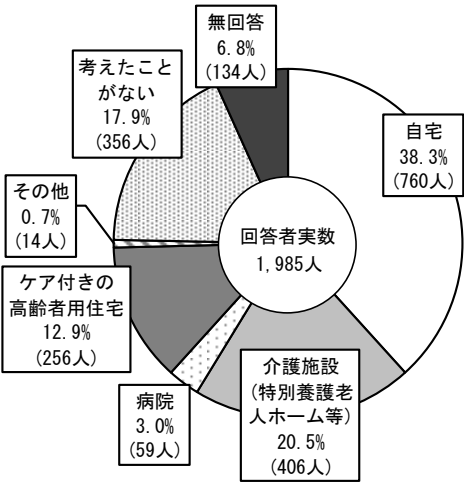
介護予防に取り組むために必要なもの



(8)介護が必要になったら、どこで生活したいか

介護が必要になったとき、どこで生活したいか尋ねたところ、「自宅」が 38.3%（前回 36.5%）で最も高く、「介護施設（特別養護老人ホーム等）」が 20.5%（前回 20.8%）が続いています。一方で「考えたことがない」が 17.9%（前回 18.1%）となっています。

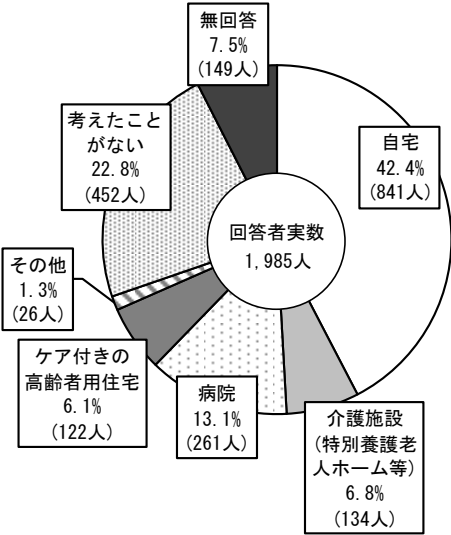
介護が必要になったら、どこで生活したいか



(9)最期を迎えたい場所

最期を迎えたい場所は、「自宅」が 42.4%（前回 42.9%）で最も高く、「病院」が 13.1%（前回 13.7%）となっています。一方で、「考えたことがない」が 22.8%（前回 22.7%）を占めています。

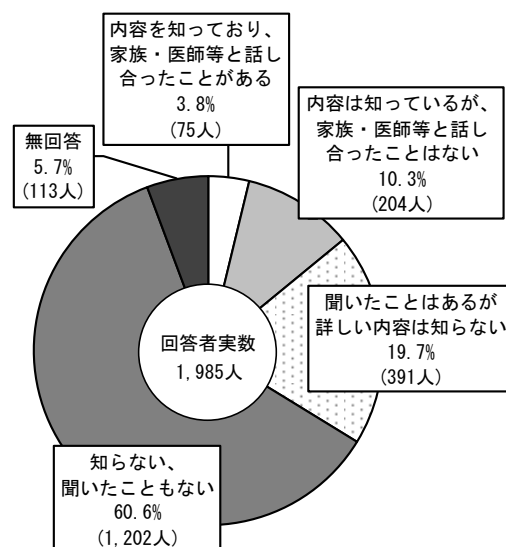
最期を迎えたい場所



(10)人生会議の認知状況

人生会議の認知状況は、「知らない、聞いたこともない」(60.6%/前回 59.1%)が6割を占めています。内容を知っている割合は14.1%(前回 12.8%)であり、1割半ばに留まっています。周知度はわずかながら、前回より上がっています。

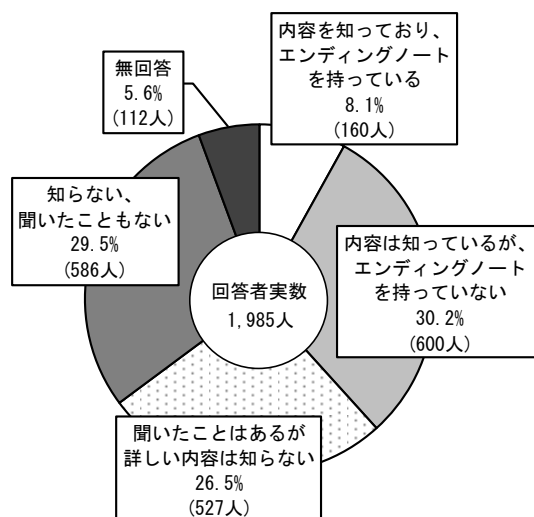
人生会議の認知状況



(11)エンディングノートの認知状況

エンディングノートの認知状況は、「知らない、聞いたこともない」(29.5%/前回 30.6%)が3割弱であり、エンディングノートを持っている割合は僅か8.1%(前回 6.5%)に留まっていますが、前回調査と比べると、持っている割合は僅かながら上がっています。

エンディングノートの認知状況

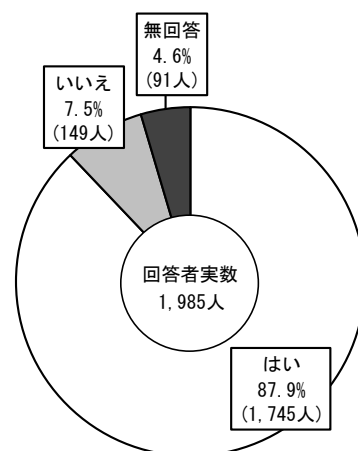


(12)携帯電話(折りたたみ式、スマートフォン)やタブレット等について

①所持状況

携帯電話(折りたたみ式、スマートフォン)やタブレット等を所持している割合は87.9%(前回84.0%)と、9割近くに及んでいます。

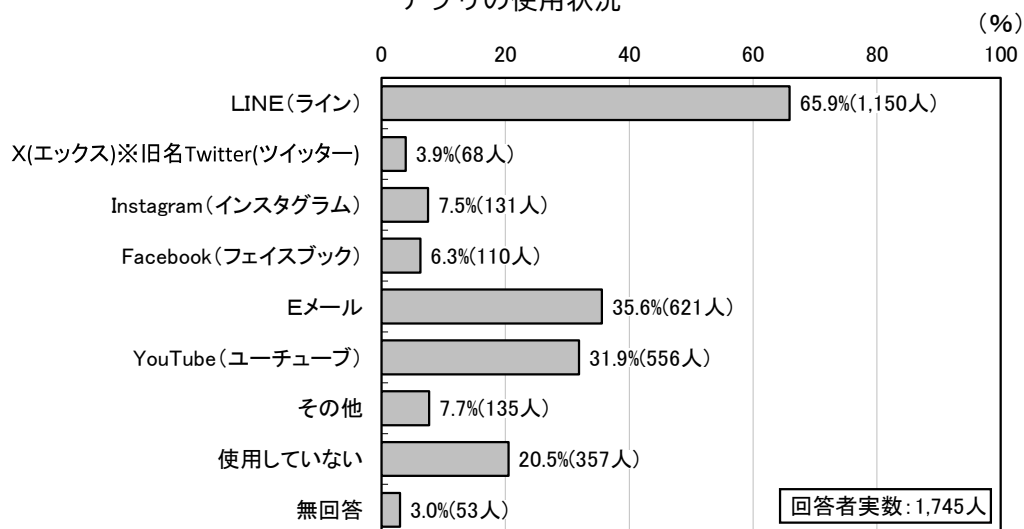
携帯電話等の所持状況



②アプリの使用状況

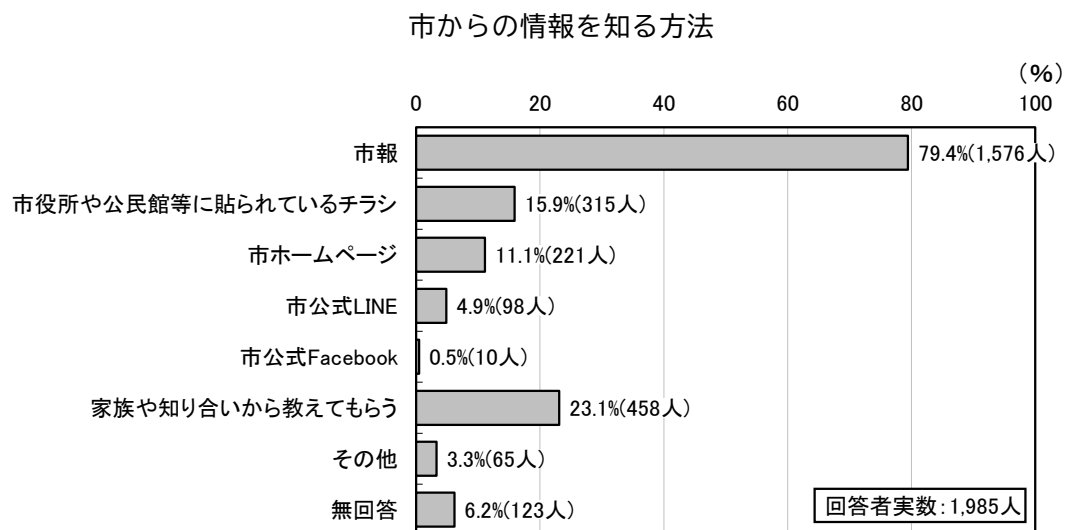
携帯電話等を所持している人のアプリ使用では、「LINE(ライン)」(65.9%/前回57.4%)が6割半ばで最も高くなっています。また、「Eメール」(35.6%/前回37.4%)、「YouTube(ユーチューブ)」(31.9%/前回21.3%)、と続いています。一方で、20.5%が「使用していない」と回答しています。前回調査より、LINEやYOU TUBEを使用する高齢者が増えています。

アプリの使用状況



(13)市からの情報を知る方法

市からの情報入手方法を尋ねたところ、「市報」が 79.4%で圧倒的に高くなっています。次いで、「家族や知り合いから教えてもらう」が 23.1%、「市役所や公民館等に貼られているチラシ」が 15.9%、「市ホームページ」が 11.1%であり、この他の方法は1割未満となっています。



11. リスク者割合の比較

(1) 圏域別の比較

本調査で把握された各身体機能リスク（総合事業対象者、運動器の機能低下などの11項目）について、「リスクあり」や「低下者」の割合を、様々な調査項目と比較し、実態把握や相関関係を確認しました。

リスク者の割合についてみると、市全体では、「社会的役割の低下」と「知的能動性の低下」が特に高くなっています。

圏域別にみると、どの圏域も「社会的役割の低下」、「知的能動性の低下」でリスク者の割合が特に高くなっています。各身体機能リスクについて、圏域別の差は大きくありませんが、普天間地区では、「総合事業」と「口腔機能低下」、宜野湾地区では「社会的役割の低下」、嘉数地区では「認知機能低下」と「知的能動性の低下」が、他地区より高い傾向となっています。また、真志喜地区では、「閉じこもり傾向」が他地区より低くなっています。

リスク者割合の比較

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
全 体	1,985 人	30.1% (597 人)	16.1% (320 人)	29.1% (577 人)	20.6% (409 人)	1.0% (19 人)	21.8% (433 人)
普天間地区	405 人	32.8% (133 人)	17.3% (70 人)	30.9% (125 人)	21.2% (86 人)	1.7% (7 人)	25.4% (103 人)
宜野湾地区	604 人	29.0% (175 人)	15.7% (95 人)	28.6% (173 人)	21.7% (131 人)	0.7% (4 人)	19.5% (118 人)
嘉数地区	429 人	31.2% (134 人)	18.6% (80 人)	28.0% (120 人)	21.9% (94 人)	0.9% (4 人)	21.0% (90 人)
真志喜地区	546 人	28.4% (155 人)	13.7% (75 人)	29.1% (159 人)	17.9% (98 人)	0.7% (4 人)	22.3% (122 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全 体	1,985 人	35.1% (697 人)	34.8% (690 人)	12.6% (250 人)	50.9% (1,009 人)	60.1% (1,193 人)
普天間地区	405 人	37.3% (151 人)	35.6% (144 人)	12.8% (52 人)	50.3% (204 人)	55.5% (225 人)
宜野湾地区	604 人	33.9% (205 人)	30.6% (185 人)	13.3% (80 人)	49.3% (298 人)	62.6% (378 人)
嘉数地区	429 人	35.9% (154 人)	39.6% (170 人)	13.5% (58 人)	53.1% (228 人)	60.1% (258 人)
真志喜地区	546 人	34.2% (187 人)	35.0% (191 人)	11.0% (60 人)	51.1% (279 人)	60.6% (331 人)

(2) 家族構成別の比較

リスク者割合を家族構成別にみると、「配偶者以外と2人暮らし」の家族構成で、「閉じこもり傾向」、「口腔機能低下」、「認知機能低下」、「知的能動性の低下」など多くの身体機能リスクで割合が最も高くなっています。また、「1人暮らし世帯」では「転倒リスク」や「うつ傾向」、「社会的役割の低下」が高くなっています。

リスク者割合の比較（家族構成別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
1人暮らし	481人	36.4% (175人)	21.4% (103人)	35.1% (169人)	21.6% (104人)	1.0% (5人)	24.7% (119人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	670人	23.9% (160人)	10.9% (73人)	24.8% (166人)	18.4% (123人)	1.0% (7人)	19.6% (131人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	69人	18.8% (13人)	10.1% (7人)	31.9% (22人)	23.2% (16人)	1.4% (1人)	10.1% (7人)
配偶者以外と 2人暮らし	187人	40.1% (75人)	19.3% (36人)	31.6% (59人)	29.4% (55人)	0.5% (1人)	28.9% (54人)
3人以上の 同居世帯	476人	28.6% (136人)	16.0% (76人)	26.5% (126人)	16.8% (80人)	0.6% (3人)	19.3% (92人)
その他	61人	41.0% (25人)	24.6% (15人)	36.1% (22人)	24.6% (15人)	3.3% (2人)	27.9% (17人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
1人暮らし	481人	41.2% (198人)	36.4% (175人)	11.0% (53人)	62.4% (300人)	65.1% (313人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	670人	33.1% (222人)	34.0% (228人)	11.2% (75人)	37.9% (254人)	55.7% (373人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	69人	27.5% (19人)	40.6% (28人)	15.9% (11人)	55.0% (38人)	65.2% (45人)
配偶者以外と 2人暮らし	187人	38.5% (72人)	41.7% (78人)	17.1% (32人)	65.3% (122人)	66.3% (124人)
3人以上の 同居世帯	476人	30.9% (147人)	30.9% (147人)	13.7% (65人)	50.4% (240人)	58.4% (278人)
その他	61人	39.3% (24人)	31.1% (19人)	11.5% (7人)	63.9% (39人)	59.1% (36人)

(3) 歯の状況別の比較

歯の健康状況別にリスク者割合をみると、かみ合わせについては全ての項目で、「かみ合わせが悪い」人の方が「かみ合わせが良い」人よりリスク者割合が高くなっています。

また、入れ歯や歯の本数との関係を見ると、「自分の歯は19本以下」の方が、「自分の歯は20本以上」よりリスク者割合が高い項目が多くなっています。

歯のかみ合わせが悪いと様々なリスクを抱える傾向があることや、自分の歯が19本以下でもリスクを抱える割合が比較的高いことが見受けられ、歯の健康が心身の健康や介護予防に関連していることがうかがえます。

リスク者割合の比較（歯の状況別）

			回答者 実数	総合事業	運動器の 機能低下	転倒 リスク	閉じこも り傾向	低栄養の 傾向	口腔機能 低下	
かみ合わせ			良い	1,472 人	23.9% (352 人)	13.3% (196 人)	26.6% (392 人)	18.5% (273 人)	0.8% (12 人)	15.6% (229 人)
			悪い	445 人	50.1% (223 人)	24.9% (111 人)	36.6% (163 人)	27.6% (123 人)	1.6% (7 人)	41.1% (183 人)
入れ歯の 状況	自 分 の 歯 は 20 本 以 上	入れ歯を 利用	286 人	27.6% (79 人)	14.0% (40 人)	27.6% (79 人)	15.7% (45 人)	1.0% (3 人)	19.2% (55 人)	
		入れ歯の 利用なし	617 人	18.8% (116 人)	8.9% (55 人)	23.8% (147 人)	15.1% (93 人)	1.1% (7 人)	12.6% (78 人)	
	自 分 の 歯 は 19 本 以 下	入れ歯を 利用	720 人	36.8% (265 人)	20.6% (148 人)	33.2% (239 人)	24.9% (179 人)	0.8% (6 人)	26.8% (193 人)	
		入れ歯の 利用なし	272 人	36.0% (98 人)	19.1% (52 人)	30.1% (82 人)	20.2% (55 人)	0.7% (2 人)	26.8% (73 人)	

			回答者 実数	うつ傾向	認知機能 低下	I A D L の低下	知的能動 性の低下	社会的役 割の低下	
かみ合わせ			良い	1,472 人	30.0% (442 人)	30.8% (454 人)	10.6% (157 人)	46.0% (676 人)	56.7% (836 人)
			悪い	445 人	52.4% (233 人)	47.4% (211 人)	18.7% (83 人)	67.5% (300 人)	71.9% (320 人)
入れ歯の 状況	自 分 の 歯 は 20 本 以 上	入れ歯を 利用	286 人	30.8% (88 人)	33.9% (97 人)	11.2% (32 人)	38.5% (110 人)	53.8% (154 人)	
		入れ歯の 利用なし	617 人	30.1% (186 人)	30.0% (185 人)	6.5% (40 人)	44.7% (276 人)	57.0% (352 人)	
	自 分 の 歯 は 19 本 以 下	入れ歯を 利用	720 人	38.3% (276 人)	40.3% (290 人)	16.1% (116 人)	55.6% (400 人)	61.2% (441 人)	
		入れ歯の 利用なし	272 人	40.4% (110 人)	29.0% (79 人)	15.4% (42 人)	62.9% (171 人)	66.5% (181 人)	

(4)社会参加別の比較

リスク者割合を社会参加別でみると、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「収入のある仕事」では、「運動器の機能低下」や「転倒リスク」、「閉じこもり傾向」のリスク割合が低くなっています。また、「学習・教養サークル」では「知的能動性の低下」や「うつ傾向」、「IADL の低下」といった身体機能でリスク割合が低くなっています。

「多世代の交流（こども食堂等）」に参加している人でも、「総合事業」や「口腔機能低下」、「社会的役割の低下」などでリスクの割合が低いです。その他、「ボランティアのグループ」では「知的能動性の低下」や「社会的役割の低下」、「収入のある仕事」では「認知機能低下」で、ほかの活動よりもリスク割合が低い傾向にあります。

リスク者割合の比較（社会参加別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
ボランティアのグループ	183 人	18.0% (33 人)	7.1% (13 人)	26.2% (48 人)	6.0% (11 人)	0.0% (0 人)	16.9% (31 人)
スポーツ関係のグループやクラブ	413 人	19.9% (82 人)	6.1% (25 人)	22.3% (92 人)	5.3% (22 人)	0.5% (2 人)	17.2% (71 人)
趣味関係のグループ	479 人	18.8% (90 人)	7.3% (35 人)	23.0% (110 人)	6.7% (32 人)	0.8% (4 人)	14.6% (70 人)
学習・教養サークル	148 人	23.0% (34 人)	8.8% (13 人)	24.3% (36 人)	9.5% (14 人)	0.0% (0 人)	21.6% (32 人)
健康づくりのための集まり	165 人	36.4% (60 人)	26.1% (43 人)	34.5% (57 人)	15.8% (26 人)	0.0% (0 人)	24.2% (40 人)
老人クラブ	129 人	24.0% (31 人)	10.9% (14 人)	33.3% (43 人)	17.1% (22 人)	0.0% (0 人)	19.4% (25 人)
町内会・自治会	277 人	20.6% (57 人)	10.8% (30 人)	28.2% (78 人)	13.4% (37 人)	0.4% (1 人)	16.6% (46 人)
収入のある仕事	494 人	20.0% (99 人)	5.7% (28 人)	21.1% (104 人)	6.5% (32 人)	0.6% (3 人)	17.8% (88 人)
多世代交流の場（こども食堂等）	41 人	12.2% (5 人)	7.3% (3 人)	29.3% (12 人)	7.3% (3 人)	0.0% (0 人)	9.8% (4 人)
模合	486 人	20.6% (100 人)	7.2% (35 人)	22.2% (108 人)	10.5% (51 人)	0.8% (4 人)	16.5% (80 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADL の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
ボランティアのグループ	183 人	28.4% (52 人)	36.6% (67 人)	6.0% (11 人)	26.8% (49 人)	33.3% (61 人)
スポーツ関係のグループやクラブ	413 人	26.9% (111 人)	34.6% (143 人)	4.9% (20 人)	36.9% (152 人)	46.3% (191 人)
趣味関係のグループ	479 人	28.8% (138 人)	35.3% (169 人)	5.0% (24 人)	34.2% (164 人)	41.1% (197 人)
学習・教養サークル	148 人	26.4% (39 人)	37.2% (55 人)	2.7% (4 人)	27.7% (41 人)	41.9% (62 人)
健康づくりのための集まり	165 人	36.4% (60 人)	44.2% (73 人)	20.6% (34 人)	40.0% (66 人)	42.5% (70 人)
老人クラブ	129 人	31.8% (41 人)	41.1% (53 人)	12.4% (16 人)	38.0% (49 人)	39.6% (51 人)
町内会・自治会	277 人	31.0% (86 人)	37.5% (104 人)	10.1% (28 人)	36.5% (101 人)	45.8% (127 人)
収入のある仕事	494 人	30.2% (149 人)	28.1% (139 人)	4.4% (22 人)	50.0% (247 人)	55.0% (272 人)
多世代交流の場（こども食堂等）	41 人	26.8% (11 人)	36.6% (15 人)	2.4% (1 人)	51.2% (21 人)	31.7% (13 人)
模合	486 人	29.4% (143 人)	33.7% (164 人)	6.8% (33 人)	38.0% (185 人)	43.0% (209 人)

社会参加について、各種活動を「週 1 回以上参加」している人と「週 1 回未満」の人と比べると、ほぼ全ての項目において、「週 1 回未満」の方で、リスク者割合が高くなっています。

リスク者割合の比較（社会参加頻度別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
週 1 回以上参加	930 人	24.2% (225 人)	10.2% (95 人)	24.0% (223 人)	8.9% (83 人)	0.8% (7 人)	18.8% (175 人)
週 1 回未満	737 人	36.9% (272 人)	21.7% (160 人)	33.9% (250 人)	31.6% (233 人)	0.8% (6 人)	23.6% (174 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
週 1 回以上参加	930 人	30.8% (286 人)	33.8% (314 人)	7.2% (67 人)	43.9% (408 人)	51.5% (479 人)
週 1 回未満	737 人	40.6% (299 人)	36.5% (269 人)	19.7% (145 人)	58.9% (434 人)	71.4% (526 人)

(5)主観的幸福度別の比較

リスク者割合を主観的幸福度別でみると、「0 点(幸福ではない)」では、ほぼ全ての項目でリスク者割合が高くなっており、「知的能動性の低下」では 8 割、「認知機能低下」では 9 割を超えているほか、「うつ傾向」では全員が該当しています。

また、「0 点(幸福ではない)」のリスク者割合は、「10 点(とても幸せ)」と比較すると「うつ傾向」では 89.9 ポイント、「認知機能低下」では 67.0 ポイントの大きな差となっています。

リスク者割合の比較（幸福度別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
0 点 (幸福ではない)	12 人	66.7% (8 人)	66.7% (8 人)	75.0% (9 人)	50.0% (6 人)	0.0% (0 人)	66.7% (8 人)
1 点～3 点 (やや幸福ではない)	79 人	60.8% (48 人)	43.0% (34 人)	51.9% (41 人)	38.0% (30 人)	2.5% (2 人)	48.1% (38 人)
4 点～6 点 (普通)	594 人	37.9% (225 人)	19.0% (113 人)	33.0% (196 人)	25.3% (150 人)	1.7% (10 人)	27.3% (162 人)
7 点～9 点 (やや幸せ)	898 人	25.4% (228 人)	12.0% (108 人)	26.2% (235 人)	16.3% (146 人)	0.7% (6 人)	18.7% (168 人)
10 点 (とても幸せ)	308 人	19.8% (61 人)	10.7% (33 人)	18.8% (58 人)	15.9% (49 人)	0.3% (1 人)	12.7% (39 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
0 点 (幸福ではない)	12 人	100.0% (12 人)	91.7% (11 人)	25.0% (3 人)	75.0% (9 人)	83.4% (10 人)
1 点～3 点 (やや幸福ではない)	79 人	84.8% (67 人)	57.0% (45 人)	29.1% (23 人)	72.1% (57 人)	77.2% (61 人)
4 点～6 点 (普通)	594 人	52.5% (312 人)	41.1% (244 人)	15.5% (92 人)	58.9% (350 人)	71.4% (424 人)
7 点～9 点 (やや幸せ)	898 人	28.3% (254 人)	31.1% (279 人)	10.1% (91 人)	45.3% (407 人)	54.4% (488 人)
10 点 (とても幸せ)	308 人	10.1% (31 人)	24.7% (76 人)	9.7% (30 人)	41.8% (129 人)	48.1% (148 人)

(6)主観的健康観別の比較

リスク者割合を主観的健康観別でみると、“健康ではない”(「よくない」、「あまりよくない」)の回答者は、「とてもよい」「まあよい」と比べ、全項目でリスク者割合が高くなっています。特に、「よくない」においては全ての項目で最も高く、「社会的役割の低下」では9割、「うつ傾向」では8割余り、「総合事業」では8割近くに及んでいます。

リスク者割合の比較（主観的健康観）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
とてもよい	192 人	6.3% (12 人)	2.6% (5 人)	12.0% (23 人)	8.3% (16 人)	0.5% (1 人)	4.7% (9 人)
まあよい	1,329 人	24.2% (321 人)	10.4% (138 人)	25.4% (337 人)	16.3% (217 人)	0.7% (9 人)	17.8% (237 人)
あまりよくない	349 人	55.9% (195 人)	33.8% (118 人)	47.0% (164 人)	37.2% (130 人)	1.4% (5 人)	38.4% (134 人)
よくない	66 人	77.3% (51 人)	66.7% (44 人)	53.0% (35 人)	43.9% (29 人)	6.1% (4 人)	60.6% (40 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
とてもよい	192 人	9.9% (19 人)	17.7% (34 人)	5.7% (11 人)	40.6% (78 人)	40.7% (78 人)
まあよい	1,329 人	29.6% (394 人)	29.9% (397 人)	9.1% (122 人)	47.7% (634 人)	56.9% (756 人)
あまりよくない	349 人	63.0% (220 人)	57.9% (202 人)	22.7% (79 人)	66.2% (231 人)	76.8% (268 人)
よくない	66 人	84.8% (56 人)	56.1% (37 人)	47.0% (31 人)	57.6% (38 人)	90.9% (60 人)

(7)生きがいの有無別の比較

リスク者割合を生きがいの有無別でみると、「生きがいがない(思いつかない)」方では、全項目でリスク者割合が高くなっています。特に、「社会的役割の低下」で7割半ば、「知的能動性の低下」では6割半ば、「うつ傾向」と「認知機能低下」では4割以上を占めています。

リスク者割合の比較（生きがいの有無別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
生きがいあり	1,120 人	26.0% (291 人)	13.2% (148 人)	25.4% (285 人)	15.3% (171 人)	0.7% (8 人)	19.3% (216 人)
思いつかない	720 人	37.1% (267 人)	21.0% (151 人)	34.2% (246 人)	27.6% (199 人)	1.1% (8 人)	25.3% (182 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
生きがいあり	1,120 人	28.6% (320 人)	31.3% (350 人)	9.4% (106 人)	42.8% (480 人)	52.1% (584 人)
思いつかない	720 人	45.0% (324 人)	40.7% (293 人)	17.9% (129 人)	64.6% (465 人)	75.5% (544 人)

(8)孤独感の有無別の比較

リスク者割合を孤独感の有無別でみると、全ての項目について、孤独を「よく感じる」人でリスク者割合が最も高くなっています。特に「うつ傾向」や「社会的役割の低下」では8割台、「知的能動性の低下」では7割余り、「認知機能低下」では6割余りを占めています。

リスク者割合の比較（孤独感の有無別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
よく感じる	91 人	58.2% (53 人)	39.6% (36 人)	47.3% (43 人)	47.3% (43 人)	4.4% (4 人)	51.6% (47 人)
ときどき感じる	474 人	43.7% (207 人)	24.1% (114 人)	41.1% (195 人)	25.5% (121 人)	1.5% (7 人)	32.3% (153 人)
あまり感じない	715 人	28.8% (206 人)	13.4% (96 人)	26.2% (187 人)	18.0% (129 人)	0.7% (5 人)	20.4% (146 人)
ほとんど感じない	652 人	17.0% (111 人)	8.6% (56 人)	19.5% (127 人)	14.7% (96 人)	0.5% (3 人)	11.2% (73 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
よく感じる	91 人	86.8% (79 人)	63.7% (58 人)	26.4% (24 人)	72.6% (66 人)	81.3% (74 人)
ときどき感じる	474 人	68.4% (324 人)	49.8% (236 人)	17.7% (84 人)	58.5% (277 人)	67.1% (318 人)
あまり感じない	715 人	28.1% (201 人)	31.2% (223 人)	10.7% (76 人)	48.6% (347 人)	60.6% (434 人)
ほとんど感じない	652 人	13.2% (86 人)	23.5% (153 人)	8.4% (55 人)	44.4% (289 人)	50.9% (332 人)

(9)孤食の状況別の比較

リスク者割合を孤食の状況別でみると、全ての項目について、だれかと食事をともにする機会が「ほとんどない」と回答した人で、リスク者割合が最も高くなっています。特に「社会的役割の低下」で8割余り、「知的能動性の低下」で6割半ば、「うつ傾向」で5割半ばを占めています。

リスク者割合の比較（孤食の状況別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
毎日ある	973 人	26.9% (262 人)	13.1% (127 人)	26.5% (258 人)	17.3% (168 人)	1.0% (10 人)	18.6% (181 人)
週に何度かある	267 人	32.6% (87 人)	15.4% (41 人)	28.1% (75 人)	16.5% (44 人)	0.4% (1 人)	24.0% (64 人)
月に何度かある	345 人	32.5% (112 人)	18.3% (63 人)	31.9% (110 人)	22.6% (78 人)	0.9% (3 人)	25.8% (89 人)
年に何度かある	171 人	28.7% (49 人)	18.1% (31 人)	31.6% (54 人)	22.2% (38 人)	0.0% (0 人)	18.1% (31 人)
ほとんどない	193 人	40.4% (78 人)	24.9% (48 人)	35.8% (69 人)	36.8% (71 人)	2.6% (5 人)	31.6% (61 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
毎日ある	973 人	30.9% (301 人)	34.1% (332 人)	14.1% (137 人)	44.8% (436 人)	55.1% (536 人)
週に何度かある	267 人	34.5% (92 人)	34.5% (92 人)	9.4% (25 人)	58.1% (155 人)	57.3% (153 人)
月に何度かある	345 人	36.2% (125 人)	38.0% (131 人)	9.3% (32 人)	51.9% (179 人)	60.0% (207 人)
年に何度かある	171 人	32.2% (55 人)	31.0% (53 人)	10.5% (18 人)	58.5% (100 人)	69.0% (118 人)
ほとんどない	193 人	57.0% (110 人)	40.9% (79 人)	19.1% (37 人)	67.9% (131 人)	82.9% (160 人)

(10) BMI 別の比較

リスク者割合をBMI別でみると、「低体重(やせ型)」は、「口腔機能低下」を除く全ての項目で、リスク者割合が最も高くなっています。特に、「社会的役割の低下」で6割半ば、「知的能動性の低下」で5割半ば、「総合事業」や「うつ傾向」では4割台を占めています。

リスク者割合の比較 (BMI 別)

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
低体重	84 人	42.9% (36 人)	21.4% (18 人)	38.1% (32 人)	27.4% (23 人)	22.6% (19 人)	20.2% (17 人)
普通体重	1,185 人	28.0% (332 人)	12.5% (148 人)	27.4% (325 人)	19.3% (229 人)	0.0% (0 人)	22.4% (265 人)
肥満	640 人	33.3% (213 人)	21.4% (137 人)	31.3% (200 人)	21.4% (137 人)	0.0% (0 人)	20.9% (134 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
低体重	84 人	46.4% (39 人)	38.1% (32 人)	19.0% (16 人)	56.0% (47 人)	66.7% (56 人)
普通体重	1,185 人	33.8% (401 人)	34.5% (409 人)	10.3% (123 人)	49.8% (590 人)	59.5% (705 人)
肥満	640 人	35.3% (226 人)	33.9% (217 人)	14.4% (92 人)	51.9% (332 人)	60.4% (387 人)

(11) 暮らしの状況(経済的)別の比較

リスク者割合を暮らしの状況(経済的)別でみると、「大変苦しい」や「やや苦しい」という回答では、ほぼ全ての項目でリスク者割合が最も高くなっています。

リスク者割合の比較 (暮らしの状況別)

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
大変苦しい	158 人	44.9% (71 人)	30.4% (48 人)	44.9% (71 人)	27.8% (44 人)	1.9% (3 人)	29.7% (47 人)
やや苦しい	533 人	37.5% (200 人)	21.4% (114 人)	33.6% (179 人)	22.3% (119 人)	0.8% (4 人)	29.5% (157 人)
ふつう	1,111 人	25.7% (285 人)	12.5% (139 人)	25.4% (282 人)	19.2% (213 人)	0.9% (10 人)	17.5% (194 人)
ややゆとりがある	105 人	22.9% (24 人)	8.6% (9 人)	21.0% (22 人)	16.2% (17 人)	1.0% (1 人)	18.1% (19 人)
大変ゆとりがある	18 人	16.7% (3 人)	5.6% (1 人)	22.2% (4 人)	11.1% (2 人)	0.0% (0 人)	11.1% (2 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
大変苦しい	158 人	57.0% (90 人)	43.0% (68 人)	20.9% (33 人)	68.3% (108 人)	74.7% (118 人)
やや苦しい	533 人	43.9% (234 人)	42.8% (228 人)	14.1% (75 人)	62.3% (332 人)	65.1% (347 人)
ふつう	1,111 人	29.1% (323 人)	29.6% (329 人)	11.4% (127 人)	45.4% (504 人)	57.1% (634 人)
ややゆとりがある	105 人	22.9% (24 人)	39.0% (41 人)	6.7% (7 人)	30.5% (32 人)	54.3% (57 人)
大変ゆとりがある	18 人	22.2% (4 人)	33.3% (6 人)	5.6% (1 人)	27.8% (5 人)	44.4% (8 人)

(12) 耳の病気の有無別の比較

リスク者割合を耳の病気の有無別でみると、耳の病気が「ある」という回答では、「なし」と比べ、全ての項目でリスク者割合が高くなっています。特に、「運動器の機能低下」、「うつ傾向」、「総合事業」では、割合の差が大きいです。

リスク者割合の比較（耳の病気の有無別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
耳の病気あり	124 人	46.0% (57 人)	34.7% (43 人)	34.7% (43 人)	31.5% (39 人)	1.6% (2 人)	32.3% (40 人)
耳の病気なし	1,757 人	29.4% (517 人)	15.0% (263 人)	28.6% (502 人)	19.7% (347 人)	0.8% (14 人)	21.4% (376 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
耳の病気あり	124 人	53.2% (66 人)	48.4% (60 人)	22.6% (28 人)	50.8% (63 人)	64.5% (80 人)
耳の病気なし	1,757 人	34.7% (609 人)	33.9% (596 人)	11.9% (209 人)	50.6% (889 人)	60.1% (1,056 人)

(13) 所得段階別の比較

リスク者割合を介護保険の所得段階別（標準段階の 15 区分）でみると、所得が低い「1～3 段階（非課税世帯層）」で、4～5 段階（課税世帯層）、6 段階（課税者層）以上の段階と比べ、ほぼ全ての項目でリスク者割合が高くなっています。

リスク者割合の比較（所得段階別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
1～3 段階 (非課税世帯層)	613 人	38.5% (236 人)	24.6% (151 人)	34.3% (210 人)	24.0% (147 人)	1.1% (7 人)	26.3% (161 人)
4～5 段階 (課税世帯層)	401 人	26.4% (106 人)	14.2% (57 人)	25.4% (102 人)	21.9% (88 人)	1.7% (7 人)	19.0% (76 人)
6～15 段階 (課税者層)	942 人	26.2% (247 人)	11.8% (111 人)	27.4% (258 人)	18.0% (170 人)	0.5% (5 人)	20.0% (188 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
1～3 段階 (非課税世帯層)	613 人	42.6% (261 人)	36.9% (226 人)	17.2% (105 人)	61.6% (378 人)	61.5% (377 人)
4～5 段階 (課税世帯層)	401 人	34.4% (138 人)	33.7% (135 人)	11.2% (45 人)	43.9% (176 人)	55.8% (224 人)
6～15 段階 (課税者層)	942 人	30.5% (287 人)	33.9% (319 人)	10.5% (99 人)	46.4% (437 人)	60.9% (574 人)

※ 1～3 段階は本人を含む世帯全員が住民税非課税の層、4～5 段階は本人は非課税でも世帯内に課税者がいる層、6 段階以上は本人に課税がある層を指します。

第1段階から第15段階でみると、所得が特に低い「第1段階」でリスク者の割合が高い傾向となっています。

リスク者割合の比較（所得段階別/詳細）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
1 段階	358 人	39.9% (143 人)	26.8% (96 人)	33.5% (120 人)	28.8% (103 人)	1.7% (6 人)	28.2% (101 人)
2 段階	152 人	39.5% (60 人)	24.3% (37 人)	38.2% (58 人)	17.1% (26 人)	0.0% (0 人)	23.7% (36 人)
3 段階	103 人	32.0% (33 人)	17.5% (18 人)	31.1% (32 人)	17.5% (18 人)	1.0% (1 人)	23.3% (24 人)
4 段階	219 人	24.7% (54 人)	13.2% (29 人)	26.9% (59 人)	21.9% (48 人)	1.8% (4 人)	18.3% (40 人)
5 段階	182 人	28.6% (52 人)	15.4% (28 人)	23.6% (43 人)	22.0% (40 人)	1.6% (3 人)	19.8% (36 人)
6 段階	292 人	26.0% (76 人)	14.7% (43 人)	27.7% (81 人)	21.6% (63 人)	0.3% (1 人)	18.8% (55 人)
7 段階	319 人	27.3% (87 人)	11.3% (36 人)	26.3% (84 人)	18.5% (59 人)	0.6% (2 人)	21.0% (67 人)
8 段階	140 人	25.7% (36 人)	7.9% (11 人)	30.7% (43 人)	15.0% (21 人)	0.0% (0 人)	20.0% (28 人)
9 段階	75 人	24.0% (18 人)	8.0% (6 人)	22.7% (17 人)	12.0% (9 人)	1.3% (1 人)	18.7% (14 人)
10 段階	35 人	28.6% (10 人)	20.0% (7 人)	40.0% (14 人)	11.4% (4 人)	2.9% (1 人)	17.1% (6 人)
11 段階	20 人	25.0% (5 人)	10.0% (2 人)	25.0% (5 人)	30.0% (6 人)	0.0% (0 人)	20.0% (4 人)
12 段階	11 人	9.1% (1 人)	0.0% (0 人)	27.3% (3 人)	9.1% (1 人)	0.0% (0 人)	9.1% (1 人)
13 段階	11 人	18.2% (2 人)	9.1% (1 人)	9.1% (1 人)	9.1% (1 人)	0.0% (0 人)	18.2% (2 人)
14 段階	7 人	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)
15 段階	32 人	37.5% (12 人)	15.6% (5 人)	31.3% (10 人)	18.8% (6 人)	0.0% (0 人)	34.4% (11 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
1 段階	358 人	44.7% (160 人)	36.3% (130 人)	18.7% (67 人)	62.6% (224 人)	62.3% (223 人)
2 段階	152 人	36.8% (56 人)	36.2% (55 人)	13.2% (20 人)	57.2% (87 人)	57.9% (88 人)
3 段階	103 人	43.7% (45 人)	39.8% (41 人)	17.5% (18 人)	65.1% (67 人)	64.0% (66 人)
4 段階	219 人	31.5% (69 人)	32.4% (71 人)	9.6% (21 人)	49.3% (108 人)	52.5% (115 人)
5 段階	182 人	37.9% (69 人)	35.2% (64 人)	13.2% (24 人)	37.3% (68 人)	59.9% (109 人)
6 段階	292 人	30.8% (90 人)	33.6% (98 人)	7.6% (22 人)	55.5% (162 人)	62.3% (182 人)
7 段階	319 人	30.7% (98 人)	33.5% (107 人)	11.0% (35 人)	44.6% (142 人)	60.8% (194 人)
8 段階	140 人	28.6% (40 人)	32.1% (45 人)	10.0% (14 人)	47.8% (67 人)	62.9% (88 人)
9 段階	75 人	24.0% (18 人)	28.0% (21 人)	12.0% (9 人)	37.4% (28 人)	61.4% (46 人)
10 段階	35 人	28.6% (10 人)	42.9% (15 人)	22.8% (8 人)	31.4% (11 人)	54.2% (19 人)
11 段階	20 人	40.0% (8 人)	40.0% (8 人)	25.0% (5 人)	35.0% (7 人)	65.0% (13 人)
12 段階	11 人	36.4% (4 人)	36.4% (4 人)	9.1% (1 人)	27.3% (3 人)	72.7% (8 人)
13 段階	11 人	27.3% (3 人)	27.3% (3 人)	0.0% (0 人)	18.2% (2 人)	36.4% (4 人)
14 段階	7 人	42.9% (3 人)	57.1% (4 人)	0.0% (0 人)	28.6% (2 人)	28.6% (2 人)
15 段階	32 人	40.6% (13 人)	43.8% (14 人)	15.7% (5 人)	40.7% (13 人)	56.3% (18 人)